

For all the students
～すべての学生生徒のために～

令和2年度
教育・研究
活動報告書

取組成果のご報告

福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部
福岡工業大学附属城東高等学校

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学



建学の綱領

一 学徒の品性を陶冶し真の
国民としての教養を啓培する
一 宇宙の真理を探求しこれを
実生活に応用して社会に
貢献する
一 人類至高の精神自由平和
信愛を基調として世界に
雄飛する人材を育成する

学修者本位の教育拠点を目指して

本学園の運営につきましては、平素より格別のご理解とご支援をいただき深く感謝いたします。そして、コロナ禍によって、健康被害、経済的損失等を被られた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

さて、私学の経営状況は、コロナ禍に因らずとも、学齢人口の減少を主因として、全国的に悪化傾向にあります。その状況下であっても、教育機関に対する国・社会の要請は、いっそう多様・高度化しています。教育政策では、①教育の質向上の促進、②Society5.0の実現、③大学等の地域社会貢献支援、④数理・データサイエンス・AI教育の促進、⑤SDGsの実現、⑥ウィズ・アフターコロナの新たな学び方の促進等が示されています。一方、財政政策では、予算配分の基本方針として、「メリハリのある予算配分」が示されています。すなわち、社会の変化に適応し秀出する大学等へ、「選択・集中的に予算(資金)配分」がなされる、厳しい「競争的環境」といえます。

このような環境の中で、本学園は早期から学校改革の重要性を認識し、For all the studentsの理念のもとに20年以上にわたって様々な試みを行ってきました。これらの取組は、「入学志願者の14年連続増加、就職関係指標の9年連続向上(以降、いずれも高位で安定)、3設置校の財政安定化」として結実し、相応の成果を創出しているといえます。本報告書の主要な成果としてまとめておきます。

この教育・研究活動報告書は、学生・生徒・保護者の皆様、卒業生、そして学校運営にご支援をいただく企業・地域の皆様に、本学の教育・研究及び経営・財務の諸取組とその成果について具体的に説明し、いっそう本学園をご活用いただくことを目的としています。この報告書を通じた関係の皆様と本学園の双方向のやりとりは、私どもが諸活動を磨き高めるには欠くことのできない貴重な機会であると存じます。引き続き、教育・研究と経営・財務のいっそうの改革・改善を推し進め、「学修者本位の教育拠点」として、その使命を果たしてまいりますので、どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

令和3年9月1日

福岡工業大学・同短期大学部

学 長 下村 輝夫

INDEX

I.はじめに

- 1.ごあいさつ(学長メッセージ) …………… 1
- 2.マスタープラン(MP)の取組状況・成果の概要(総合的成果)
 - (1)MPの軌跡(年表) …………… 3
 - (2)MP成果の全体像(MP・アクションプログラム(AP)の全体枠組み、戦略①～⑥の相関) …… 4

II.大学の主要な取組成果(マスタープランの取組成果とその外部評価)

- 1.入学志願者・入学者の状況(戦略I) …… 5
- 2.教育力の発揮(戦略II) …………… 7
- 3.研究の高度化(戦略III) …………… 9
- 4.就職力の強化(戦略IV) …………… 11
- 5.グローバル化と地域貢献の推進(戦略V)
 - (1)グローバル化 …………… 13
 - (2)地域貢献 …………… 15
- 6.財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化(戦略VI) …… 17
- 7.学校運営に対する外部評価 …………… 19

III.学校改革(教育改善・研究高度化・就職支援等)の具体的取組状況

- 1.教育改善の取組 …………… 21
- 2.研究高度化の取組 …………… 23
- 3.就職支援の取組 …………… 25
- 4.ラーニングサポートの取組 …………… 27
- 5.キャンパスライフサポートの取組 …… 29

IV.ファシリティ・各設置校の状況(基本プロフィール等)

- 1.キャンパスの施設・設備 …………… 31
- 2.大学院の取組 …………… 33
- 3.短期大学の取組 …………… 35
- 4.附属城東高校の取組 …………… 37

V.バックデータ集

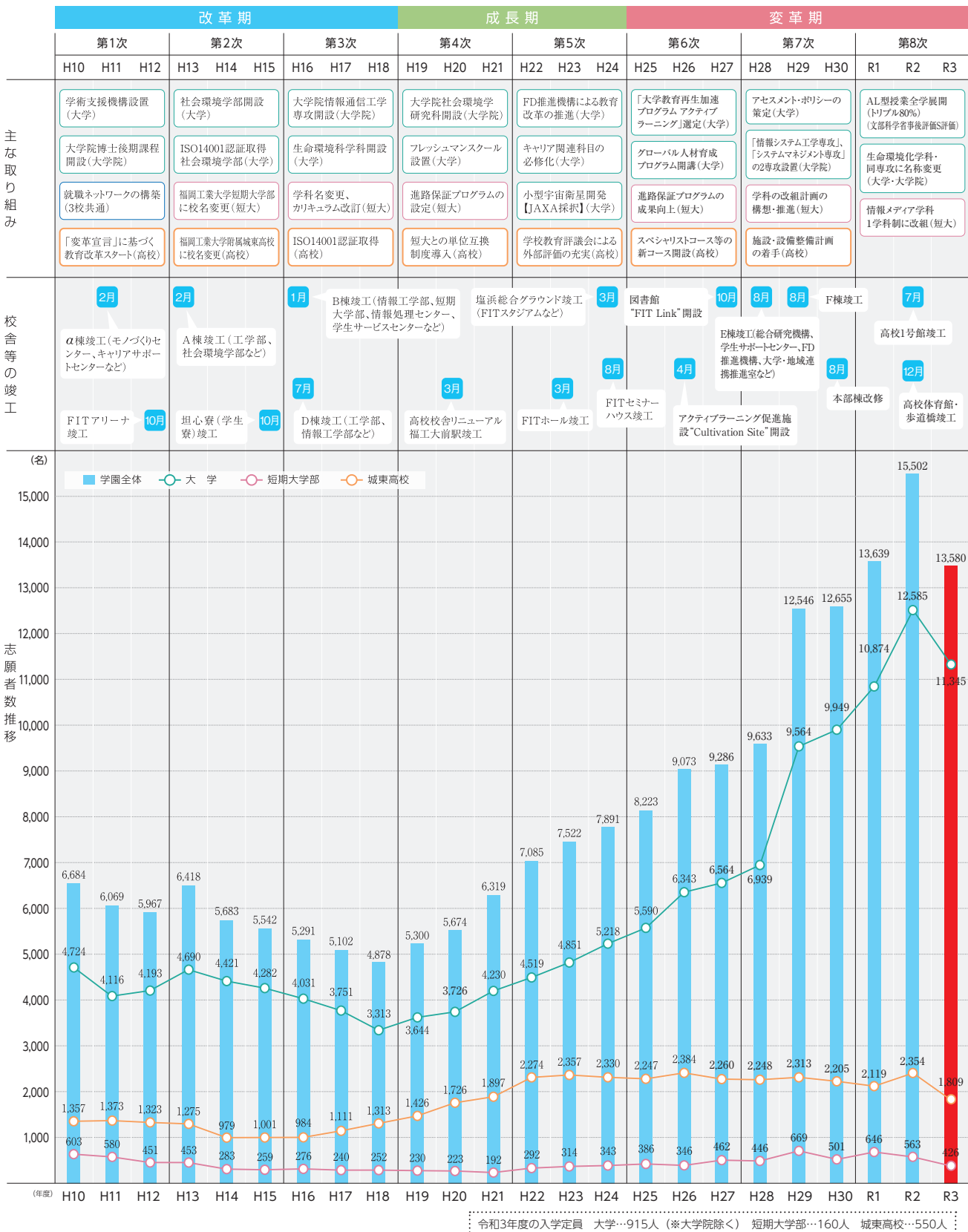
- 1.学生表彰(学会表彰、卒業生表彰、課外活動表彰等) …………… 39
- 2.その他、経営・財務、教育・研究等諸活動のデータ …… 41

マスタープラン(MP)の取組状況・成果の概要

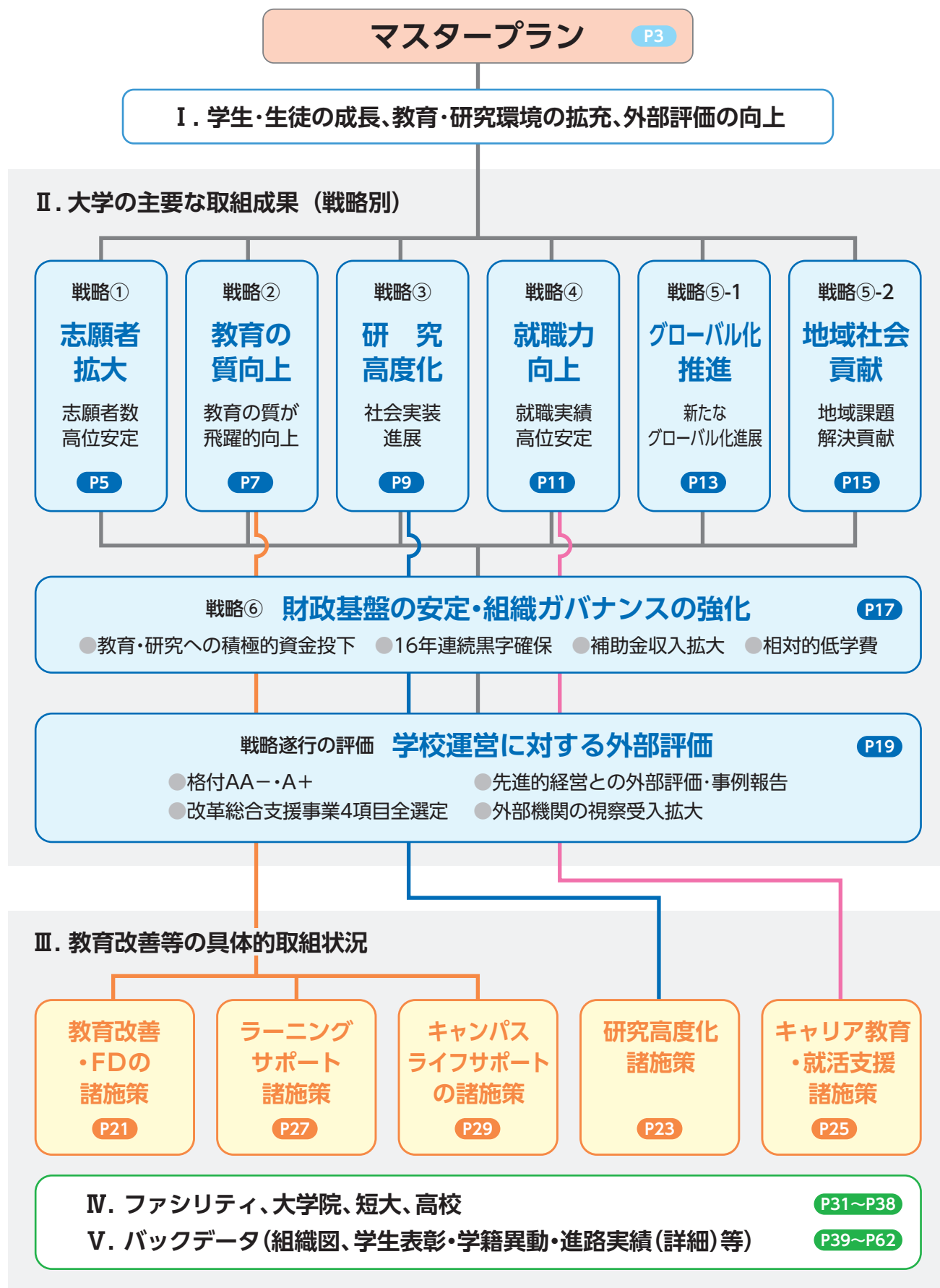
(1) MPの軌跡(年表)

大学は、平成19年から14年連続で入学志願者が増加、令和3年も志願倍率は10倍を超え高水準を維持しています。短大も増加傾向であり、安定して志願者を確保しています。高校は、平成16年度以降8年連続で入学志願者が増加、その後、「県下トップクラス」を維持しています。

■マスタープランの概要



(2) MP成果の全体像 (MP・アクションプログラム (AP) の全体枠組み、戦略①～⑥の相関)

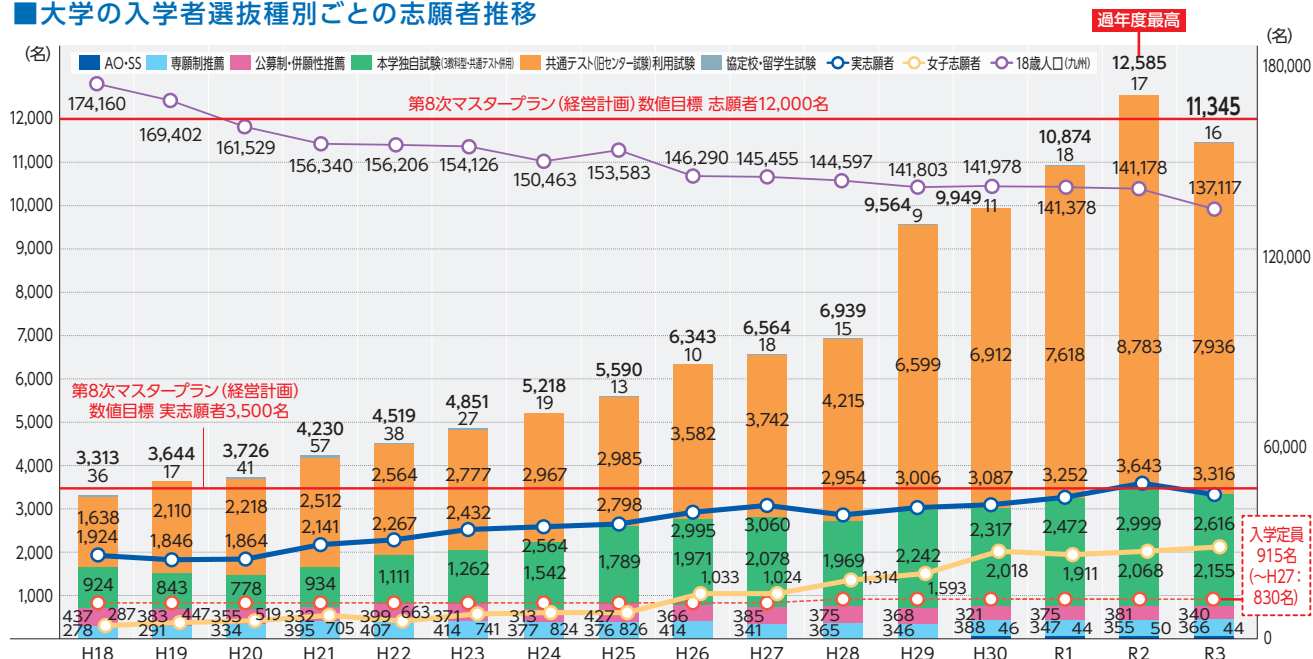


1. 入学志願者・入学者の状況(戦略 I)

入学志願者は14年連続で拡大し、当年度も高位安定。「入学志願倍率5年連続10倍」を達成しました。

令和3年度入学者選抜は、総志願者数11,345名・志願倍率12.4倍・実志願者数3,316名となり、いずれも「過年度最高」であった前年度に次ぐ好結果となりました。

■大学の入学者選抜種別ごとの志願者推移

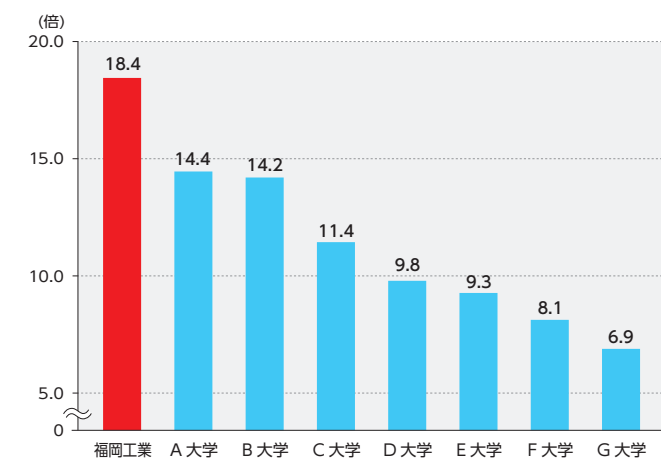


▶ 入学志願者は、コロナ禍による地元志向・安全志向等で、全国私立大学の志願者数が減少(前年比86%、本学同91%)する中でも、高位安定的に推移しています。

一般選抜志願者は3年連続で10,000名以上を確保。入試の難易度も上昇、入学者学力も向上しています。

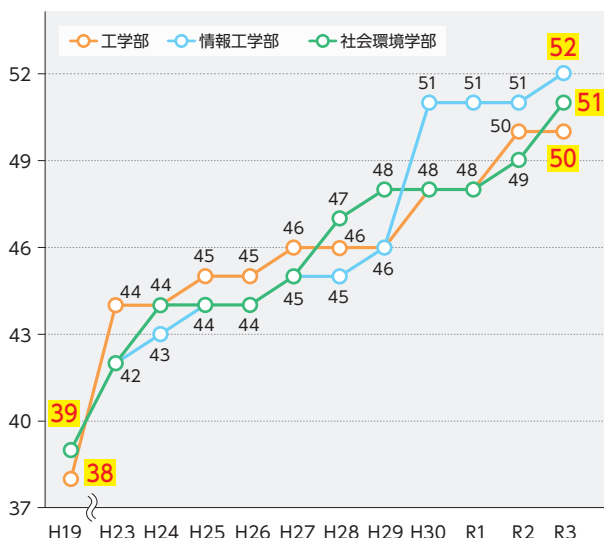
一般選抜志願者(3教科型・共通テスト利用等)は10,568名で、3年連続で10,000名に到達しました。入試難易度は継続して上昇し、入学者学力も大きく向上しています。

■R3年度入学者選抜 主な九州地区私立大学志願倍率比較(一般選抜)



※大学通信調べ

■合格目標偏差値推移(進研模試合格目標偏差値より抜粋)



▶ 一般選抜志願者倍率(3年度18.4倍)は、2年連続で「九州私大1位」となりました。

第一志望入学志願者が拡大し、所定の入学者を継続・安定的に確保しています。

本学を第一志望とする入学志願者も拡大しています。私立大学の約3割が入学定員を確保できない中で、3学部9学科全てが、所定の入学者を継続・安定的に確保(3年度1,050名)しています。

■ 本学入学志願者アンケート調査結果 「本学を第一志望」と回答した入学志願者の割合



■ 「国公立大学への進学が多い高校」からの一般選抜志願者・入学者の割合

年度	R1	R2	R3	R1・R3比	R2・R3比
受験者数 *1	7,141	8,413	7,282	102.0%	86.6%
うち、「国公立大学への進学が多い高校」	3,981	4,974	4,457	112.0%	89.6%
同上比率	55.7%	59.1%	61.2%	—	—
入学者数 *1	484	532	572	118.2%	107.5%
うち、国公立大学受験者数 *2	196	373	351	179.1%	94.1%
うち、「国公立大学への進学が多い高校」	140	264	245	175.0%	92.8%
入学者数に占める国公立大学受験者の比率	40.5%	70.1%	61.4%	—	—
国公立大学受験者数に占める「国公立大学への進学が多い高校」の比率	71.4%	70.8%	69.8%	—	—

*1 附属城東高校除く *2 R1: 出願時のアンケート回答, R2, R3: 入学時のアンケート回答から抽出

▶ 「国公立大学への進学が多い高校」からの一般選抜志願者や入学者の割合が拡大(3年度はいずれも約6割)しています。

■ 学部・学科定員、入学者の推移(10年前・5年前・H29～) いずれの年度も、全ての学部・学科で、定員を上回る入学者を確保

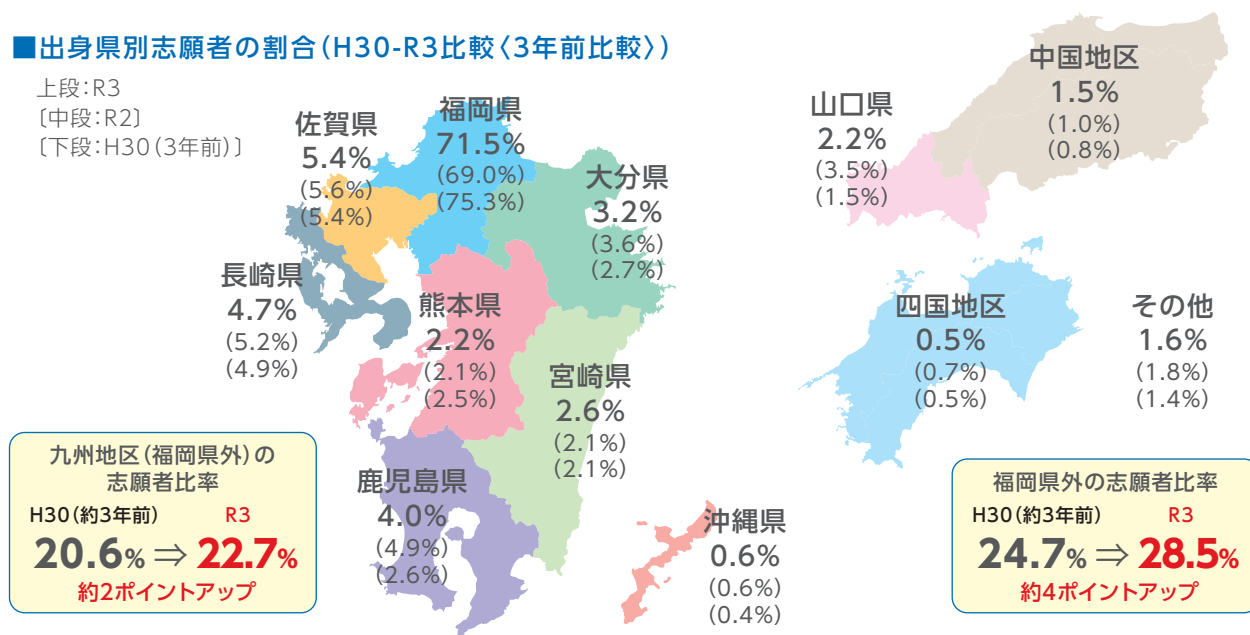
学部・学科	H23(10年前)		H28(5年前)		H29		R1		R2		R3	
	定員	入学者数	定員(以降同)	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	
電子情報工学科	80	95	90	99	102	113	111	95	94			
生命環境化学科	80	84	90	97	109	94	108	97	110			
知能機械工学科	100	101	110	122	132	139	117	125	131			
電気工学科	80	89	90	103	100	94	102	104	131			
工学部	340	369	380	421	443	440	438	421	466			
情報工学科	120	130	130	140	155	151	144	157	134			
情報通信工学科	80	103	90	95	99	99	99	105	107			
情報システム工学科	80	93	90	97	100	127	94	93	94			
システムマネジメント学科	60	74	65	70	82	68	73	71	70			
情報工学部	340	400	375	402	436	445	410	426	405			
社会環境学科	150	168	160	187	194	175	197	174	179			
社会環境学部	150	168	160	187	194	175	197	174	179			
合計	830	937	915	1,010	1,073	1,060	1,045	1,021	1,050			

面倒見の良さ、就職力の高さが高評価。志願者・入学者の出身地は広域化しています。

受験生の安定志向・地元志向の高まり、九州・山口地区理工系他大学との競争激化の中で、福岡県はもとより九州各県、山口県や中国・四国地方からの志願者・入学者が増加(広域化)しています。

■ 出身県別志願者の割合(H30-R3比較<3年前比較>)

上段: R3
[中段: R2]
[下段: H30(3年前)]



▶ 教員と職員が一体となって、模擬・出張講義、研究室公開、高校訪問、教育・研究活動公表等の取組を広範・広域に積極化しています。

2. 教育力の発揮(戦略Ⅱ)

教育内容・方法の改善が飛躍的に進展し、「教育の質」が大きく向上しています。

文部科学省「大学教育再生加速プログラム(H26～R1)」に採択された、「アクティブラーニング(AL)の取組」は、その事後評価(令和3年3月)において、最高のSランクの評価を得ました。また、私立大学等改革総合支援事業においても、4タイプ全選定を継続し、高い評価を受けています。

■アクティブ・ラーニング(AL)型授業の推進(文部科学省大学教育再生加速プログラム)



大学教育再生加速
プログラム(テーマ・
アクティブラーニング)

「計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、事業の目的を十分に達成できた」と評価されました。

■私立大学等改革総合支援事業*



教育の質向上(タイプ1)を重点目標に掲げ、その達成の手立てとして、研究の高度化(タイプ2)、地域社会貢献(タイプ3)、研究の実用化(タイプ4)を総合的・一体的に推進し、すべてのタイプの選定を目指しています。

■8年間(支援事業創設～令和2年度)の選定状況

順位	学校名	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	総計
1	芝浦工業大学		3	4	4	4	4	4	4	4	31
2	金沢工業大学		3	4	4	4	3	4	4	4	30
3	福岡工業大学		1	4	3	4	4	4	3	4	27
3	国際医療福祉大学		3	4	4	4	4	3	2	3	27
5	長崎国際大学		1	0	4	4	5	4	3	4	25
6	武蔵野大学		3	3	3	4	3	2	3	3	24
7	関西学院大学		1	3	3	3	4	3	3	3	23
7	関西大学		2	3	2	3	2	4	4	3	23
9	東京電機大学		3	2	1	3	2	3	4	4	22
9	仙台大学		3	4	3	3	3	3	2	1	22
9	東北公益大学		1	2	3	3	3	4	3	3	22
9	長崎短期大学		2	3	3	2	4	3	2	3	22

▶ *私立大学等改革総合支援事業とは文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団が一体となって、積極的に学校改革に取り組む大学等を評価・選定・支援するものです。

私立大学等改革総合支援事業関係の取組を、全学をあげて総合的に実施

MP(経営計画)の中に、戦略Ⅱ「教育の質向上」、戦略Ⅲ「研究の高度化」、戦略V-2「地域連携の推進」を組み込み、全学をあげて実行していることが、改革総合支援事業4タイプ全選定に大きく貢献しています。

■私立大学等改革総合支援事業4タイプ全選定につながる取組内容

タイプ1 特色ある教育の展開

- ☑ アクティブ・ラーニング授業の全学展開
(教育導入率・授業実施率・学生受講率すべて80%超)
- ☑ 情報リテラシー教育やICT活用型授業の拡大
- ☑ AI・数理・データサイエンス科目の開講・充実
- ☑ 授業の教員相互評価・学生評価による継続的改善

など

タイプ2 特色ある高度な研究の展開

- ☑ 医療・環境・防災分野と情報・工学分野の研究連携
- ☑ 地域再生・高齢者福祉等新たな領域への研究展開
- ☑ 海外大学・研究機関との研究連携
- ☑ 外部(他大学・研究機関、企業研究所等)研究員・研究費の招へい導入
- ☑ 先進的研究装置・設備の積極導入

など

タイプ3 地域社会貢献

- ☑ 地域連携を推進する拠点(福岡未来創造プラットフォームなど)の設置
- ☑ 地域の課題解決の協力・支援(子育て・健康増進・環境活動・観光PRなど)
- ☑ 地元青少年の健全育成の教育活動支援
- ☑ 生涯学習・地域防災教育のオープンカレッジ
- ☑ 地元で活躍する人材育成(地元大学共同事業)

など

タイプ4 社会実装の推進

- ☑ 産学連携を推進する拠点(産官学共同利用オープンラボ運営など)の設置
- ☑ スマート社会実現に向けた研究展開
- ☑ 研究高度化情報の積極公表(先端技術展示会出展等)
- ☑ 地元企業振興に向けた技術開発セミナーの開催(最先端加工技術講習会等)
- ☑ エネルギー、金融、医療など社会インフラ企業との共創活動

など

AL型授業を大学教育の中軸と位置付けて、全学的・組織的に展開

学生の「知識の定着」と「能動的な学習態度の涵養」のために、ALを全学的に展開しています。コロナ禍においても、前年と同様の高い実施率を維持しました。学生1人当たりの授業外学修時間は、継続して向上しています。

■「AL型授業の推進(平成26年度文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP))」の取組状況

ALを導入した
授業科目数の割合

全授業科目の **82.3%**

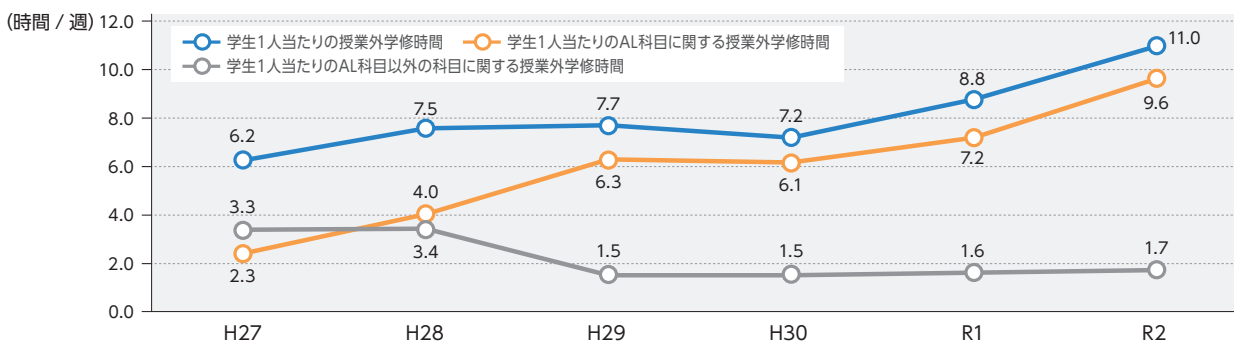
ALを受講する
学生の割合

全学生の **87.7%**

ALを行う
専任教員の割合

全専任教員の **92.9%**

■学生1人当たり授業外学修時間推移(H27~R2)



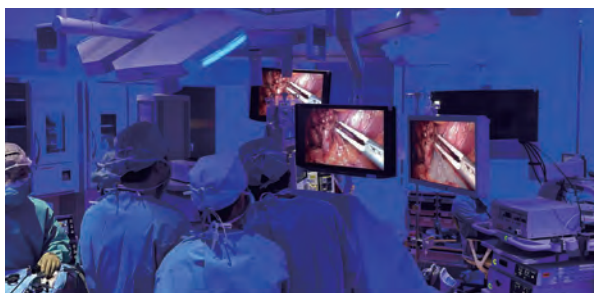
3. 研究の高度化(戦略Ⅲ)

社会の課題解決に向けて、多くの研究成果を創出。
その多くが社会実装として結実しました。

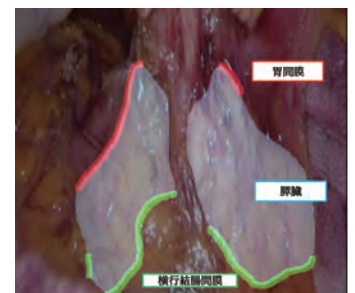
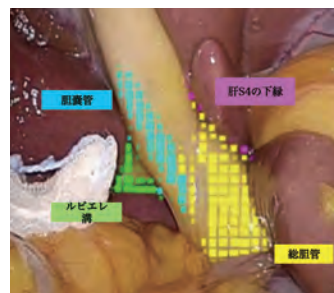
イノベーションは、社会で活用されてはじめて完結する(社会実装)との考えのもと、国・地域・産業界が抱える課題の解決に向け、知財・資金・装置等を集結させ、対応を図ってきました。この結果、特に、医療や防災の技術分野において、実用化が大きく進展しました。

■ 癌患者に対する手術を支援するAIナビゲーション技術の開発 (情報工学部情報システム工学科 徳安教授) *

現在、当研究室では、腹腔鏡下胆嚢摘出術(LC)に加え、胃癌患者を対象とした腹腔鏡下胃切除術(LAG)において、術者を支援するAI開発に取り組んでいます。特に、癌患者に対するAIナビゲーション手術は世界初の試みであり、研究チームの動向には全世界の医療関係者が注目しています。



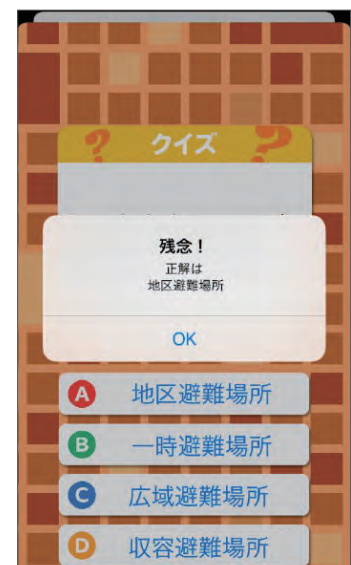
AIが表示した臓器の位置を確認しながら実際に内視鏡手術が行われている様子 LCランドマーク



LAGランドマーク

■ 災害時の避難ルートを学ぶ防災アプリの開発 (社会環境学部社会環境学科 上杉准教授、森山教授)

スマートフォンの地図を見ながら、正しい避難場所や避難経路をクイズ形式で把握し、防災意識の向上に役立つアプリを開発しました。

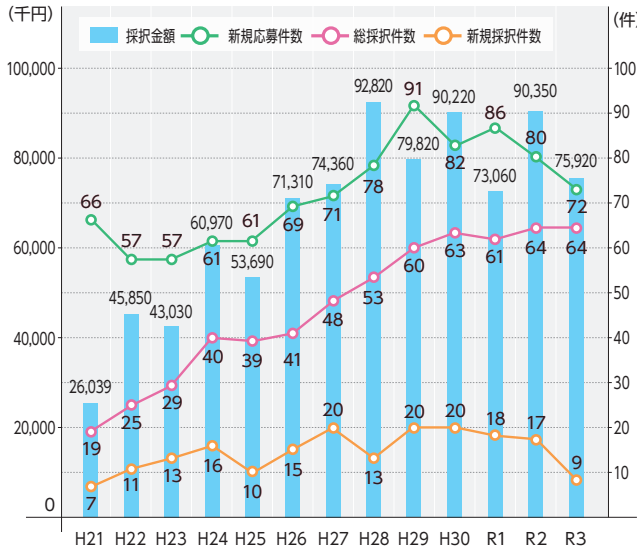


- ▶ *令和元年度から5年間にわたり、日本医療研究開発機構(AMED)の「先進的医療機器・システム等技術開発事業(先進的医療機器・システム等開発プロジェクト)」に採択されています。(研究開発課題名「外科手術のデジタル・トランスフォーメーション:情報支援内視鏡外科手術システムの開発」)(総額42億円、うち本学への助成額は総額2.7億円)

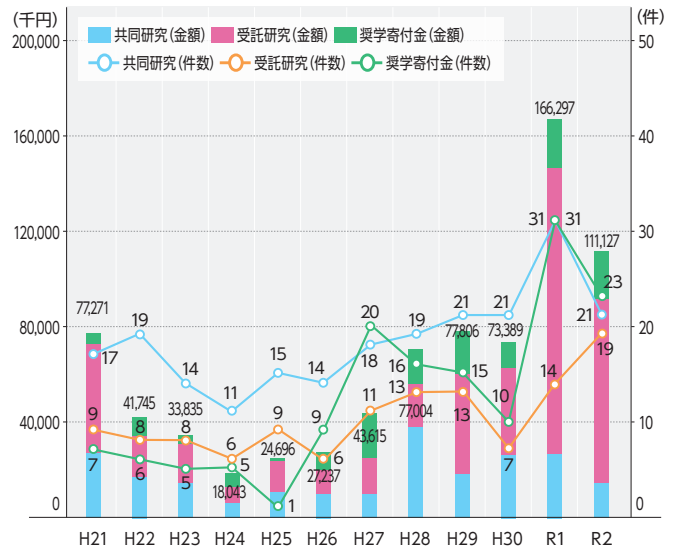
研究助成採択実績が高位安定。国・企業等からの厚い信頼が高評価として結実

近年、科研費*や外部研究資金の取得実績は、高位安定しています。これは社会実装の基盤、並びに第三者からの評価として有効に機能していることを表し、今後もさらに拡大を目指します。

■科研費採択推移 (H21-R3、短期大学部含む)



■外部研究資金の取得実績推移 (H21-R2)



▶ *科研費(科学研究費)助成は、我が国の学術研究を飛躍的に発展させることを目的とする競争的資金であり、独創的・先駆的な研究を助成する制度です。

先進的研究施設・装置を積極的に整備。研究成果の社会実装を効率的に測定・検証

キャンパス全域に分散していた研究機能を整理し、技術開発の拠点としてE棟を竣工しました。ここでは、先進的な研究施設・装置等を用いて、活発に研究活動を進めています。

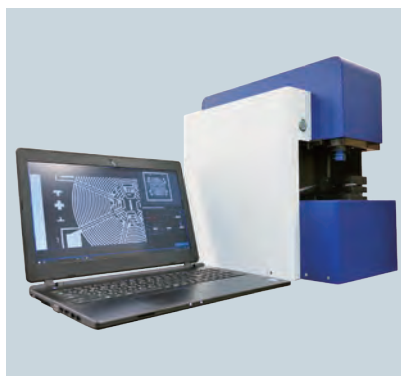
■当年度、新規に導入した分析・測定装置の概要

エポキシダイボンダー



接着剤のディスペンス、スタンピング及びチップピックアップ

マスクレス露光装置



半導体集積回路等作製に必要となるミクロレベルの微細パターン作製に活用

物性測定装置 (PPMS)



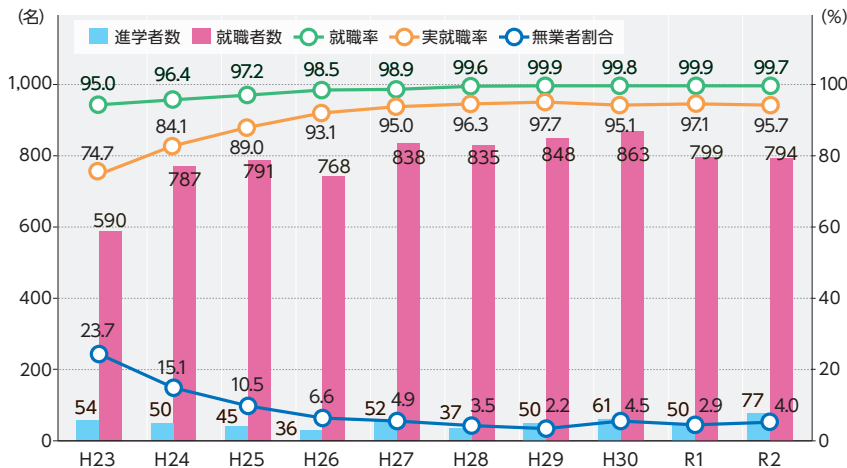
低温・高磁場で材料、半導体などの電気、磁気特性を測定

4. 就職力の強化(戦略Ⅳ)

**実就職率は6年連続で「95%超」を達成。
外部・企業の評価は高位安定しています。**

「自ら考え行動し、多様な分野で創造性を発揮できる実践型人材」の育成を目指しています。初年次からのキャリア教育に加えて、様々な就職支援プログラムを実践し、数値目標を達成、質的充実・学生満足度は高位安定的に推移しています。

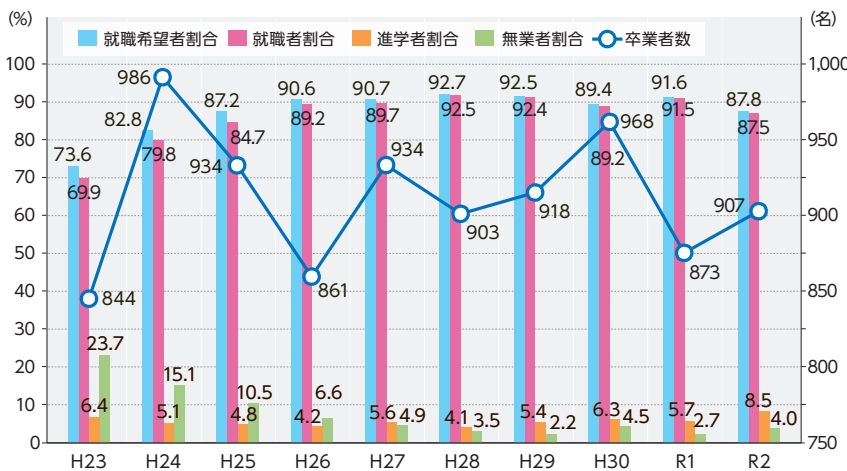
■進路決定状況推移



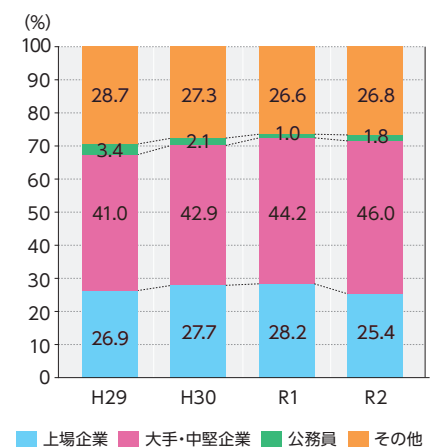
就職率*1
99.7%
実就職率*2
95.7%

*1 就職率=内定者数÷就職希望者数×100
*2 実就職率=内定者数÷(卒業生-大学院進学者数)×100
(大学における進学者は大学院進学者に限る)

■卒業生に対する就職希望者・就職者等割合推移



■企業規模別就職割合



■日経キャリアマガジン特別編集「価値ある大学2022年版」日経HR

『採用を増やしたい大学』
ランキング

全国5位
(九州1位)

『就職支援に熱心に
取り組んでいる大学』ランキング

全国4位
(九州1位)

※全上場企業と一部有力未上場企業の人事担当者から見た大学イメージ調査

※全上場企業と一部有力未上場企業の人事担当者から見た大学イメージ調査

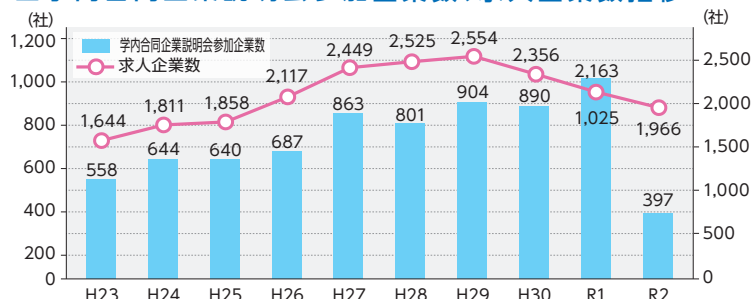
上場企業・
大手・中堅企業
就職シェア率*3
71.4%

*3 大手・中堅企業は資本金3億円以上もしくは従業員数300名以上

企業ネットワークをさらに拡充。学内合同企業説明会をハイブリッドで開催

コロナ禍に迅速に対応し、対面・オンライン併用で学内合同企業説明会を開催（例年、西日本最大級規模で開催）しました。また、業界研究フェアを初開催し、学生の就活を強力にサポートしました。

■学内合同企業説明会参加企業数、求人企業数推移

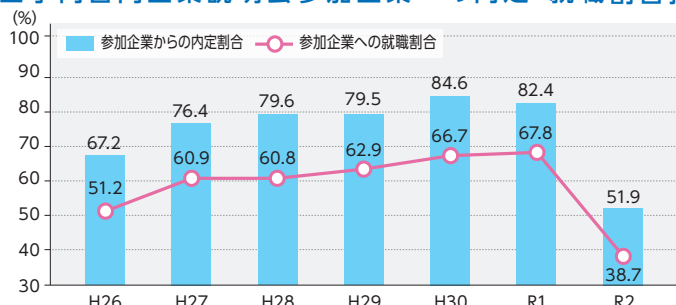


■学内合同企業説明会(オンライン型)



参加学生数:3,557名(延べ数)

■学内合同企業説明会参加企業への内定・就職割合推移



■業界研究フェア



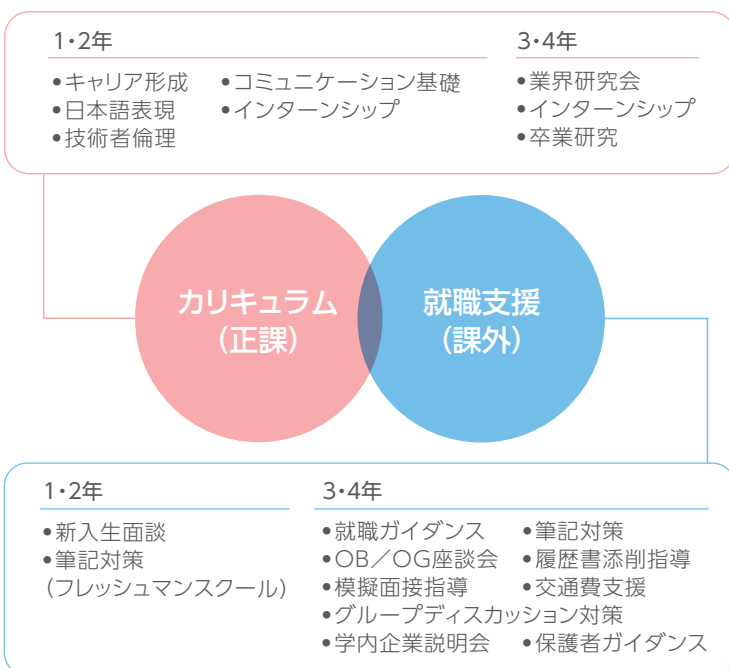
東京・大阪・福岡地区の上場大手・中堅企業60社が来場

▶当年度は、コロナ禍により参加企業数や参加企業への内定・就職割合は前年比減少とはなったものの、多くの学生の「内定」を後押ししました。

正課・課外の様々なキャリア教育を進路決定に総合。就業力向上を強力バックアップ

1年次から体系的なキャリア教育を実施しています。とりわけ、正課の「課題解決型インターンシップ」と課外の「模擬面接・グループディスカッション対策」は、学生の主体性、課題解決力、表現力の向上に大きく貢献しました。

■正課・課外で行うキャリア教育の連関



■課題解決型インターンシップ



東青葉保育園でのHPブログ作成作業の様子
(当年度はコロナ禍で取組を中止)

■キャリア教育・就活支援(模擬面接指導)



当年度は、オンラインでの模擬面接、就職相談等を実施

5. グローバル化と地域貢献の推進(戦略V) (1) グローバル化

学生の「留学力」が向上。グローバルマインド・語学力が大幅にアップしました。

コロナ禍で海外派遣事業がすべて中止を余儀なくされたため、学生のグローバルマインドの維持・向上に向けた様々なオンラインプログラムを実践しました。特に、プログラムの効果を最大限に発揮できるよう、事前準備学習に力を入れた結果、相応の効果を確認しました。

■オンライン英会話プログラムの位置付け

区分/レベル	初級	中級	上級
語学			Brighture <ブライチャー> 【TOEIC400点/CASEC500点程度】
	CPILS <シビルス> 【TOEIC300点/CASEC350点程度】		
	オンライン英会話 (Native Camp, hanaso)		
異文化理解		FIT VALE Program (米国) 【TOEIC350点程度/CASEC450点程度】	
	Virtual Exchange Program (タイ・台湾)【日本語で実施】		

■オンラインプログラムの一覧

目的	名称	使用言語	プログラムの概要
異文化理解	Virtual Exchange Program	日本語	キングモンクット工科大学(タイ・協定校)とのオンライン協働学修プログラム
語学 (初級～)	オンライン英会話	英語	24時間いつでもどこでも世界中の講師と行う気軽な英会話
語学 (初級～中級)	CPILSオンライン留学	英語	フィリピンの老舗語学学校CPILSの集中英語プログラム
語学 (上級)	Brightureオンライン留学	英語	社会人が多く学ぶ上級者向けスパルタプログラム



Virtual Exchange Program修了証書授与式の模様

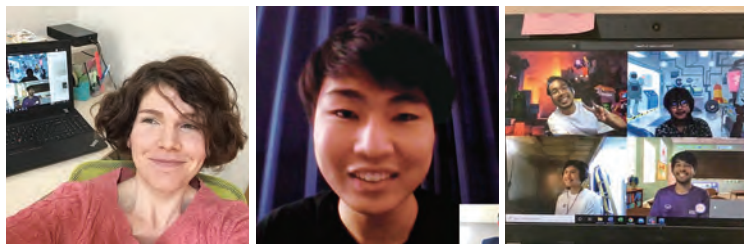


CPILS現地派遣時の様子

グローバル化教育の体制を再構築。ニューノーマル対応として、オンライン学修支援制度を導入

ネイティブスタッフ主体の語学力のレッスン・サポート体制を強化しています。グローバルスチューデントラウンジを学生の国際交流プログラム企画拠点として整備しました。

■ 休校期間中の外国人学生・日本人学生に対する語学学習支援の様子



■ グローバルスチューデントラウンジで学生メンバーが企画会議を行う様子*



英語・英会話指導回数の概要

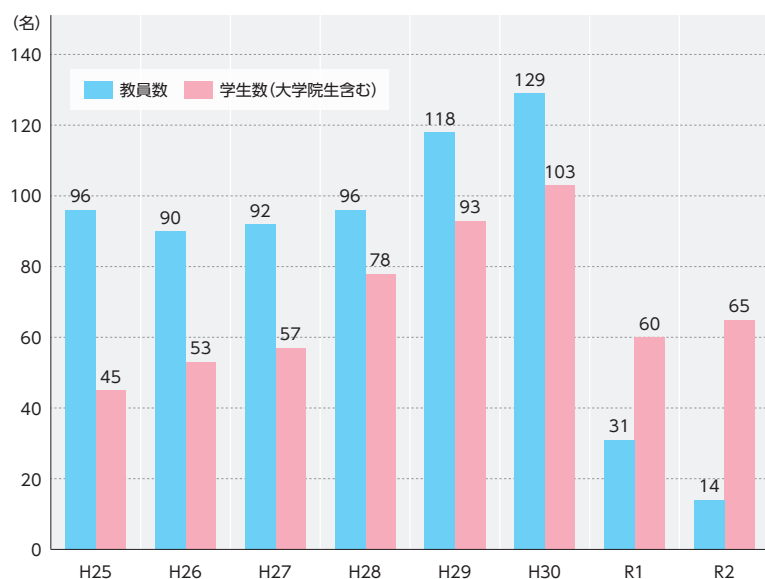
- | | | |
|------------------|-------------------------------|-------------------|
| ①マンツーマンレッスン 299回 | ②論文校閲・翻訳 58回 | ③英語授業科目発音チェック 30回 |
| ④EnglishCafe 23回 | ⑤テーマ別グループレッスン 12回 | ⑥オンライン海外交流支援 9回 |
| ⑦英作文コンテスト支援 7回など | 計438回、学生・教職員延べ1,286名参加 | |

▶ *グローバルスチューデントラウンジ(GSL)を拠点に、国際交流プログラムを企画する学生メンバー会を組織しました。現在、外国人学生と日本人学生合計35名が加入し3チームに分かれて国際交流プログラムの企画をおこなっています。

オンライン留学(海外大学7校)プログラムを新たに導入。ニューノーマル型海外研修にトライアル

キングモンクット工科大学(タイ)、泰日工業大学(タイ)、ネバダ大学(米国)、南フロリダ大学(米国)、国立高雄科技大学(台湾)等、多くの国・大学との間でオンライン留学プログラムを実施しました。外国人学生・教員との交流を通じて、語学力・グローバルマインドの育成に努めました。

■ 国外への教員・学生派遣の状況



▶ 前年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響で派遣教員・学生数が減少しました。

■ FIT・KMITL Cross-Education Project



キングモンクット工科大学(タイ)とのCross-Education Project最終報告会の様子

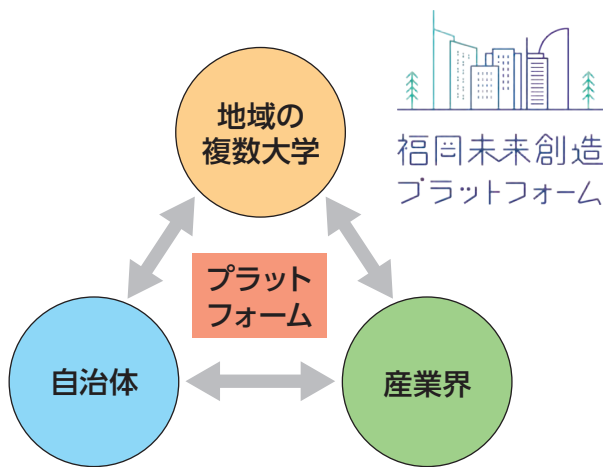
5. グローバル化と地域貢献の推進(戦略V) (2) 地域貢献

地域社会との共創活動を積極化。地域の問題・課題の解決・達成に大きく貢献しました。

「福岡未来創造プラットフォーム」に参画し、高等教育・地域経済活性化への取組を積極化しています。当年度は、地域人材育成、地元就職・定着、生涯学習、大学・自治体・産業界交流の各領域で活動を実施しました。

■「福岡未来創造プラットフォーム」*の概要

<目的>プラットフォームで一体となり、高等教育の振興と地域社会の活性化に資する取組を推進



■学生交流プロジェクトの様子



学生交流プロジェクトメンバー



大橋商店街ランタン点灯イベント

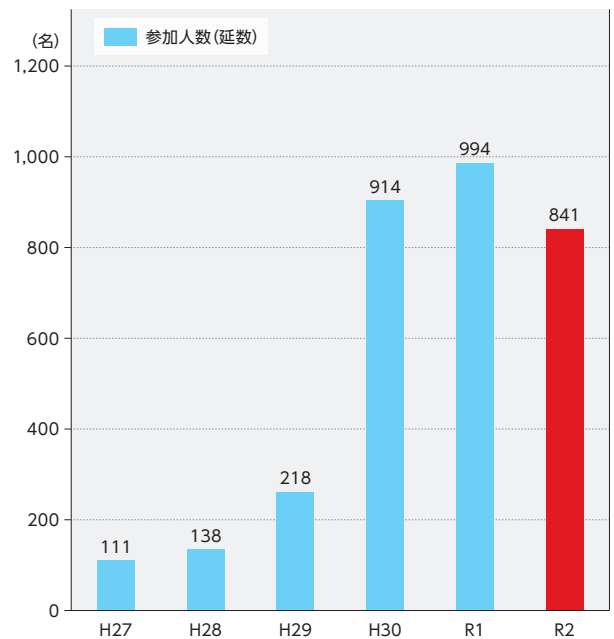


香椎商店街の取材の様子

■「福岡未来創造プラットフォーム」の主な活動(令和2年度)

時期	活動名称
8月	・エンジニアカフェ
9月	・リカレントカフェ ・『ビジネスの基本』～新しい時代の新しい働き方セミナー
10月	・共同FD/SD対話とファシリテーション研修
11月	・「起業塾」活動開始 ・学生交流プロジェクト企画コンペティション ・「SDGsを学ぶ」開講
12月	・「子どもの貧困を科学する」開講 ・「福岡ブランディング大学」開講 ・「福岡12大学!オンライン合同進学説明会」学生派遣
2月	・「福岡ブランディング大学」セミナー
3月	・リカレントカフェ ・「学生交流プロジェクト」大橋商店街ランタン点灯

■地域貢献活動参加学生数(延数)推移



▶ *福岡市を中心とする高等教育の振興と地域社会の活性化を目的に福岡都市圏に位置する大学・自治体・産業界で形成され、令和元年5月に発足しました。個々の資源を共有するとともに大学・自治体・産業界の垣根を超えた取組の実現を目指す枠組みです。

地域社会とのPBL(課題設定・解決型学習)活動を積極化

近隣自治体等と包括的連携協定を締結(当年度は、新たに福岡県篠栗町と協定を締結(令和2年8月))し、ゼミナールや実習科目においてPBLを導入しています。学生が主体的に地域社会の課題解決に取り組み、地域貢献や実践的学習につながっています。

■ 篠栗町との取組



篠栗町調印式(左:下村学長、右:三浦 正篠栗町長)

■ 新宮町との取組



ICT体験授業



ICT体験授業



篠栗町長へのプレゼン



篠栗町長コメントの様子

■ 古賀市との取組



田辺 一成古賀市長との集合写真



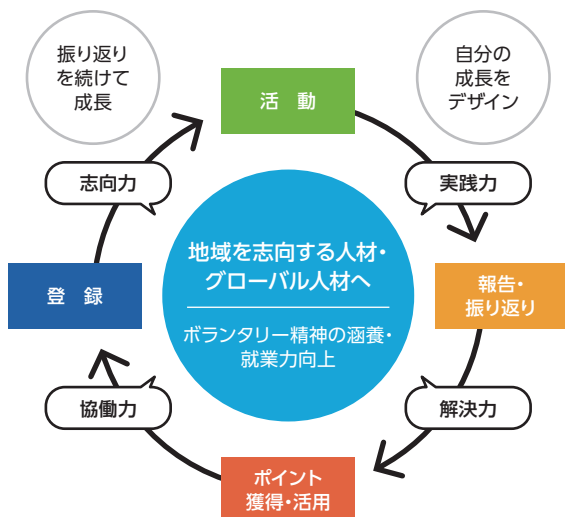
古賀市長へのプレゼン

地域貢献活動を学びのステージとして位置づけ。FITポイント制度でレベルアップ

「FITポイント」制度を本格稼働させ、地域貢献・社会貢献・自己啓発などの課外活動に取り組む学生を支援することで、諸活動の取組を積極化しました。

■ 「FITポイント」制度の概要

地域貢献、自己啓発など大学指定の課外活動に取り組む学生を支援する本学独自の制度。学生の主体的学びや成長につなげることを目的とします。



■ 「FITポイント」活動の様子



デジタル防犯マップづくりの様子



地域の危険な場所等を表示する「デジタル防犯マップ」

■ 「FITポイント」進呈の様子



FITポイント進呈の様子



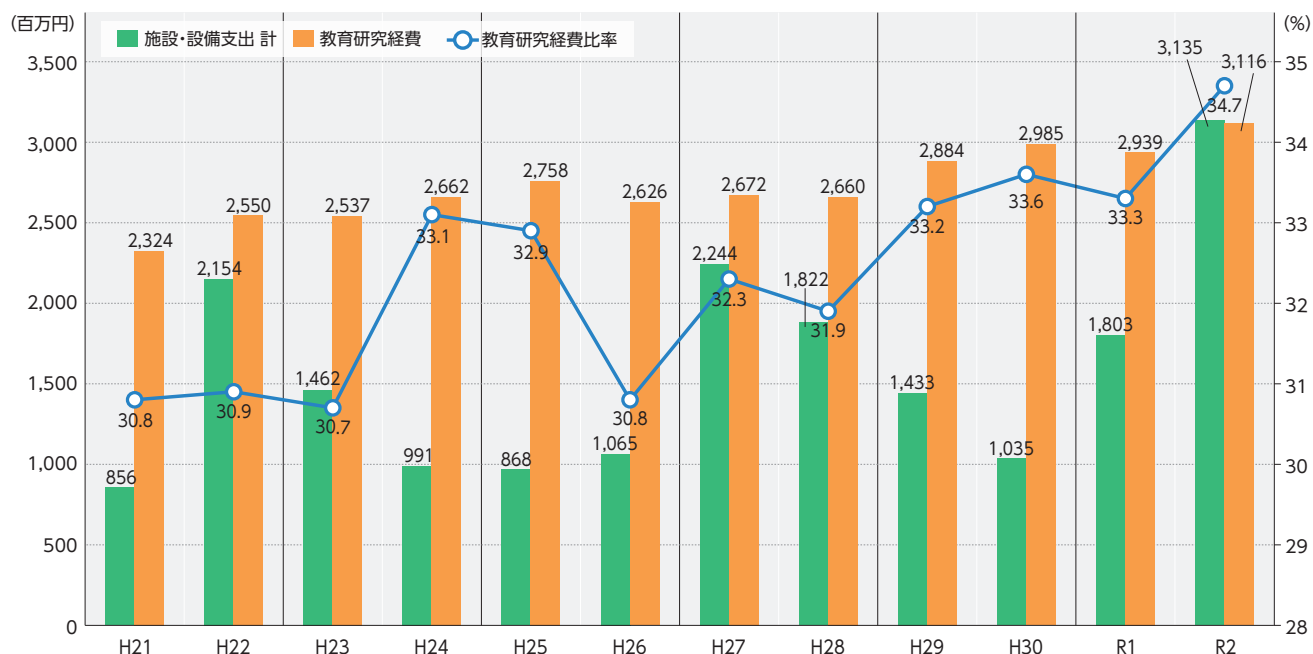
FITポイントは学内売店や書店等で使用可能

6. 財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化(戦略Ⅵ)

健全財政を礎にして、教育・研究活動への資金投下を積極化しています。

経営・財政運営の基本の方針は、「健全財政を堅持しつつ、教育・研究活動へ積極的に資金投下する」ことです。これに沿って、学費の教育・研究活動への最大還元を継続しています。

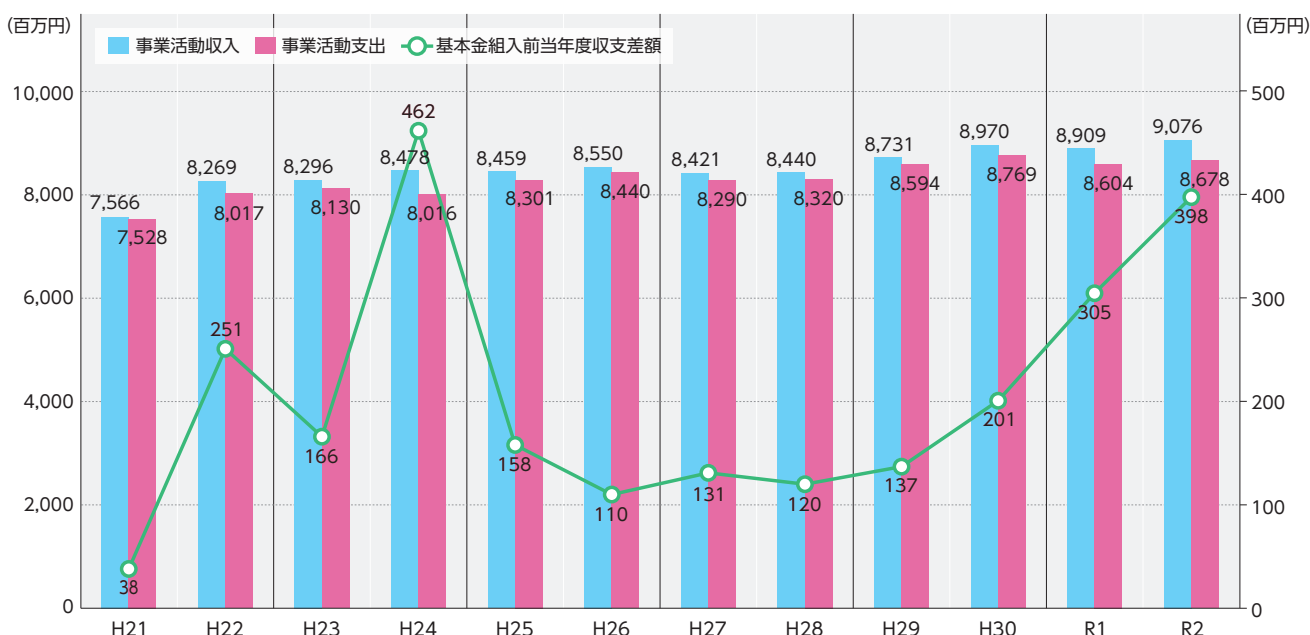
■施設・設備支出、教育研究経費(比率)推移



16年連続で計画どおりの収支差額プラス(黒字)を計上しています。

PDCAによる経営管理の仕組みによって計画実現性を高めています。経営の効率化・安定化を実現し、積極的資金投下と安定財政を高次でバランスさせ、16年連続で計画どおりの黒字を計上しました。

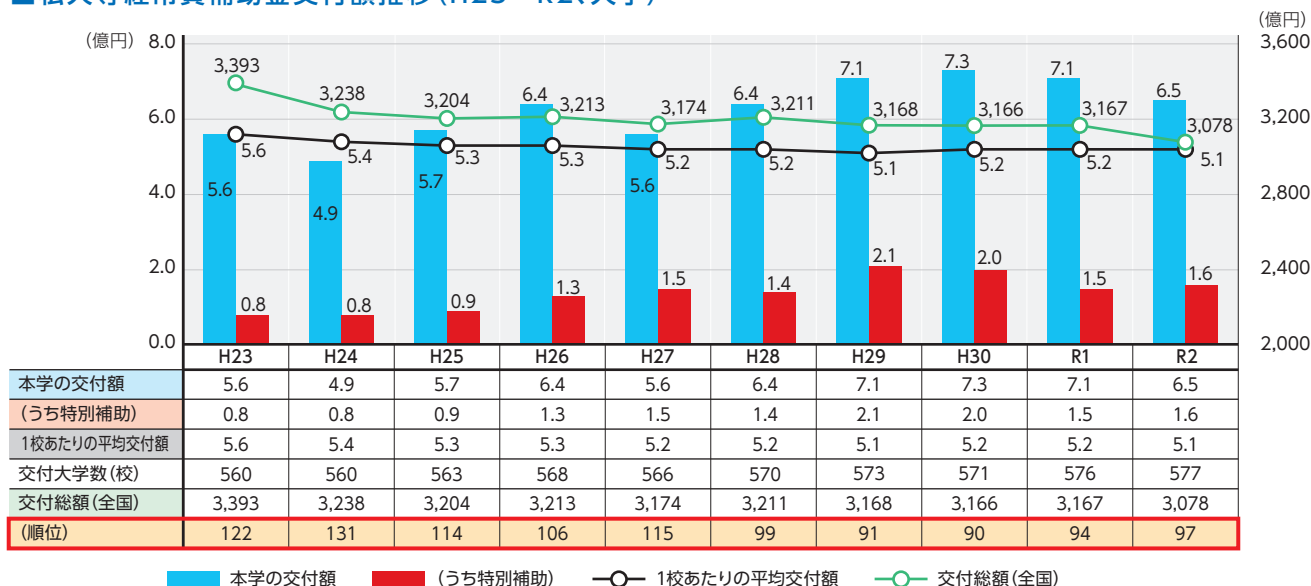
■基本金組入前収支差額推移



国等の助成事業(社会ニーズ)との適合度合いを高め、補助金は高水準を維持しています。

全国私立大学等の経常費補助金が減少する中、私学行政の求めに沿って教育・研究活動や学校運営の改善を積極的に進めることによって、経常費補助金は高い水準を維持しています。

■私大等経常費補助金交付額推移(H23～R2、大学)

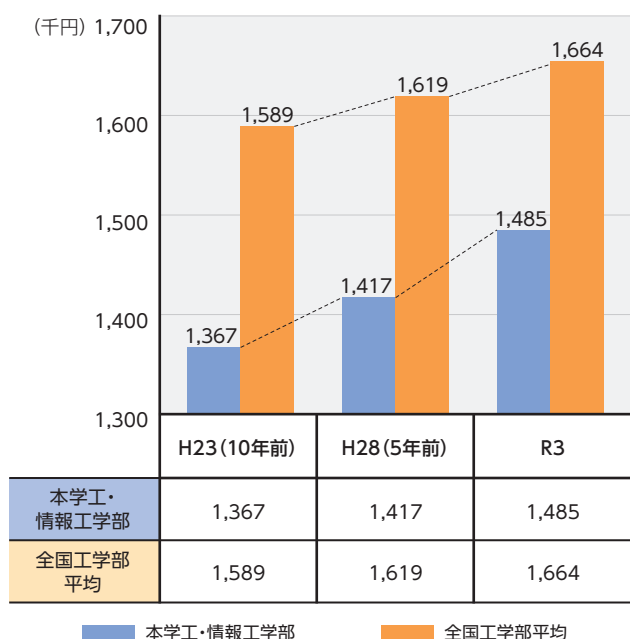


▶ 補助金交付順位は学校改革取組の活発さに比例する傾向があります。本学の順位は、141位／480校(15年度)から、90位／571校(30年度)に上昇し、安定しています。

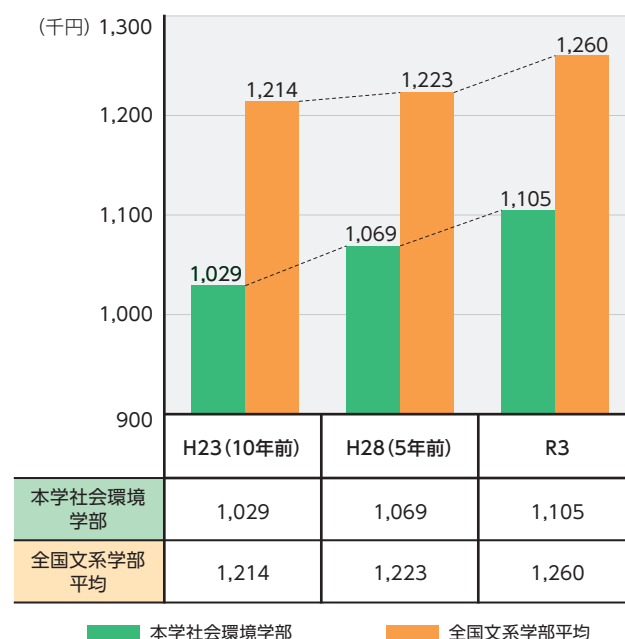
全国屈指の低学費を維持。経済的理由での退学等を抑制しています。

全国屈指の低学費で保護者の経済的負担を軽減しています。また、修学期間中の経済的困窮に柔軟に対応(独自奨学制度・分割納入対応等)し、このコロナ禍においても経済的理由による退学等は極めて低い水準にあります。

■大学・学部の学費の相对比较(工学部・情報工学部)



■大学・学部の学費の相对比较(社会環境学部)



7. 学校運営に対する外部評価

経営・財政に対する外部評価(格付会社(R&I、JCR))はさらに向上しました。

学園運営のいっそうの改革・改善を推進するため、第三者の視点・外部評価を重視し、格付会社2社の評価を受けています。そこでは、積極的・効率的な施設・設備投資や、事業計画と予算の連動性の高さ、予算管理精度の高さ等が高く評価されています。

■ 格付会社2社からの評価 (R&I: (株) 格付投資情報センター、JCR: (株) 日本格付研究所)

経営・財務の安定性で高い評価

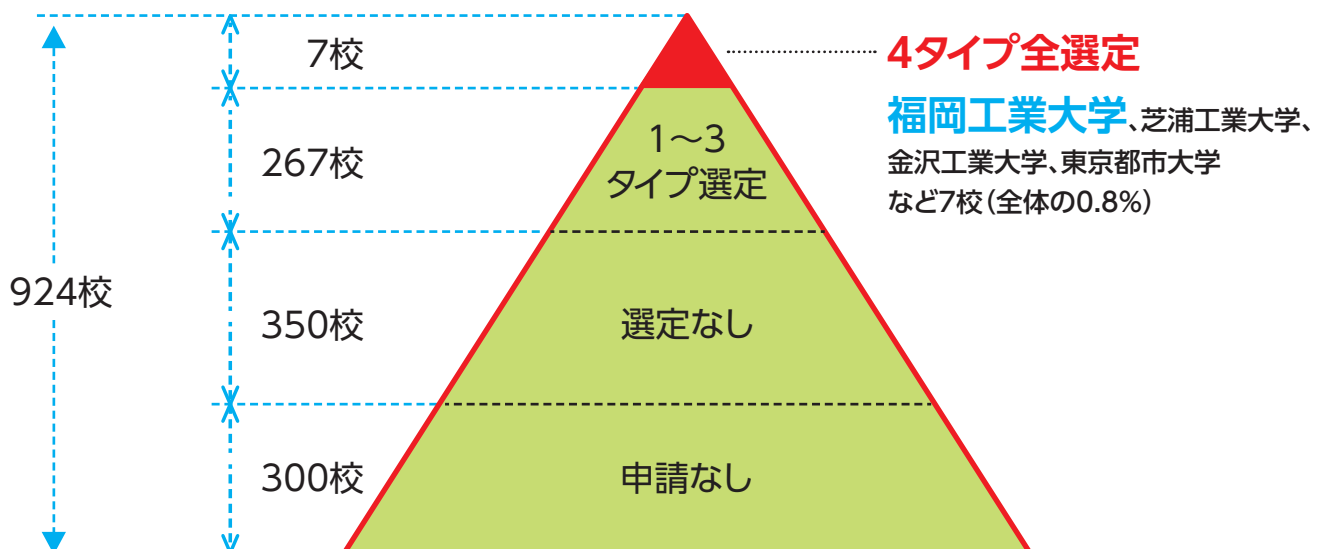
<p>R&I格付 A+</p> <p>方向性: 安定的</p> <p>平成23年から9年連続 [A]</p> <p>令和2年に「A+」に向上</p>	<p>JCR格付 AA-</p> <p>方向性: 安定的</p> <p>平成26年から7年連続 [A+]</p> <p>令和2年度に、さらに「AA-」に向上</p>
---	---

当年度の格付評価のポイント	
学校運営全般	<ul style="list-style-type: none"> ・全国私大でも例のない志願実績。九州域内の有力私大の一角として評価 ・コロナ禍への対応で、学生への経済的セーフティネット構築を高く評価 ・競争的研究資金の獲得件数は、九州・沖縄地区でトップクラス
経営・ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・MP・APIは、高レベルで確立された運営システムとして高く評価 ・コロナ禍への対応で、その的確性と実行力について組織力を十分に発揮 ・現在の経営管理の仕組みの若手教職員への理解・浸透を図ることが課題
財政全般	<ul style="list-style-type: none"> ・財務の視点(コスト)を意識した業務運営が多くの教職員に浸透 ・積極的な施設・設備投資を続ける中でも、豊富なネットキャッシュを維持 ・予算管理の精度に優れ、今後も安定的に黒字を確保できる見通し

私立大学等改革総合支援事業に4タイプ全選定。「改革力の高い大学」として評価が定着しています。

特色ある教育研究、地域社会への貢献、研究の社会実装など、特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組む重点支援の対象校として、文部科学省より選定されました。

■ 令和2年度文部科学省私立大学等改革総合支援事業(タイプ1~4)の全国の選定状況



経営・財政の管理手法は、学校経営研究誌・研究者から高く評価されています。

経営管理の仕組みやその成果が、日本私立学校振興・共済事業団や日本私立大学協会等の関係団体、全国の教育関係者・大学行政の研究者等から高く評価され、多くの学校経営研究誌等で紹介されています。

■ 本学の経営・財政の管理手法が好事例として紹介された例

「大学経営強化の事例集」 文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。 (平成19年3月)		「大学外組織評価研究会」 (独)大学改革支援・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。 (平成21年3月)		「大学評価・学位研究」 本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。 (平成22年3月)			
「学校法人」 経営計画をサポートする財政計画と予算管理の役割について、セミナー講演の抄録が新春号巻頭に掲載されました。 (平成28年1月)		私大振興検討会議「議論のまとめ」 28年10月に、文部科学省「私立大学等の振興に関する検討会議」の席に学園の常務理事が招致され、経営改革事例を報告した議論のまとめが紹介されました。 (平成29年5月)		「大学改革を成功に導く特色ある取組事例集」 中期経営計画を軸とした経営管理システムと情報共有による教職協働での改革の実践が好事例として紹介されました。 (平成31年2月)			
「私大経営システムの分析」 (平成19年11月)	「学校法人」 (平成20年2月)	「私学経営」 (平成20年3月)	「私立高等学校のこれからを考える」 (平成20年3月)	「学校法人」 (平成20年7月)	「カレッジマネジメント」 (平成21年5月)	「カレッジマネジメント」 (平成23年1月)	「大学経営の評価システム」 (平成24年3月)
「中長期経営システムの確立、強化に向けて」 (平成25年2月)	「大学マネジメント改革」 (平成26年3月)	「私学経営」 (平成26年5月)	「大学・短大の経営事例集～経営基盤強化のために」 (平成29年3月)	「私学経営」 (平成29年5月)	「学校法人」 (令和元年7月)	「私学経営」 (令和2年4月)	「大学時報」 (令和3年1月)

本学の学校運営等について、行政・私学団体等、外部機関の視察等が拡大しています。

施設・設備への積極投資と財務運営(教育・研究の改善・高度化を主目的とする予算制度)の両立が行政機関や他の教育機関等から高く評価され、事例報告や視察受入が拡大しています。

■ 近年の事例報告の一例

発表日	発表機関等	テーマ
H28.10.13	日本私立学校振興・共済事業団 私学スタッフセミナー	大学職員の役割について～大学コースの高度化・多様化に対応する職務～
H28.10.24	文部科学省私立大学等の振興に関する検討会議	「経営強化・財務面の体質強化」の取組事例報告
H29.2.23	日本私立大学協会 私立大学経営問題協議会	経営的視点で見た募集戦略
H29.10.6	日本私立大学協会 私立大学経営問題協議会	経営管理の仕組みに内包する2つのIR～IR(調査分析・情報公表)活動の概要～
H29.11.10	一般社団法人日本能率協会 大学マネジメント改革総合大会	中期経営計画を実現するマネジメントシステム
H30.7.29	大学コンソーシアム京都	経営計画を実質化するマネジメントシステムと2つのIR～志願者12年連続増を達成するまで～
H30.8.27	日本私立大学連盟 コンシールジュ会議	大学改革を実質化する組織運営
H30.12.15	東京大学大学院教育学研究科「大学経営・政策各論」講義	経営戦略としての財務運営～学校運営における財政計画の重要性～
H31.4.19	地域科学研究会 高等教育情報センター	「経営視点で見る情報公開」～マネジメントシステムに組み込んだ情報公開～
R1.6.25	文部科学省私学部高等教育局 私学部勉強会	経営計画の実効性向上のトライアル～経営計画と財政計画・財務の連関～
R1.9.20.27	公益社団法人私学経営研究会	学校運営を活性化し人事・人件費施策～組織活性化と人件費安定化の両立～
R2.12.2	株式会社タナベ経営 2020年度「教育・学習ビジネス研究会」第2回九州開催	14年連続入学生志願者を拡大し続ける大学経営～その戦略と組織マネジメント～
R3.7.29	福岡県私学協会 第58回福岡県私学教育研究会(学校事務部会-第1回-)	学校会計の実践的な取扱いについて

■ 近年、活発化する外部教育行政関係団体等視察の状況

来訪日	来訪者	来訪目的	来訪日	来訪者	来訪目的
H29.2.2	日本私立大学協会 私学高等教育研究所	IRに関するヒアリング調査	H30.7.27	桜美林大学 (元私学事業団)	PDCAによる財政運営についてヒアリング
H29.6.27	文部科学省 私学助成課長	私学助成の効果に関するヒアリング	H30.8.23	学校法人明星学院 法人本部理事長室	学校運営の可視化に関するヒアリング
H29.6.29	学校法人鶴学園 広島工業大学 企画室	経営計画の実質・実効化方策についてヒアリング	H30.9.28	文部科学省 大学振興課長	教育改革・研究高度化に関するヒアリング
H29.9.1	大学行政管理学会 事務局長他	理事会がガバナンス等に関するヒアリング	H30.10.12	私学事業団 経営情報センター長	経営計画・財政計画に関するヒアリング
H29.11.17	共立女子大学 法人本部	マネジメント・ガバナンスに関するヒアリング	H30.10.12	学校法人明星学院 学長補佐	教育改革全般に関するヒアリング
H30.1.23	西南学院大学 経営企画室	経営・教学運営の可視化に関するヒアリング	H31.1.22	学校法人関西学院 総合企画部長	経営計画、目標管理等に関する意見交換
H30.2.23	文部科学省 私学助成課長	私学助成の効果に関するヒアリング	H31.3.7	学校法人東亜大学 学園事務局長他	経営計画・財政計画に関するヒアリング
H30.4.20	学校法人桃山学院 (元私学事業団)	PDCAによる経営・教学管理についてヒアリング	R1.10.2	千葉商科大学 常務理事 他	経営計画・財政計画に関するヒアリング
H30.4.27	文部科学省 私学部参事官	理事会がガバナンス等に関するヒアリング	R1.11.22	関西地区32私立大学 施設関係部局職員	キャンパスの景観、清掃等施設管理、最新設備等見学
H30.6.6	慶知工業大学 法人本部	経営計画の実質・実効化方策についてヒアリング	R3.4.22	武庫川女子大学、工学院大学職員 (私学事業団研修生)	経営計画・財政計画に関するヒアリング、私学助成の情報交換
H30.6.28	文部科学省 私学助成課長	(H29.6訪問時の追加ヒアリング)			

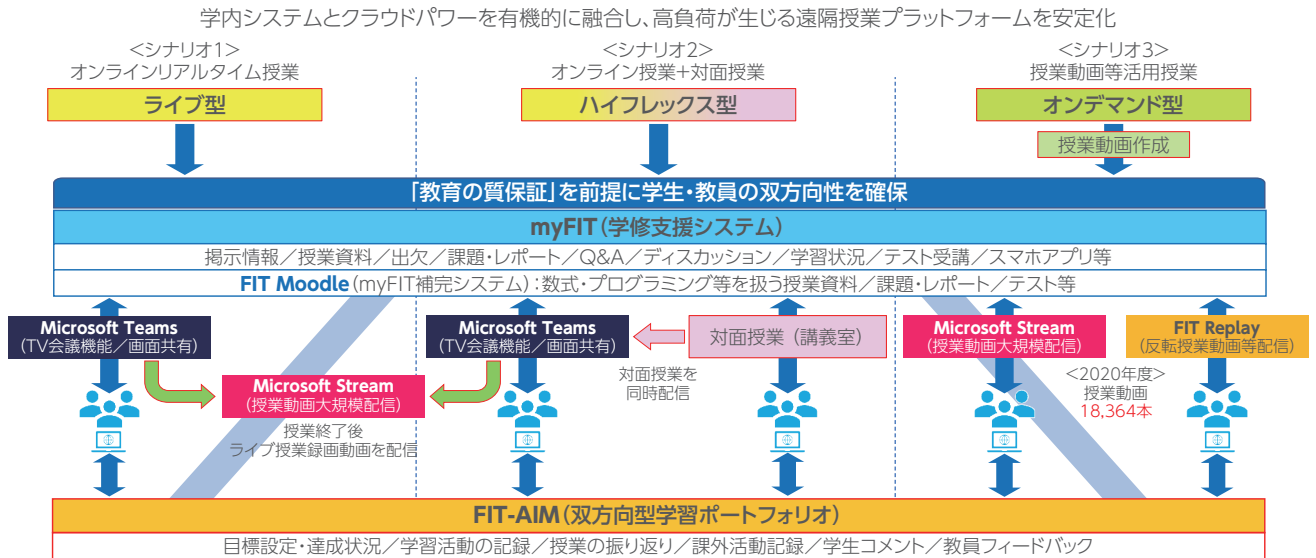
▶ 当年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外部教育行政関係団体等からの視察が実施されませんでした。

1. 教育改善の取組

ICT基盤・機器類を駆使して、遠隔授業の円滑な実施とその改善に注力

コロナ禍への対応のため、「学生の学修機会の確保」と「教育の質保証」に資するように、全学的に遠隔授業（オンデマンド型・ライブ型等）を実施し、その改善に力を注ぎました。前期後半からは、感染防止策を充分にとった上で、徐々に対面授業を拡大しました。

■ 遠隔授業実施フローチャート

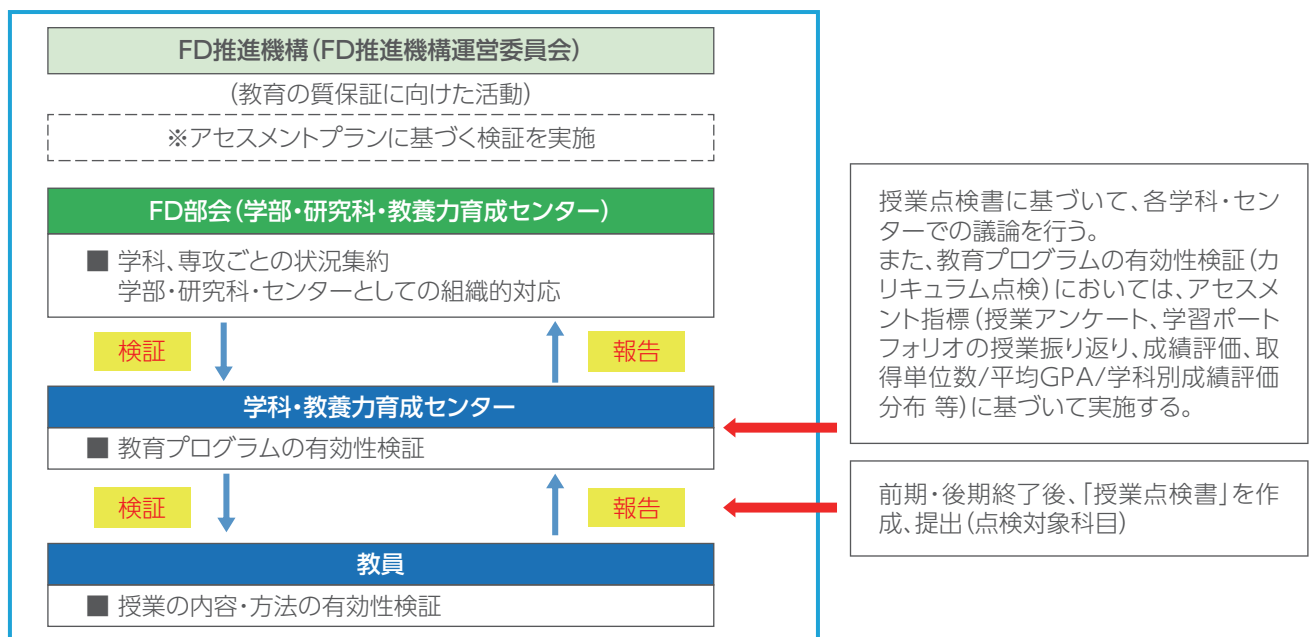


▶ 包括ライセンス契約を結んでいる高度情報化ソフトウェア (Microsoft、Adobe、Mathematica、MATLAB 等) について、学生が授業のみならず、自主学習にも活用できるように継続・拡充しました。

授業・カリキュラムの点検・評価活動を本格化。学びの本質的改善を加速

アセスメントプラン (学修成果の評価・改善の方針) を定め、令和3年度から本運用を開始しています。全学・学部学科 (カリキュラム)・授業科目・学生のそれぞれのレベルで、学修成果・教育成果を点検・評価し、教育・授業改善ならびに学生の成長につなげています。

■ 授業科目レベル・カリキュラムレベルのアセスメントの流れ



授業実践事例報告会(成果創出事例研究会)を開催。遠隔授業の成果と課題を研究

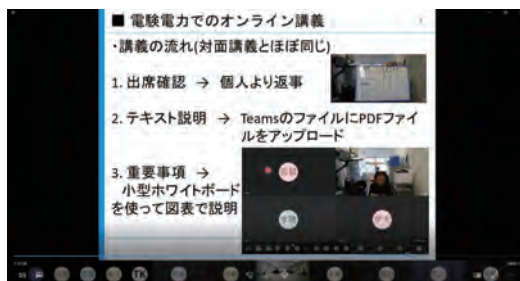
遠隔授業に関して、ICTを活用した5つの授業実践事例報告を行いました。講義動画作成、グループワーク、FIT-AIMIによる授業振り返り、オンライン試験実施など、様々な授業運営上のヒントの共有と活発な意見交換が行われました。

■第20回FD Café「ICTを活用した授業実践事例～遠隔授業実施を振り返って～」

報告テーマ	担当教員
①オンラインでの試験実施と試験監督の方法について	電子情報工学科・田村 瞳 助教
②板書形式によるオンデマンド型遠隔授業	電子情報工学科・野瀬 敏洋 助教
③Teamsによるグループワーク実践事例	教養力育成センター・中野 美香 准教授
④オンデマンド型授業の実施事例	情報通信工学科・杉田 薫 教授
⑤コロナ禍における電気主任技術者資格取得へ向けた取組	電気工学科・田島 大輔 教授



左表③教養力育成センター・中野准教授の事例報告



左表⑤電気工学科・田島教授の事例報告

学生(クラスサポーター(CS)・学生FD(FIT-join)等)の学び合い・支え合いを積極化

AI導入科目については、事前研修を受けた先輩学生(CS)を採用し、受講生の理解度向上につなげています。また、教育技術開発ワーキンググループの教員と連携してFIT-joinの提案・意見等を授業改善に取り入れています。

■CS研修対面での参加者



■FIT-join委嘱状交付式



■FIT-join年間活動実績

時期	内容
R2.5月～	「FIT-inサポート」実施 P27参照
R2.7月	委嘱状交付式 R2年度活動計画について教職学で目的の確認、共有、意見交換
R2.8月	「学生によるオンライン授業についての調査」実施(回答者:957名) 一般学生にオンライン授業の満足度や改善要望についてアンケートを実施
R2.9月	新メンバー募集オンライン説明会実施(参加者3名)
R2.9月	教員インタビュー・授業参観実施
R2.9月	広報誌「Future Design 学生とともに、先生とともに創る」Vol3発行 学生FDの活動や教員インタビューの内容を紹介
R2.12月	「FIT学生団体サミット」開催
R3.1～4月	新入生オリエンテーションの企画運営
R3.3月	R2年度活動報告

- ▶ CS: AI型授業において、教員を補助し、受講する学生の理解が進むように助言・サポートを行う先輩学生。AI型授業の効率化を図り、併せてCS自身の学習を深めている。
- ▶ FIT-join: 本学の授業改善を学生の視点から教職員と一緒に考え、教職員と学生をつなぐ活動をするによって「学びのコミュニティづくり」を担っている。

2. 研究高度化の取組

産業界に向けた研究情報(研究成果、研究技術)の公開・発信を積極化

国・地域・産業界との実用化研究の進展に伴い、研究成果の権利化(特許登録)が拡大しています。実用化技術(特許情報等)の公開・発信等を通じて、産業界の発展に広く貢献しています。

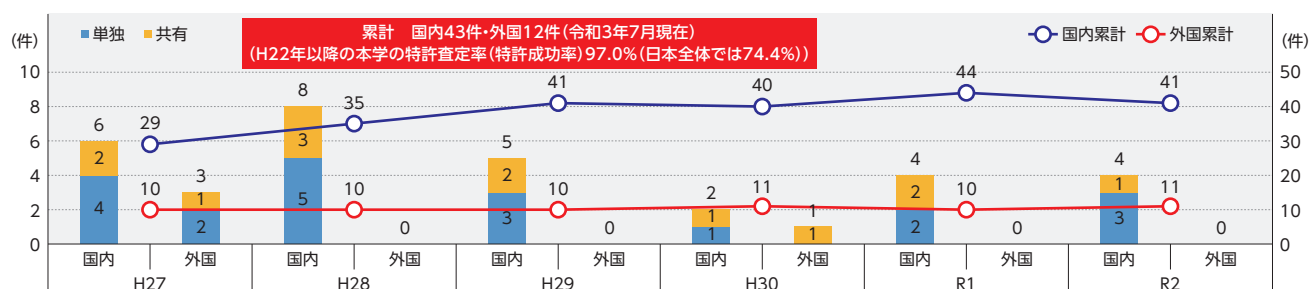
■ 知的財産の権利化(特許登録)の状況

- (1) 特許出願: 14件(国内13件、外国(PCT国際出願)1件)、特許を受ける権利の譲受1件
- (2) 特許登録: 4件(国内4件)
- (3) 発明届出/知的財産管理委員会開催(3回): 発明等届出9件(内、書面審議2件)、特許権利維持審議件数13件(権利維持9件、権利放棄4件(内、回復1件))
- (4) 特許権譲渡(無償)1件、特許を受ける権利の譲受1件(出願費用相当160千円)

■ 当年度に登録した特許の概要(国内4件、国外なし)

No.	特許番号(登録日)	発明者	共願者	発明の名称
1	6729883 (2020/7/6)	情報システム 工学科 丸山 勲 准教授 (20%負担)	大阪大学(60% 負担)・法政大学 (20%負担)	自己触媒能を有する炭素系水素貯蔵材料、その製造方法、その化合物を用いる水素の吸蔵方法及び水素の放出方法、及び水素吸蔵用デバイス
2	6832015 (2021/2/3)	知能機械 工学科 廣田 健治 教授		プレス加工装置
3	6858415 (2021/3/26)	電子情報 工学科 盧 存偉 教授		海面計測システム、海面計測方法および海面計測プログラム
4	6837682 (2021/2/15)	知能機械 工学科 仙波 卓弥 教授・ 天本 祥文 准教授		高硬度材料のゼロカット加工法および高硬度材料構造物の製造方法

■ 本学が権利を保有する特許取得状況推移(企業との共有を含む(国内・外国))

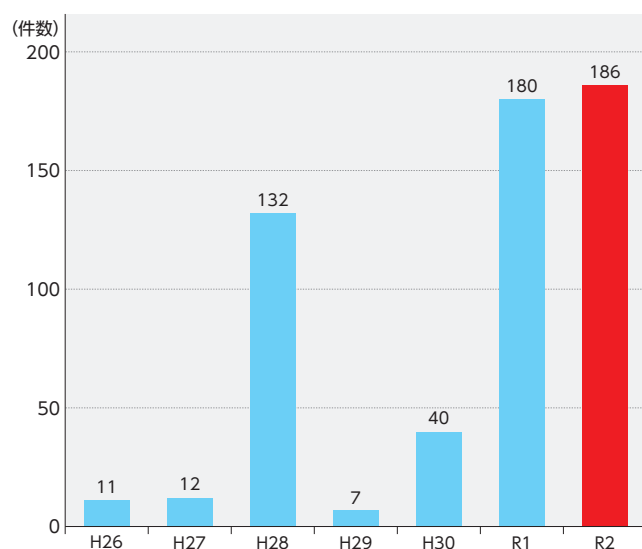


- ▶ 新技術の実用化・事業化に向けた相談の増加に対応するため、専門職員を配置し、企業等と産学間のネットワークを行っています。

地域社会に向けて研究成果の発信を積極化(パブリシティ強化によるメディア取材拡大)

研究活動の活発・活性化や新たな技術分野の研究開発進展に伴い、近年、地域の課題解決研究に関するメディア取材の件数が増加し、専門家としての知見を求められる機会が大幅に増えています。

■ 研究分野における近年のパブリシティ掲載件数 (WEB、テレビ、新聞、出版合計)



■ テレビ局から取材を受けている様子



電気工学科 北崎 訓 准教授(北崎研究室)
「プラズマ」を用いた、農作物の高付加価値化を目指す検証実験(発芽の早期化・成長促進)。
古賀市(尚安武園芸様の協力)と連携し、トウモロコシ「スイートコーン」の種にプラズマを照射。この種を育て、将来の商品化を目指しています。

- ▶ パブリシティ: 政府・企業・団体がマス・メディアを通じて望ましい情報の伝達を目指す活動。
▶ さらに詳しい当年度のパブリシティ掲載状況は、P49「バックデータ集」を参照してください。

学生研究コンペに積極参加(文部科学省サイエンスインカレで「東京エレクトロン賞」を受賞)

FITポケットラボでの地道な活動が実を結び、企業賞を授与されました。さらに、ファイナリスト同士が、自主研究の質や関心をさらに高め合うオンライン大会(第4回SINAPS九州Jamboree)の開催・運営にも参画しました。

■i-Tech LAB.で行う学生研究・PBL活動



文科省サイエンスインカレオンライン説明会に参加



FITポケットラボのメンバーとアドバイザー

■東京エレクトロン賞受賞テーマ



(左から) 情報システム工学科・青山小春さん(福岡女学院高校)、同・市村香菜子さん(高等学校卒業程度認定試験)、同・チャン ソヨンさん(韓国の高校)
分野: 数学・情報系
研究課題: 「全人工膝関節置換術における膝蓋大腿骨関節と脛骨大腿関節のリアルタイム荷重バランス計測システムの開発」

- ▶ i-Tech LAB.: 研究室に配属前の学生が先輩学生の指導を仰ぎながら自主的に研究に打ち込む活動。サイエンスインカレでの研究発表が最終目標。
- ▶ サイエンスインカレ: 全国の学部生等を対象として行われる文部科学省主催の研究発表会。

研究成果の実用化に重点(文部科学省の大型プロジェクト研究事業に数多く採択)

医療技術への応用が期待されるナノ素材を活用した研究や大規模津波予測技術研究の開発など、研究成果の実用化に向けて学部横断で様々なプロジェクト研究を進めています。

■文部科学省大型研究補助事業の近年の採択状況

■研究テーマ: 物質・エネルギーデバイス研究センター整備事業

■採択年度: 平成27年度

■期待される用途や効果

無機ナノシートを複合化した新開発素材によるウェアラブル端末や歩行・波力発電への展開が期待される革新的エネルギーデバイスの開発



■研究テーマ: 先端計測技術研究センター整備事業

■採択年度: 平成25年度

■期待される用途や効果

マイクロ波レーダー計測と画像センサ計測を組み合わせた4次元総合解析による津波予測システムの開発



■研究テーマ: ハイテクリサーチセンター整備事業

■採択年度: 平成17年度

■期待される用途や効果

微生物とオゾン分解フィルターを組み合わせた排水浄化システムを開発し、酒類製造プロセス等で発生する廃棄物浄化に活用



■研究テーマ: 次世代マイクロ/ナノ金型開発センター整備事業

■採択年度: 平成16年度

■期待される用途や効果

ナノレベルの精密加工技術を開発し、自動車産業等で求められる精密金型製作に活用

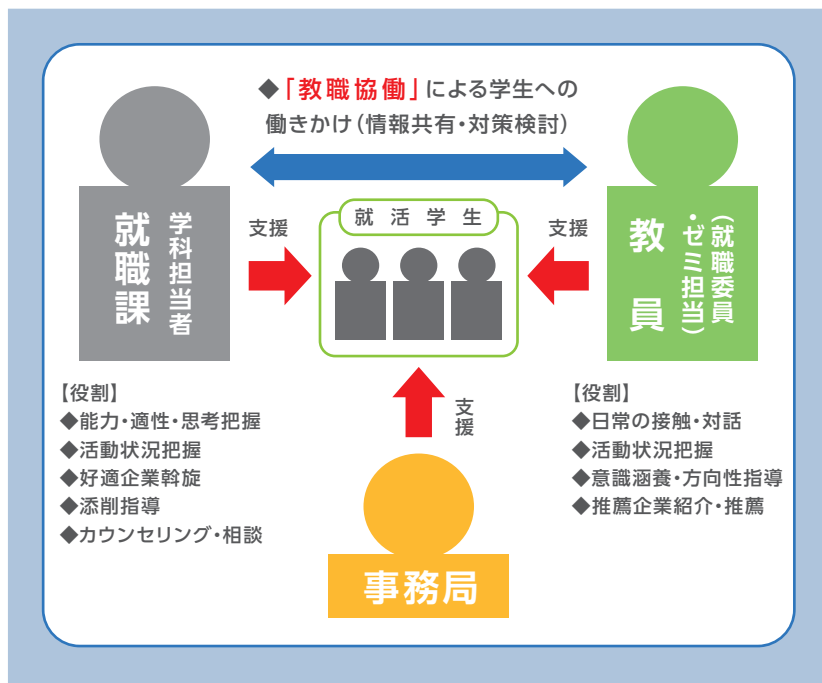


3. 就職支援の取組

「学科別の個別指導」で、すべての学生にオーダーメイドの就活サポート

学科別に専属相談員を配置し、就職カウンセリング、職業適性・能力判断、企業分析、エントリーシート・履歴書指導、準備学習・面接指導等のサポートをそれぞれの学生に合わせて実施しています。

■「個」に重点を置いた全学的な就職支援体制



■個別指導の様子



学科別個別指導の様子

■面接指導の様子



就職アドバイザーからの指導

就活に関する様々な不安を解消。多彩な就活支援プログラムでサポート

上場大手企業志望学生向けのトップアップ講座の開催や就活交通費支援、保護者向けのガイダンス開催など多彩なプログラムで、就活時の不安を解消し、学生の夢の実現を教職員全員で後押ししています。

■学生向け支援講座



面接対策講座や業界研究セミナー等様々な就活対策講座を実施

■保護者向けガイダンス(コロナ禍で当年度中止)



大学3年生、大学院・短大1年生の保護者を対象に就活期の保護者サポートのあり方や就職事情などをガイダンス

■就活交通費支援

- 青地区:37,000円
- 緑地区:30,000円
- 黄地区:24,000円
- ピンク地区:7,000円
- オレンジ地区:20,000円



就職活動の際の交通費支援や卒業後のサポート等を実施

■プラスワンプロジェクト

趣旨	卒業時に就職できなかった学生に対し、学部4年間の就職支援の延長として1年間継続的に支援
取組内容	専任担当者を配置 ・キャリアプランの再支援 ・面接指導、ビジネスマナー教育 ・求人紹介

就職活動中の拠点として、東京・大阪・広島・福岡の4都市にセカンドキャンパスを設置

キャリア教育型(課題解決型・仕事理解型等)インターンシップを積極化

正課で「インターンシップI・II」を開講し、就業に対する積極性を高めています。当年度は、コロナ禍にあってもオンラインで仕事理解型インターンシップに85名が参加し、学生のキャリア形成意欲を醸成しました。

■就業力育成プログラムのカリキュラム

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
志向する力	キャリア形成							
共働する力	日本語表現法	コミュニケーション基礎						
解決する力			技術者倫理					
実践する力			就業実習				卒業研究	
			特定専門科目					

■【正課】単位認定型インターンシップの概要*

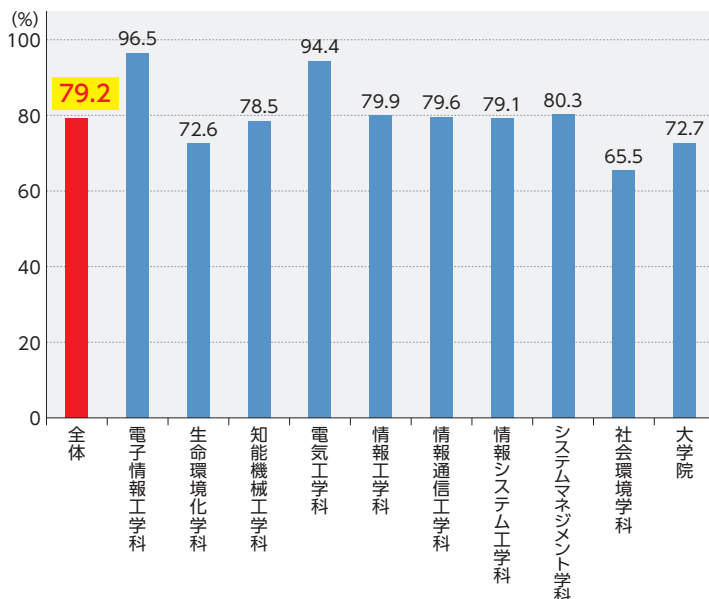
①課題解決型	②仕事理解型
企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養う。(4週間)	自らが希望する業界を選び、インターンシップを行う。実習先に応じて、自らの専門分野の知識や技術が実社会でどのように活かされているかを知る。(3～10日間)

*当年度は、コロナ禍で「①課題解決型」の取組を中止し、「②仕事理解型」の取組をオンライン中心で実施しました。

採用接続型(学生・企業マッチング型)インターンシップを積極化

企業による短期インターンシップの増加に伴い、正課外でインターンシップフェア等を実施しています。就職活動の早期化・短期化に対応するため、積極的な参加を促しています。

■夏季インターンシップ参加率



■インターンシップフェアの様子



令和元年度から開催(2年度卒業生対象)。101社が参加。当年度はコロナ禍で開催中止。

▶ インターンシップに1社以上参加した学生は79.2%(前年比9.0%向上)になります。また、89.5%の学生がインターンシップ参加企業を受験しています。

4. ラーニングサポートの取組

修学ケアを積極化。全学をあげて学生に多様な支援を実施(年間8回延べ3千人)

コロナ禍において、不慣れな遠隔授業への対応や生活スタイルの大きな変化に戸惑う学生に対し、多様な修学支援を実施しました。これは、各学科と関係部署(教務課・大学院事務室・FD推進室等)が連携し、全学をあげて行ったものです。

■ 令和2年度の修学上の学生ケア実施状況

	ケア第1弾	ケア第2弾	ケア第3弾	ケア第4弾	ケア第5弾	ケア第6弾	ケア第7弾	ケア第8弾
実施月	5月	6~7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
対象者	新入生用資料未確認の学生	FIT-inサポート利用を希望した学生等	困難な修学状況にあると判断された学生	前期成績不振の学生	前期成績不振の学生	課題未提出の学生	課題未提出の学生・精神的に不安定と判断された学生	課題未提出の学生
対象学年*	1年生	1年生	2~3年生	1年生	1~3年生	1~3年生	1~3年生	1~3年生
人数	659人	547人	526人	208人	424人	89人	218人	300人
対象抽出要件	新入生用資料を未確認の学生	アンケートで希望の学生・未回答の学生	アンケートへの未回答の学生等	前期単位数	前期単位数	1週~4週終了時点	1週~8週終了時点	1週~12週終了時点
サポート内容	電話にて、修学・生活・健康面の相談(資料閲覧へ誘導)	電話にて、修学に不安を感じている学生をFIT-inサポートに誘導	電話にて、前期修学状況の確認と試験形式等の理解確認	遠隔授業の受講方法等に関する研修会	個別面談(①前期の振り返り②後期学習計画確認③遠隔授業の受講方法等)	個別面談・電話(後期の修学状況(授業理解・課題提出・勉強方法等の確認))	個別面談・電話(同左)	個別面談・電話(同左)

*4年生のケアは、卒研担当教員が実施

初年次の自立的学習支援を制度化。「FIT-inサポート」でラーニング・コミュニティを形成

入学直後から遠隔授業での受講を余儀なくされた1年生を主な対象に、授業や学生生活に関する不安等を解消する場として開設しました。その後、学習時間と学習場所を提供して、先輩学生との対話を通して自己学習を促す学習支援を行いました。

■ 令和2年度のFIT-inサポートの実施実績

	前期	後期
期間	6/29~8/28 (平日4・5限目)	10/1~1/26 (平日4・5限目)
実稼働日数	35日	67日
メニュー	専門基礎科目、何でも相談、PC入門	専門基礎科目、レポート作成
チューター	18名(院生7名、4年生4名、3年生7名)	20名(院生8名、4年生6名、3年生6名)
利用学生件数	延べ152件 (対面・オンライン)	延べ433件 (対面・オンライン)

■ FIT-inサポート「リモートカフェ5/18~5/29」の様子



オンライン上で実施。新入生からの授業や生活面での不安や疑問について、先輩学生が回答する対話形式のサポート(これを起点に総合サポートに発展)

▶ 後期は、感染症対策を徹底しながら、勉強会を定期的で開催しました。「FIT-inサポート」では、先輩から後輩へ、友人から友人へ教えあえる空間の醸成に努めました。

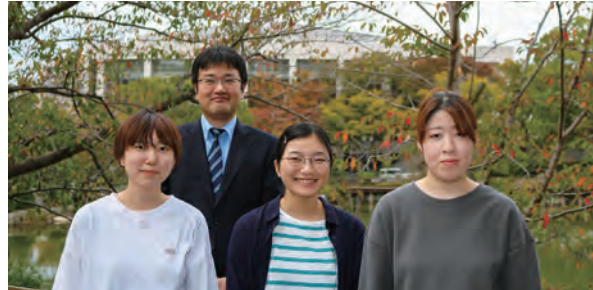
主体的な創作活動を強力サポート(創造・創作プロジェクトが大幅に増加)

モノづくりセンターでは、学生のモノづくり意欲に対応し、5つの公募プロジェクトが新たに始動しました。13プロジェクトに141名(前年度123名)が登録し、自由な発想に基づいてモノづくりに挑戦しています。

■モノづくりセンタープロジェクト

13プロジェクト
学生 141名 が登録

- ソーラーカー
- ロボットコンテスト
- ロボット相撲
- 二足歩行ロボット
- 手作りアクセサリ
- 4輪2輪メンテピット
- Air Hockey Robot開発
- レゴからくり
- 新規 ●衛星コン
- 新規 ●ロボットアーム
- 新規 ●教育用味見ロボット開発
- 新規 ●高速度カメラを用いた教材作成
- 新規 ●アマチュア無線体験



衛星コンプロジェクトメンバー



アマチュア無線体験プロジェクトメンバー

高難度資格取得に果敢にチャレンジ。学生の将来の夢への挑戦を強力サポート

エクステンションセンターでは、学科独自の難関国家資格取得講座や、各資格取得講座を開講し、コロナ禍にあっても自分の将来の夢に向かって進み続ける学生たちに強力なサポートを行いました。

■令和2年度の主な資格取得の状況

資格・試験名	合格者数
第2種電気主任技術者	1
第3種電気主任技術者	5
環境計量士(濃度関係)	1
第1級陸上無線技術士	12
第1級陸上特殊無線技士	19
第2級海上特殊無線技士	17
第3級海上特殊無線技士	16
危険物取扱者乙種4類	2
危険物取扱者乙種5類	1
応用情報技術者試験	3
基本情報技術者試験	2
ITパスポート	21
技術士(一次試験合格)	2
第2種電気主任技術者(一次試験合格)	1
第3種電気主任技術者(科目合格)	12
公害防止管理者(科目合格)	2
機械技術保全技能士2級	3
バイオ技術者試験中級	14
2次元CAD利用技術者試験2級	26
CCNA	5
webクリエイター検定上級	14
Microsoft Office Specialist (Word)	43
Microsoft Office Specialist (Excel)	46
eco検定	1
日商簿記2級	3
日商簿記3級	20
リテールマーケティング3級	22

■エクステンションセンターの7つのメリット

1	学内ダブルスクールによる、時間・交通費の節約
2	合格実績の高い講師招聘による、確実な資格の取得
3	生涯学習支援の一環として、受講料は安価
4	エントリー資格から難関資格まで、多彩に用意
5	団体受験会場として、普段の授業と同じ環境で受験が可能
6	受験料の割引が適用可能
7	過去3年以内の卒業生は、在学生と同じ受講料で受講が可能

■「第1級陸上無線技術士」合格者(情報通信工学科)



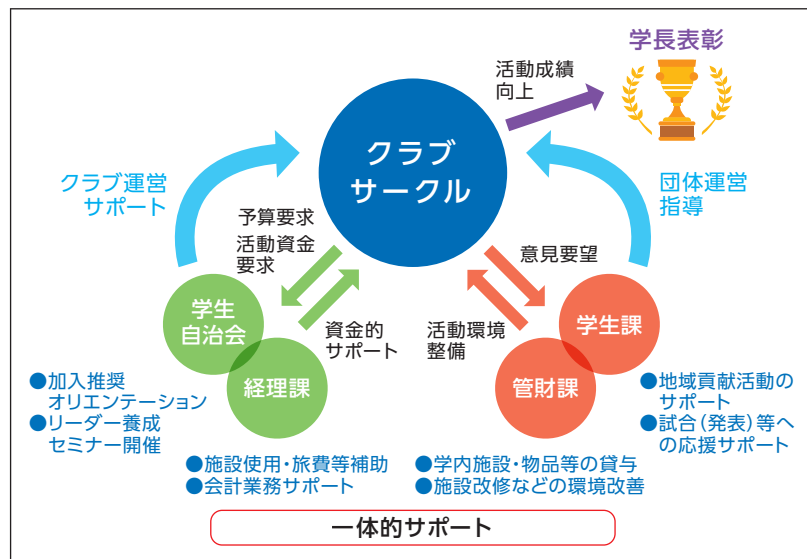
▶ 資格取得の合格実績の詳細は、P55「バックデータ集」を参照してください。

5.キャンパスライフサポートの取組

クラブ・サークル活動も重要な学修機会。多様な学びの機会を提供

学術・文化・スポーツ活動等の課外活動も主要な学修の機会と捉え、積極的にサポートしています。コロナ禍(休校・遠隔授業期間中)でのコミュニケーション基盤としても機能しました。

■クラブ・サークル活性化の枠組み



■コロナ禍におけるFIT女子会サークルの取組



2020秋冬マナーアップ講座の様様



女子会の先輩による就活アドバイス&座談会の様子

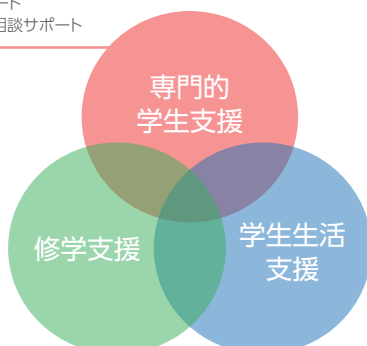
- ▶ 各クラブ・サークルの加入者数(詳細)は、P58、表彰結果は、P39を参照。
- ▶ コロナ禍により、新入生の大学生活への不安が高まる中で、女子学生ネットワークを強化するための様々な取組を行いました。

親身に寄り添うカウンセリングサポート(コロナ禍での不安・悩みの解消に貢献)

コロナ禍が長期化する中、学生生活や修学上の悩み・不安に対し助言・指導するカウンセリング制度を拡充しました。また、入学時健康診断や履修登録時Web健康調査等をもとに、早期の問題把握・サポートにも努めています。

■学生生活サポートの内容(取組例)

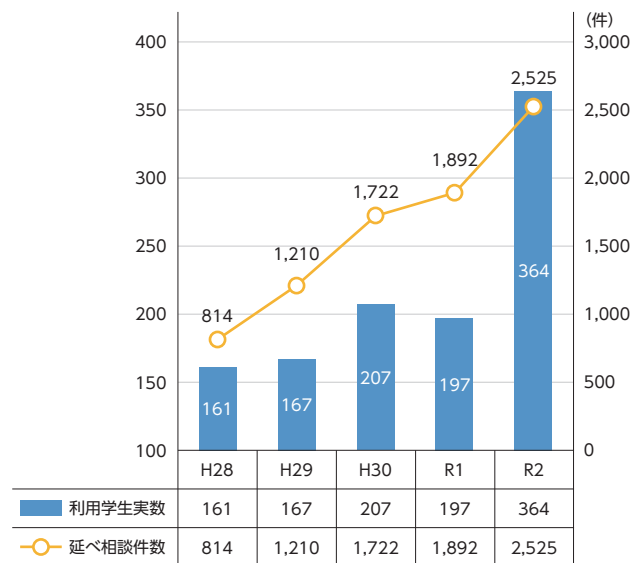
- 臨床心理士等専門的相談の体制
- 学生生活相談の体制
- 進路に関する相談(キャリアサポート)
- 健康管理サポート
- 保護者からの相談サポート



- クラス担任配置によるサポート
- ゼミ等での学習指導
- オフィスアワーの設定
- 学習相談コーナー開設
- 学生相互の学び(ピア・レビュー)

- 新入生全員面談の実施
- 新入生オリエンテーションの実施
- 履修・生活相談の随時対応
- 女子学生・留学生へのサポート
- 住居・アルバイトの紹介

■学生相談件数の推移(H28~R2)



- ▶ 教職員対象の研修会等(学生相談室スタッフミーティング(週1回)、新入生全員面談事前説明会、障がいのある学生のサポート調整会議など)を行い、学生対応スキルの向上を図っています。

学修・キャンパスライフ・就活・大学院進学を一体的にワンストップサポート

学生課、教務課、大学院事務室及び就職課を「学生サポートセンター」としてE棟に一体的に配置。学生の学修、学生生活、就職、大学院進学まで、親身なサポートを継続しています。

■学生サポートセンター（E棟）など学生生活をサポートする施設の充実



約50人の学生課、教務課、大学院事務室及び就職課スタッフが対応するサポートデスク・カウンター&コモンズ（E棟2階）



就職活動の個別指導の様子（E棟2階）



寛ぎ・コミュニケーションのためのデッキ（E棟2階学生広場）



コンビニ（セブンイレブン）を設置し充実した学生生活をサポート（B棟1階）



「デリシャス&ヘルシー」に配慮したカフェテリア（レストラン・カフェ）（C棟1階）



遊歩道&屋外カフェテラス（B棟）

▶ 当年度は、サーモカメラや飛沫防止パーテーションをはじめとする新型コロナウイルス感染拡大防止対策として約1.3億円を投じました。

学業・スポーツ・芸術活動優秀者、経済的困窮者等を育英・サポート（コロナ禍対応奨学制度を拡充）

各種育英・奨学制度を設け（国の高等教育修学支援新制度の機関要件にも適合）、学業・特技優秀者のいっそうの精励や、経済的に修学が困難な学生の支援等を行っています。

■ 本学独自奨学支援制度の枠組み

1 入試成績の上位者に対し授業料を免除（全額もしくは半額） 	2 入学後の学業優秀者に対し授業料を半額免除 	3 スポーツ等の優秀者に対し授業料などを免除 	4 学生表彰制度（学術・文化・スポーツ・社会貢献・地域貢献などの分野で活躍した学生を、学長が表彰する制度） 	5 海外派遣プログラムの渡航費用を一部補助
6 課外活動（クラブ、サークル）の活動費をサポート 	7 経済的に修学困難な学生に対し授業料を半額免除 	8 働きながら学ぶ学内ワークスタディ支援制度 	9 アルバイト（学内・学外）紹介 	

■ 新型コロナウイルス感染拡大に対応した経済困窮支援策の取組状況

(千円)

名称	実施主体	対象者	採用学生数	一人当たり給付額	給付総額
高等教育修学支援新制度	文部科学省、独）日本学生支援機構（共同実施）	経済的に困窮している学生（家計）	学部465名 短大59名	（国の基準による）	295,479
学びの継続のための学生支援緊急給付金	独）日本学生支援機構	学生アルバイト等の急減対象者	373名	原則10万円 非課税世帯20万円	（対象学生への直接給付）
激甚災禍修学支援基金	本学 *	*	学部310名 短大29名	10万円	33,900

*家計収入が減少したものの、公的支援の対象とはならない経済困窮世帯（学生）が対象（同窓会及び教育後援会の協力を得て創設）

▶ 上記の支援制度に加え、コロナ禍等により学費納入が困難な場合、従前の延納・分納期限をさらに延長するなど、学生・保護者に親身に寄り添う相談・支援体制を構築しています。

1. キャンパスの施設・設備

キャンパス全域の教育・研究環境高度化が大きく進展。諸活動が活発化しています。

「全国トップクラスの教育拠点」形成に向けて、AI型授業拡大・ICT高機能化・研究高度化・学生サービス機能向上を主眼として、教育・研究環境高度化を進展させています。教育・研究活動はもとより、地域交流や学術・文化・スポーツ等の諸活動もいっそう活発化しています。

■ 学園全景



■ 主な校舎・施設等



A棟



B棟



C棟



D棟



E棟 (H28年8月竣工)



F棟 (H29年8月竣工)



α棟



FITアリーナ



FITホール



おとめが池



附属城東高校全景



附属城東高校体育館
(R2年12月竣工)



担心寮



コスモス寮



塩浜総合グラウンド

▶ キャンパス全域を「新たな学力」育成環境として整備しています。特に、アクティブラーニング拡大にむけた学修環境整備は、文部科学省支援事業の事後評価の中でも高く評価されています。

キャンパスライフサポート施設が充実。文化・スポーツ・地域交流が活発化

文化・スポーツ・地域交流施設としてアリーナ、ホール、スタジアム、セミナーハウス等を、大学生活サポート施設としてウエストコート、相撲場、BBQ施設等を設置しています。諸施設での活動・交流が活発化しています。



FITアリーナ



FITホール



FITスタジアム



FITセミナーハウス



FIT Link (図書館)



エクステンションセンター



モノづくりセンター



B棟学生ラウンジ



FITアリーナWESTコート



相撲場



FIT BBQ



音とモノづくりの歴史資料館
(令和元年度改装)

▶ コロナ禍での感染予防徹底と学修機会確保・諸活動活性化の両立を考慮しています。ニューノーマル(新常態)に対応する学修・学生生活環境の整備を進めています。

附属城東高校リニューアルは順調に進捗。キャンパス全域を「主体的な学び」に総合

高校の施設等整備を中心とした、学園全体の環境整備は順調に進展しています。キャンパス全域を「アクティブラーニング」をコンセプトとして総合しています。学校改革(主体的な学び、学びの質向上、教育指導力向上、ICT教育高度化等)の推進力を高めています。

■ 高校施設・設備整備計画の概要

5つの総合的目標

- ① 学びの質を高める教育環境の創出
- ② 心身の健康の保持増進が可能な体育施設の整備
- ③ 教育・指導力を向上させる空間の整備
- ④ 情報リテラシーを育成するICT教育の高度化
- ⑤ 学校生活の安全性・快適性の向上

7つの整備内容

整備内容	整備の目的・期待される効果等
① 1号館(教育棟)新設	グループ学習やコミュニケーション活発化
② 体育館新設	多目的施設の整備、課外活動の活発化
③ 連絡歩道橋新設	生徒移動の安全性確保
④ 既存施設改修	主体的学修促進
⑤ グラウンド人工芝化	正課・課外活動の充実等
⑥ 外構・前庭・中庭整備	生徒・教員の寛ぎスペース確保等
⑦ 駅からの通学路の改善	良好な景観の構築、通路幅拡幅で安全性確保



1号館外観



体育館外観と連絡歩道橋



ラーニングcommons (J-STEP)



体育館3Fメインフロア

▶ 1号館(2年7月)、体育館(同12月)、歩道橋(同)が完工しました。3年度は、高校グラウンド人工芝化、駅からの通学路改善等に着手予定です。

2. 大学院の取組

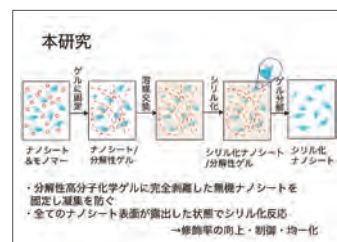
高度な研究者・専門的職業人を育成・輩出。進路決定状況は高位安定。
過年度最高の就職実績(上場、大手・中堅企業への就職率89.1%)

卓越した研究者(国等のプロジェクトに参画)の研究指導、国内外企業・研究所等との外部連携プログラムによる研究活動、教員・職員一体でのキャリア教育を積極化しています。研究成果の国内外学会等での高い評価や、良好な進路決定状況(就職率98.2%・実就職率90.2%)など相応の成果が生じています。

■学会表彰を受けた研究内容紹介(一部抜粋)

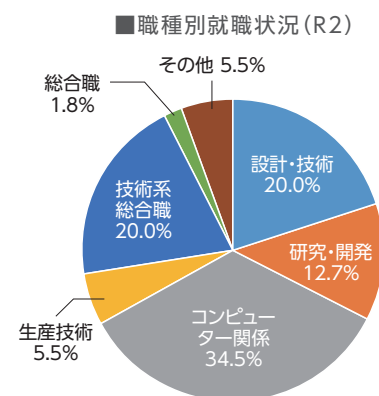
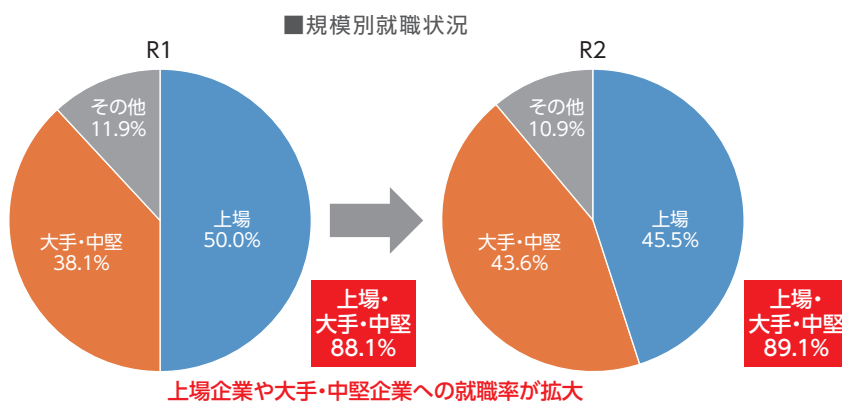
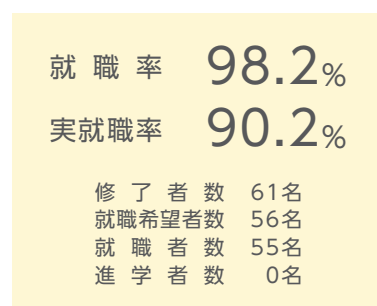
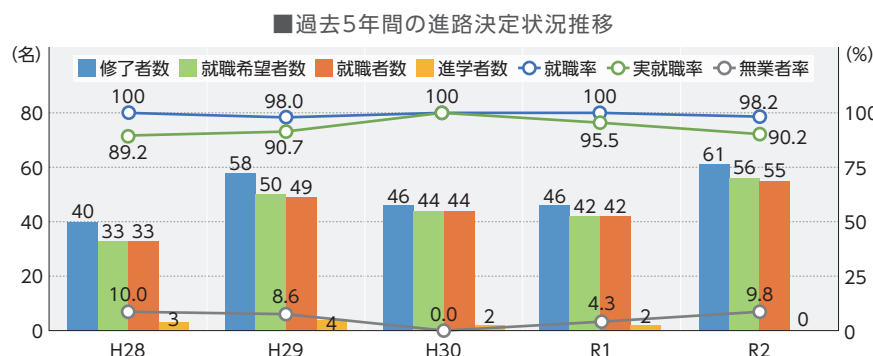


生命環境化学専攻1年 北山研究室
松島 蓮さん(糸島高校出身)
令和2年度 資源・素材学会九州支部若手研究者および技術者研究発表会「最優秀賞」受賞
研究テーマ:「高熱伝導窒化ケイ素セラミックスの開発研究」
研究概要:近年エレクトロニクスの進歩により、電力の変換・制御を高効率で行うパワーデバイスが急速に普及しており、複数のパワーデバイスをまとめたパワーモジュールの回路基板には、高い絶縁性、熱伝導率、放熱性、耐熱性が要求されている。本取組では、パワーデバイス等の回路基板に使用される新たな素材開発に向けた評価実験を研究。



生命環境化学専攻1年 宮元研究室
田中 一輝さん(九州国際大学附属高校出身)
2020年度 物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会「優秀口頭発表賞」受賞
研究テーマ:「分解性ゲルを利用したシリル化ナノシートの合成」
研究概要:無機層状結晶の剥離で得られる無機ナノシートは高分子のフィラー剤として広く応用されている。従来は、層状結晶層間でシリル化反応を行った後に剥離処理をしていたが、修飾量制御や均一な修飾が困難で、またナノシートの剥離度が低いなどの問題がある。そこで本研究では、単層剥離ナノシートを高分子ゲル中に固定して凝集を抑制し、シリル化する新たな手法を確立した。

■大学院生の就職状況



▶ 上場企業や大手・中堅企業(資本金3億円以上または従業員数300人以上)への就職率が89.1%に上昇。コンピューター関係職が34.5%で職種別で最高割合となりました。

産業界との交流を拡大、キャリア形成・就活サポートを高度化

学生の多様な就業ニーズに応え、様々なキャリア形成・就活支援を行っています。特に、上場大手企業への就職を目指す学生を支援する「トップアップ講座」や「教員帯同型企業訪問」（当年度は新型コロナウイルス感染拡大で中止）などを実施し企業との交流・連携を拡大しています。

■大学院トップアップ講座

令和2年度実績 受講者20名の進路決定状況

就職率 **100%**

上場、大手・中堅
企業への就職 **19名**



トップアップ講座の様子

- ▶ 令和2年度の主な就職先一覧（東証一部上場）：富士通（株）、京セラ（株）、日本電信電話（株）、（株）デンソー、本田技研工業（株）、三菱自動車工業（株）、ミネベアミツミ（株）、（株）ミライト、（株）協和エクシオ、SCSK（株）、西日本電信電話（株）等

「FIT大学院修学支援事業」で大学院進学や在学中の研究・学びをサポート

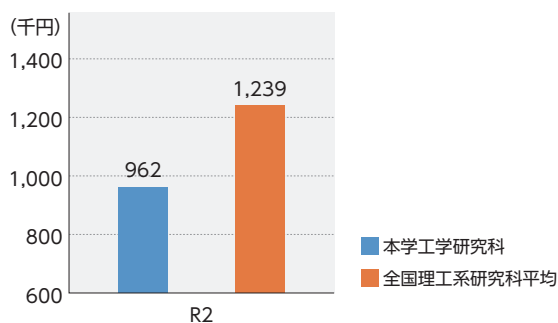
研究意欲旺盛な学生が、経済的な理由で大学院進学を断念することがないように、本学独自で様々な経済支援方策でサポートしています。

■独自修学支援制度の概要

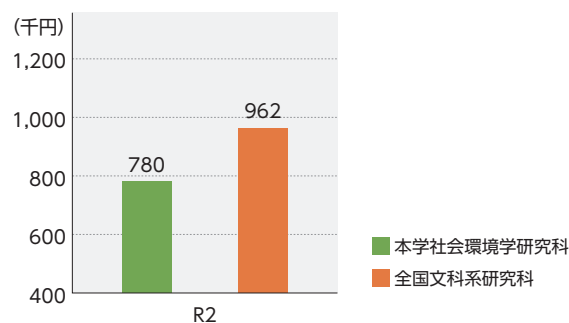
対象	採用人数	支援内容
学業特別奨学生制度	各学年9名	授業料の半額を補助
奨励金支給制度	各専攻1学年当たり2名	毎月80,000円を支給
学会出席旅費等補助制度	全員	学会参加に必要な費用のほぼ全額を補助

年間授業料が半額免除となる「学業特別奨学生制度」や毎月8万円の奨励金を支給する「奨励金支給制度」を設けています。

■大学院（工学研究科）の学費の相对比较（入学金含む）



■大学院（社会環境学研究科）の学費の相对比较（入学金含む）



理工系研究科で全国平均を大きく下回る低学費施策で修学を支援しています。

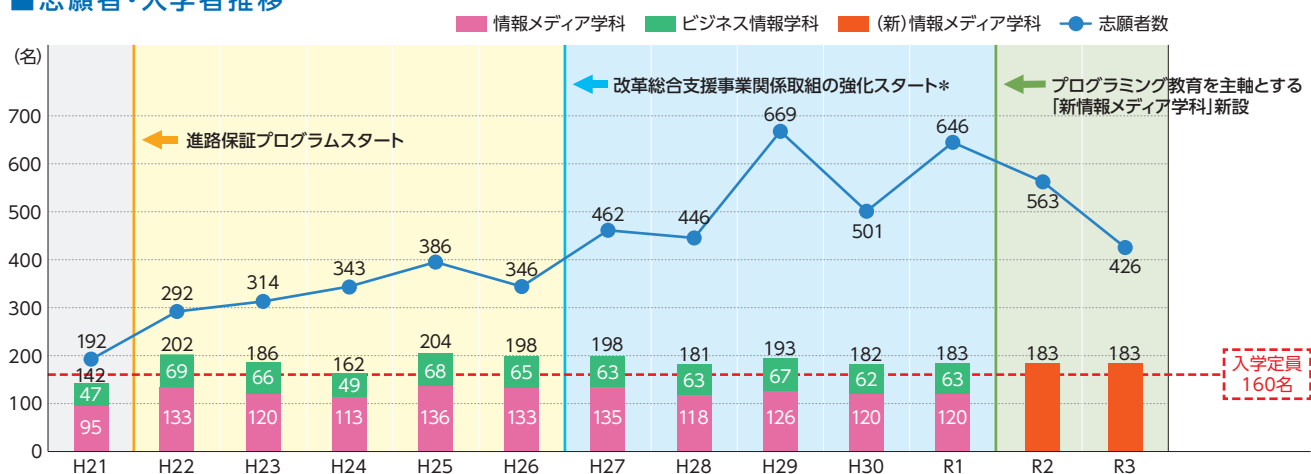
- ▶ 奨学制度や低学費施策の他、国内外で開催される学会へ参加するための旅費や宿泊費などを支給する「学会出席旅費等補助制度」でサポートしています。

3. 短期大学の取組

入学志願者・入学者確保は高位安定。九州唯一の「ICT専門短大」として、企業・大学等への進路決定は「極めて良好」となりました。

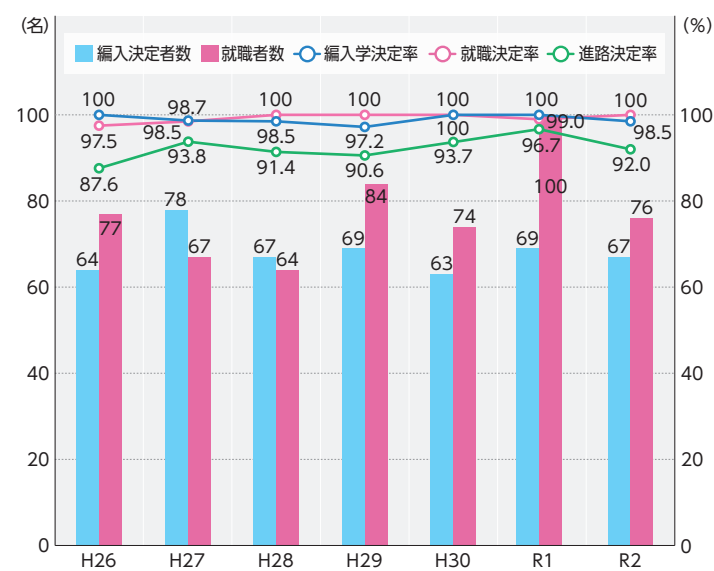
教職員一人ひとりが、学生一人ひとりに「親身になって」「親代わりに」「厳しく」関わる、その教育スタイルや学生の成長が企業や地域等から評価され、安定的な入学者確保や好調な進路決定状況に表れています。丁寧な教育を基盤とした好循環が生じています。

■ 志願者・入学者推移



*私立大学等改革総合支援事業タイプ1「教育の質向上」に6年連続(H27～R2)で採択

■ 進路決定状況推移



編入学決定率 98.5%
就職決定率 100%
進路決定率 92.0%

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
卒業者数	169	162	151	171	159	181	162
編入決定者数	64	78	67	69	63	69	67
就職者数	77	67	64	84	74	100	76
進路決定者数	148	152	138	155	149	175	149
編入学決定率	100%	98.7%	98.5%	97.2%	100%	100%	98.5%
就職決定率	97.5%	98.5%	100%	100%	100%	99.0%	100%
進路決定率	87.6%	93.8%	91.4%	90.6%	93.7%	96.7%	92.0%

▶ <令和2年4月に「情報メディア学科」1学科に改組(2コース設置)>

次世代ICT人材の育成を目指し改組を行いました。プログラミング教育を中軸とした1,200時間の情報系科目の配置、実社会での就業力を培う課題解決型学習科目の充実など大幅な教育内容・方法の転換を図りました。

進路保証プログラムに沿って、「就職の強さ」を継続。対面とオンラインのハイブリッド方式による指導を徹底

コロナ禍において、感染防止対策を徹底し、学内合同企業説明会を、「対面・WEB」併用で開催しました。また、情報系大学・短大の特徴を活かしたオンライン上での個別指導の徹底により高い就職実績を実現しました。

■ 就職教育プログラム

希望職種別キャリア教育、ゼミ単位の特別支援、就職に有用な資格取得支援など

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	就職支援
共通プログラム	業界研究	履歴書添削・面接の指導 能力適性検査(SPI)対策		卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムを通じた進路設計・資格取得支援 ●きめ細やかな就職指導 ●就職活動の旅費を補助 ●進路未決定者に対し卒業後も支援
情報系・メディア系プログラム	専門基礎 修得	ITパスポート CGエンジニア検定 マルチメディア検定 取得	基本情報技術者 取得	卒業研究	
ビジネス系プログラム	専門基礎 修得	秘書検定3級 医療事務3級 取得	日商簿記3級 秘書検定2級 ITパスポート 取得	日商簿記2級 秘書検定準1級 取得	

▶ 過去3か年の主な就職先:京セラ(株)、(株)YE DIGITAL、GMOインターネット(株)、(株)アクティオ、エコー電子工業(株)、(株)イズミテクノ、(株)福岡中央銀行、遠賀信用金庫、三機工業(株)、サイバーコム(株)、(株)システムニシツウ、浅海電気(株)、FFGコンピューターサービス(株)など

各種編入支援プログラムに沿って、国公立大学への編入学を強力サポート(10名以上合格の目標を3年連続で達成)

約4割の学生が4年制大学への編入を目指します。志望大学に対応した支援プログラムを多数用意しており、大学別試験対策講座や面接指導を徹底したことが成果として結実しました。

■ 編入教育プログラム

英語、数学、物理、小論文などの集中課外講座、個別添削指導、外部試験(TOEICなど)活用など

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	編入支援
国公立大学(理系・文系)プログラム	正規科目 先取り履修	基礎講座(物理・数学・英語)	志望校別 編入対策講座(物理・数学・専門・英語・TOEIC)	弱点強化講座(編入先別)	<ul style="list-style-type: none"> ●「進路設計」科目における編入指導 ●編入説明会(年4回) ●編入課外講座 ●数学の口頭試問対策 ●編入チューターによるサポート ●編入学試験のための交通費支援 ●志望大学別対策講座
福岡工業大学プログラム	基礎講座	工学部 科目等履修生	情報工学部・社会環境学部 科目等履修生	編入対策講座(学科毎) 直前対策講座(学科毎) 直前対策講座(社会環境学科) 弱点強化講座(学科毎)	
私立大学(理系・文系)プログラム	基礎講座	志望校 選択ガイダンス	直前対策講座(志望校別)		

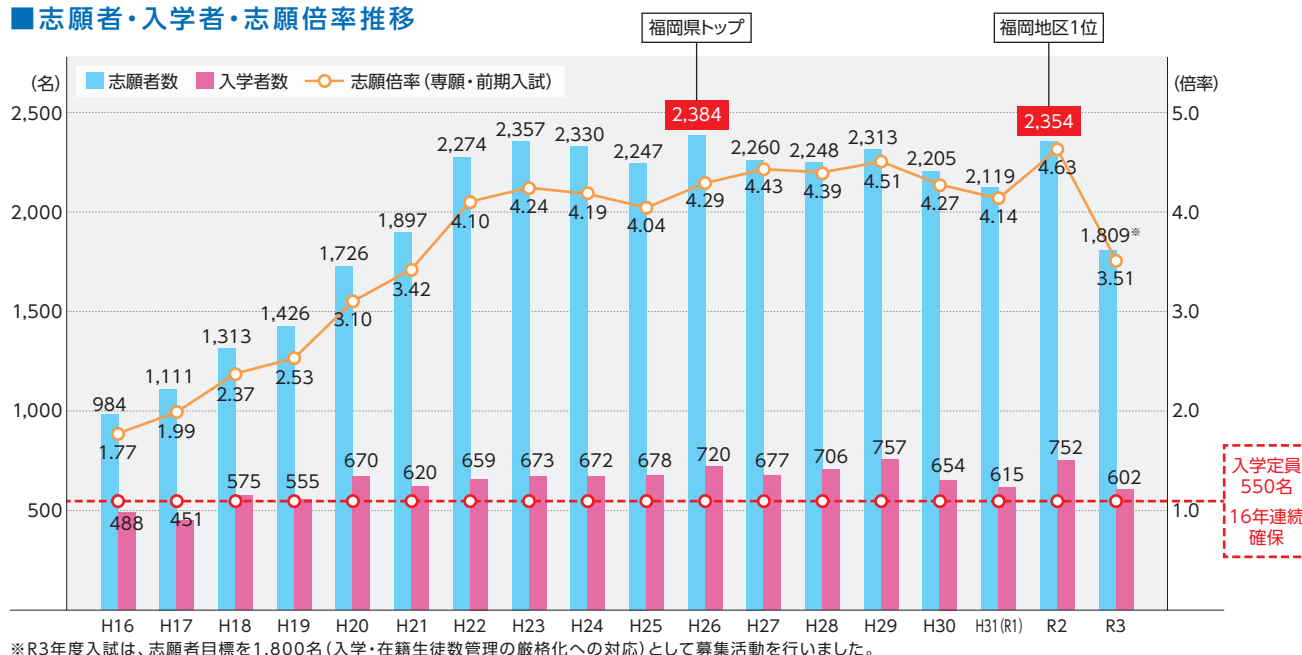
▶ 令和2年度編入合格者数一覧(国公立大学):鹿児島大学3名、佐賀大学3名、北九州市立大学2名、琉球大学2名、九州工業大学、札幌市立大学、香川大学、千葉大学、高知大学各1名、合計15名

4. 附属城東高校の取組

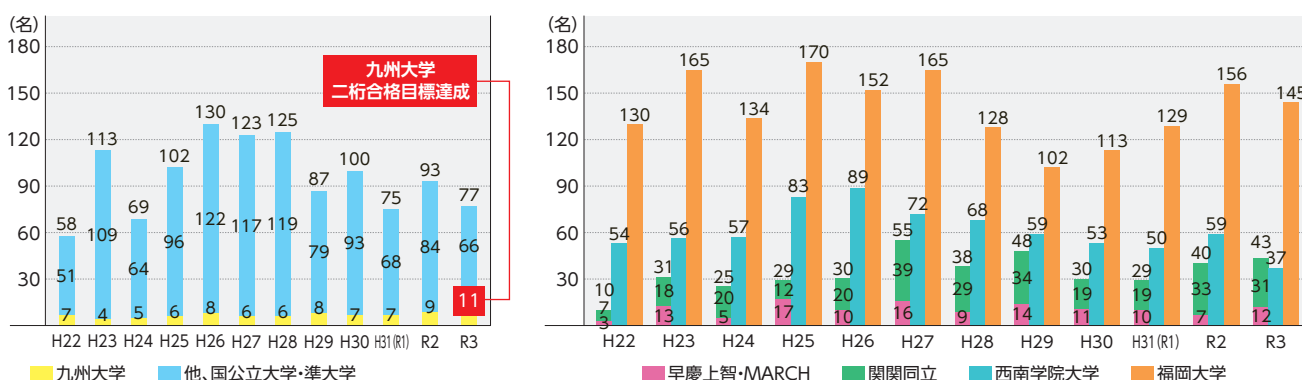
入学志願者・志願倍率は「県下トップクラス」で推移。入学者も継続的に安定確保。進学・就職状況は良好な水準を維持しています。

入学志願者は、改革元年(平成12年)以降着実に増加し高水準を維持しています。3年度入試も志願者数1,809名・志願倍率3.51倍(専願・前期入試)と高水準でした。コロナ禍や新入試制度導入等の不安定な状況下でも、国公立(九州大二桁合格目標達成)・難関私大等の進学実績や就職実績は良好な水準を維持しています。

■ 志願者・入学者・志願倍率推移



■ 合格者推移



■ 就職状況推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
就職対象者	77	73	69	50	72	84	68	77	89	103	70
就職希望者	77	73	69	50	72	84	68	77	89	103	70
就職希望率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
就職者	77	73	68	50	72	84	68	77	89	103	70
就職率	100%	100%	98.6%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

就職対象者: 卒業者数 - 進学者数

▶ 国公立大学にⅡ類(普通科一般)クラス19名、工業科クラス6名が合格と実績が大きく向上しています。就職率は8年連続100%を達成しました。

ICTを効果的に活用。進学・就職成績向上対策、キャリア教育がっそう充実・積極化

早朝・放課後学習会、難関大特別学習会、資格取得支援、模擬面接等、種々の進学・就職成績向上対策を対面・オンライン併用で実施しています。また、生徒が自分の将来を主体的に考える機会として、キャリア教育、環境教育、ボランティア体験、海外研修等、実体験教育も充実・積極化しています。

■進学・就職対策、キャリア教育の様子



九州大学出前講義の様子



進路研究会の様子



ベトナム領事館訪問(グローバル教育)



高大連携授業(i-STEM教育)の様子



国家資格シーケンス制御技能士18名合格(前年に続き福岡県トップの成績)



電気科生徒(第二種電気工事士資格取得者)の新体育館のコンセント取付け作業体験

▶ コロナ禍でも「学びを止めない」ためにICTを活用しました。臨時休校中の授業動画配信・添削指導(Microsoft Teams等を活用)のほか、オンライン教材「スタディサプリ」を導入し、対面授業再開後も予習・復習に活用しています。

生徒の主体的学びを重視。課外での生徒会活動・地域貢献活動が活発化

生徒会活動や地域貢献活動は、「人間性・社会性を育む重要な教育の機会」と考えています。生徒は協働し、目標達成や課題解決に向けて主体的・実践的に取り組み、その活動はっそう活発化しています。

■活発な生徒会活動・部活動の様子



ラブアースクリーン活動(和白干潟・新宮海岸清掃)の様子



コミセンわじろ(福岡市東区)にアルコール噴霧器を設置(ロボット競技プロジェクト)



オンライン百人一首クラスマッチ(古典文化への興味・関心の向上を目的)



熊本県天草市(株)江良水産様のPR動画作成(生徒研究発表プロジェクト・映像クリエイターチーム)



チアリーディング部 西日本チアリーディング選手権大会5位入賞



2020相撲ロボット製作コンテスト最優秀賞(自立型)・早原夢恭さん(宮若西中学)、同優秀賞・小申康太さん(席田中学)

▶ 生徒の「身体・心のケア」(感染拡大防止・防疫意識啓蒙含む)に重点的に取り組んでいます。毎朝の生徒全員の検温実施など健康状態の記録・管理の徹底、スクールカウンセラーを増員し生徒と保護者からの相談への対応等を行っています。

〈学会表彰〉令和2年度卒業証書・学位記授与者

■大学院

田上 真央(工学研究科 修士課程 生命環境化学専攻、三井高校)

2019年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会 九州地区講演会 優秀口頭発表賞

吉見 聖太(工学研究科 修士課程 知能機械工学専攻、慶成高校)

日本機械学会 三浦賞

西村 涼(工学研究科 修士課程 電気工学専攻、春日高校)

2019年度電気設備学会 九州支部賞

吉開 雄紀(工学研究科 修士課程 情報通信工学専攻、福島高校)

電子情報通信学会 九州支部 学術奨励賞

池尻 晃基(工学研究科 修士課程 情報システム工学専攻、朝倉高校)

2020年日本生体医工学会 九州支部学術講演会 研究奨励賞

東中 一樹(工学研究科 修士課程 情報システム工学専攻、嘉穂高校)

第20回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 優秀講演賞

■大学

森田 敦也(工学部 電子情報工学科、筑紫高校)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

中島 大吾(工学部 電子情報工学科、下関工業高校)

国際会議 ICPEA2020 Best Presentation Award

荒木 泰賀(工学部 生命環境化学科、長崎南高校)

表面技術協会九州支部 優秀学生賞

石原 滉基(工学部 生命環境化学科、武岡台高校)

日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞

古賀 雄大(工学部 生命環境化学科、木更津高校)

日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞

西田 拓翔(工学部 生命環境化学科、北筑高校)

資源・素材学会 Outstanding Student Award, Kyushu MMIJ

陣内 楓(工学部 知能機械工学科、修猷館高校)

日本機械学会 畠山賞

小林 正人(工学部 知能機械工学科、島原工業高校)

日本機械学会 九州支部 優秀講演賞

坂本 航(工学部 電気工学科、八幡南高校)

電気学会 九州支部長賞

伏原 貴生(情報工学部 情報工学科、香椎工業高校)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

住吉 竜弥(情報工学部 情報通信工学科、糸島高校)

電気情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

下柳田 千晶(情報工学部 情報システム工学科、指宿高校)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

桐原 めぐみ(情報工学部 システムマネジメント学科、新宮高校)

電子情報通信学会 九州支部 成績優秀賞

長崎 美紅(情報工学部 システムマネジメント学科、古賀竟成館高校)

日本経営工学会優秀学生賞

■短大

山口 裕正(情報メディア学科、西南学院高校)

電気学会 九州支部長賞

〈卒業時学業成績優秀者〉

小野 彩華(工学部 電子情報工学科、筑紫高校)

米田 祥広(工学部 生命環境化学科、大島高校)

陣内 楓(工学部 知能機械工学科、修猷館高校)

井手 健太郎(工学部 電気工学科、福岡舞鶴高校)

伏原 貴生(情報工学部 情報工学科、香椎工業高校)

内村 将大(情報工学部 情報通信工学科、鹿児島情報高校)

下柳田 千晶(情報工学部 情報システム工学科、指宿高校)

足立 茉由(情報工学部 システムマネジメント学科、春日高校)

江口 栄颯(社会環境学部 社会環境学科、文化学園大学杉並高校)

〈学生表彰〉

■個人表彰(上期)※

なし

■個人表彰(下期)

柴田 亮(工学研究科 修士課程 電子情報工学専攻、附属城東高校)

国際会議CPESE2020 (The 7th International Conference on Power and Energy System Engineering) Best Oral Paper Award

中島 大吾(工学部 電子情報工学科、下関工業高校)

国際会議ICPEA2020 (2020 3rd International Conference on Power and Energy Applications) Best Presentation Award

牧野 励弥(情報工学部 情報工学科、小倉南高校)
 第14回全九州トランポリン競技選手権大会
 大学生以上 男子の部 優勝
 第14回全九州トランポリン競技選手権大会
 オープン 男子の部 優勝
 第14回全九州トランポリン競技選手権大会
 男子の部 最高跳躍点賞

中根 秀人(情報工学部 情報システム工学科、杵築高校)
 発明・工夫コンテスト 特別賞

青山 小春(情報工学部 情報システム工学科、福岡女学院高校)
 発明・工夫コンテスト 特別賞
 第10回 サイエンス・インカレ 東京エレクトロン賞

前川 優太(情報工学部 情報システム工学科、小郡高校)
 発明・工夫コンテスト 特別賞

市村 香菜子(情報工学部 情報システム工学科、高等学校卒業程度認定)
 第10回 サイエンス・インカレ 東京エレクトロン賞

チャン ソヨン(情報工学部 情報システム工学科、韓国)
 第10回 サイエンス・インカレ 東京エレクトロン賞

■団体表彰(上期)※

なし

■団体表彰(下期)

ラグビー部
 第28回九州学生ラグビーリーグ戦I部 優勝

準硬式野球部
 第24回九州地区大学準硬式野球 秋季大会 3位

吹奏楽団
 第14回福岡県アンサンブルコンテスト 大学の部 金賞

※新型コロナウイルス感染拡大により、上期の学生表彰を中止しました。



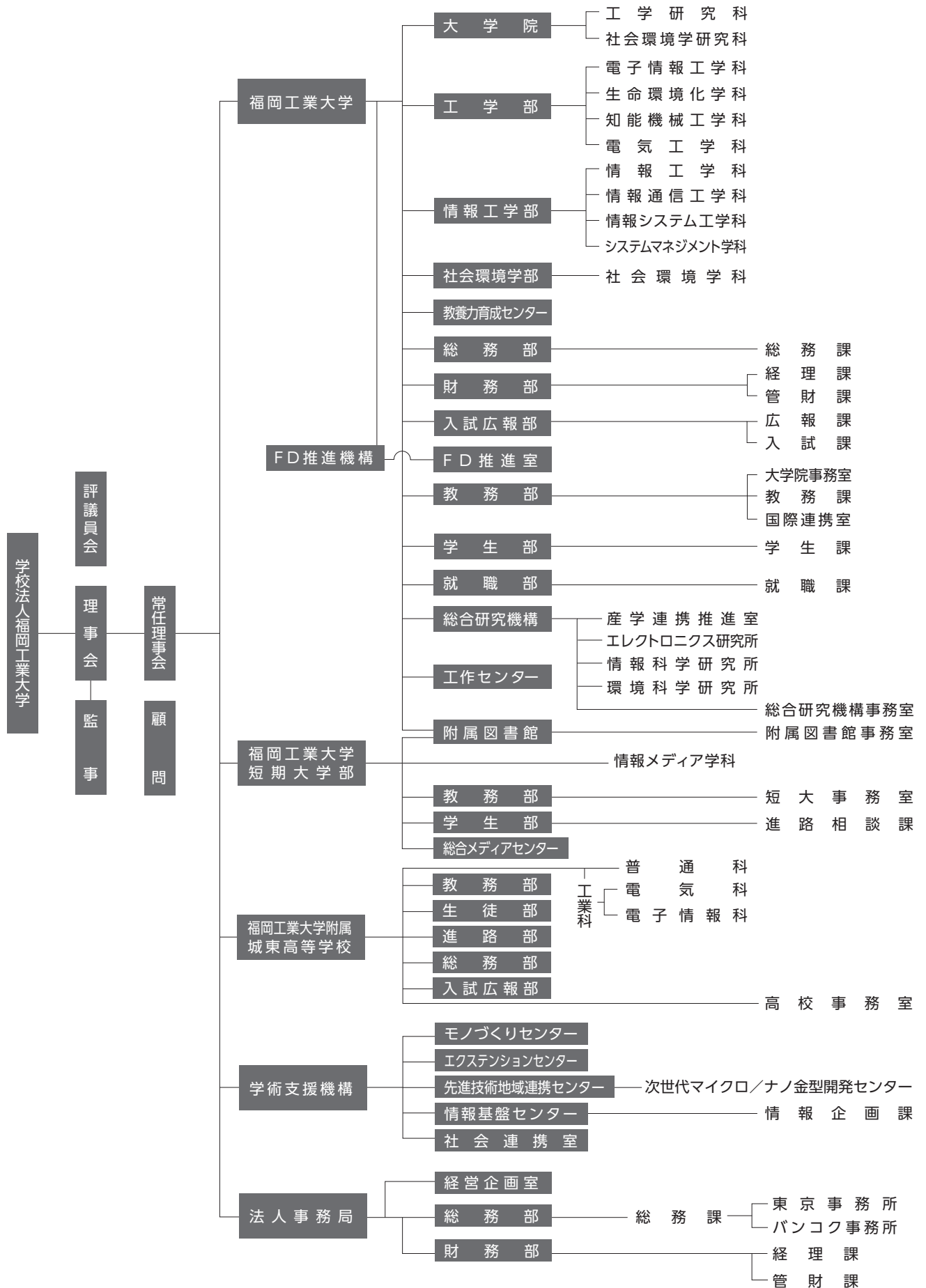
下期学生表彰



ラグビー部



準硬式野球部



役員等の状況 令和3年4月1日現在

■役員一覧

①理事[定数9～13、実数11(1号2名、2号2名、3号7名)]

役職等名	区分※	氏名	常勤	兼職名
理事(理事長)	3号	大谷 忠彦	○	
理事(常務理事)	3号	山下 剛	○	
理事	1号	下村 輝夫	○	福岡工業大学・同短期大学部学長
理事	1号	佐伯 道彦	○	附属城東高等学校長
理事	3号	川口 敏弘	○	財務部長
理事	2号	江頭 公成	—	
理事	2号	小幡 修	—	
理事	3号	川原 正孝	—	
理事	3号	園田 勇	—	
理事	3号	高田 洋征	—	
理事	3号	森 紀久雄	—	

②監事[定数2～3、実数2]

役職等名	区分※	氏名	常勤
監事	—	吉戒 孝	—
監事	—	和志武 三樹男	—

③評議員[定数19～27、実数24(1号4名、2号3名、3号3名、4号14名)]

役職等名	区分※	氏名	兼職名
評議員	1号	下村 輝夫	福岡工業大学・同短期大学部学長
評議員	1号	佐伯 道彦	附属城東高等学校長
評議員	1号	梶原 寿了	福岡工業大学教授
評議員	1号	阿山 光利	福岡工業大学教授(就任時点)
評議員	2号	正司園 博行	
評議員	2号	園田 勇	
評議員	2号	中野 武志	
評議員	3号	伊東 鐘賛	
評議員	3号	井上 和広	
評議員	3号	松本 香奈美	
評議員	4号	池田 悦雄	
評議員	4号	内田 一徳	
評議員	4号	江頭 公成	
評議員(理事長)	4号	大谷 忠彦	
評議員	4号	小幡 修	
評議員	4号	川口 敏弘	財務部長
評議員	4号	川原 正孝	
評議員	4号	神田 豊	
評議員	4号	高田 洋征	
評議員	4号	藤原 満	
評議員	4号	松永 利明	
評議員	4号	森 紀久雄	
評議員(常務理事)	4号	山下 剛	
評議員	4号	松本 友行	

※1号理事：学長・校長、同2号：評議員、同3号：学識経験者
1号評議員：学長・校長、同2号：卒業生、同3号：父母、同4号：学識経験者

■部科長一覧

職名	氏名
工学部長	村山 理一
情報工学部長	前田 洋
社会環境学部長	藤井 洋次
工学研究科長	江口 啓
社会環境学研究科長	松藤 賢二郎
教務部長	倪 宝栄
学生部長	中川 智治
就職部長	中川 智治
附属図書館長	木室 義彦
情報基盤センター長	利光 和彦
モノづくりセンター長	数仲 馬恋典
エクステンションセンター長	利光 和彦
総合研究機構長	朱 世杰
入試広報部長	大山 和宏
教養力育成センター長	土屋 麻衣子
電子情報工学科長	近木 祐一郎
生命環境化学科長	桑原 順子
知能機械工学科長	高津 康幸
電気工学科長	松尾 敬二
情報工学科長	福本 誠
情報通信工学科長	杉田 薫
情報システム工学科長	山口 明宏
システムマネジメント学科長	田嶋 拓也
社会環境学科長	渡邊 智明
エレクトロニクス研究所長	三田 肇
情報科学研究所長	山澤 一誠
環境科学研究所長	李 文忠
産学連携推進室長	朱 世杰

設置学部・学科/専攻概要 令和3年4月1日現在

設置校	学部・研究科名	学科名	設置コース	教育研究上の目的	
大学	工学部	電子情報工学科		現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。	
		生命環境化学学科	生命環境化学基盤コース 生命環境化学アドバンスコース	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物学的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。	
		知能機械工学科		情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。	
		電気工学科		日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。	
	情報工学部	情報工学科		コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システムLSIなどの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。	
		情報通信工学科		今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。	
		情報システム工学科		今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。	
		システムマネジメント学科		高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。	
	社会環境学部	社会環境学科	経営コース 地域コース	環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、社会の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。	
	大学院	工学研究科	物質生産システム工学専攻 (博士後期課程)		物質生産システム工学専攻は、電子物性工学、機能材料応用工学、エネルギーシステム工学及び設計生産システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。
			知能情報システム工学専攻 (博士後期課程)		知能情報システム工学専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。
電子情報工学専攻				現代社会は、コンピュータを先頭とした電子情報技術が著しく発達し、広く普及している社会である。本専攻では、広い視野に立って、電子情報工学の理論及び応用を教授、研究し、高度な専門知識を背景に、独創的な研究開発能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。	
生命環境化学専攻				本学の建学の綱領に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、科学技術や社会の進歩向上に寄与する人材を育成することを目的とする。具体的に本専攻では、広い視野に立って精深な学識を授け、物質工学及び生物工学を中心とした専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。	
知能機械工学専攻				機械工学は、ナノ・マイクロテクノロジーから巨大システムまで基盤となる技術を開拓していく学問分野です。機械工学はそれ自身の高度化、先進化及び微細化とともに電子情報技術の飛躍的な発達により機械の知能化が進んでいます。本専攻では機械工学の基礎分野の知識を十分修得した上で、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	
電気工学専攻				本専攻は電気系工学・技術の分野において活躍できる、高度の問題解決能力と研究開発能力を備えた技術者を育成することを教育の目的とする。このため工学部電気系学科修了程度の基礎知識を有する学生を対象に、進歩を続ける技術に長期的に対応して行けるよう電気関連主要分野の深い基礎理論を講究するとともに、並行してこの分野の先端的な研究テーマについての研究に取り組み創造的対応能力を培う。	
情報工学専攻				人工知能や集積回路、マルチメディアや画像処理、データベースやソフトウェア開発などの情報工学分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	
情報通信工学専攻				携帯電話や無線LAN、光ファイバ伝送などの情報伝送技術やインターネットなどの情報ネットワークの分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	
情報システム工学専攻				情報システム工学専攻は、少子高齢化社会で求められる様々な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者として求められる高度な学識と研究方法を習得し、情報社会の発展に役立つ研究課題を自ら探求して解決する能力を備えた人材の育成を目的とする。	
システムマネジメント専攻				システムマネジメント専攻は、経営、生産、情報メディアシステムに対して調査・分析・設計・評価に必要な工学的な諸手法について教授し、これらのシステムから得られる情報を有効に利用してシステムを構築・解析・最適化する能力を備えた人材の育成を目的に、教育研究を行う。	
社会環境学	社会環境学専攻		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。		
短期大学部		情報メディア学科		情報メディア学科は、情報教育を中心とした教育プログラムにより、高度にIT化された社会における即戦力となる情報活用能力を身につけた人材の育成に加え、社会の構成員として力強く生きていくためのリテラシーを身につけた人材を養成することを目的とする。	

教職員数 令和3年5月1日現在

■教員数

学校名 学部・学科名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部								
	合計			工学部			情報工学部			社会環境学部			合計			情報メディア学科		
男女別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教授	75	4	79	31	1	32	30	1	31	14	2	16	6	1	7	6	1	7
准教授	35	6	41	13	2	15	16	1	17	6	3	9	4	1	5	4	1	5
講師	3	0	3	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助教	15	6	21	9	3	12	5	1	6	1	2	3	2	0	2	2	0	2
合計	128	16	144	53	6	59	54	3	57	21	7	28	12	2	14	12	2	14
(うち外国籍教員)	11	3	14	5	0	5	4	2	6	2	1	3	2	0	2	2	0	2

■年齢区分別 教員数

学校名 学部・学科名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部								
	合計			工学部			情報工学部			社会環境学部			合計			情報メディア学科		
男女別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
29歳以下	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
30歳～39歳	22	4	26	9	1	10	7	2	9	6	1	7	2	0	2	2	0	2
40歳～49歳	39	10	49	14	5	19	21	0	21	4	5	9	2	0	2	2	0	2
50歳～59歳	47	2	49	20	0	20	19	1	20	8	1	9	5	2	7	5	2	7
60歳～69歳	18	0	18	8	0	8	7	0	7	3	0	3	2	0	2	2	0	2
70歳以上	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	128	16	144	53	6	59	54	3	57	21	7	28	12	2	14	12	2	14

■専任教員・非常勤教員比率

学校名 学部・学科名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部								
	合計			工学部			情報工学部			社会環境学部			合計			情報メディア学科		
男女別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
専任教員	128	16	144	53	6	59	54	3	57	21	7	28	12	2	14	12	2	14
(比率・%)	55.4%	37.2%	52.6%	53.0%	40.0%	51.3%	58.1%	27.3%	54.8%	55.3%	41.2%	50.9%	60.0%	28.6%	51.9%	60.0%	28.6%	51.9%
非常勤教員	103	27	130	47	9	56	39	8	47	17	10	27	8	5	13	8	5	13
(比率・%)	44.6%	62.8%	47.4%	47.0%	60.0%	48.7%	41.9%	72.7%	45.2%	44.7%	58.8%	49.1%	40.0%	71.4%	48.1%	40.0%	71.4%	48.1%
合計	231	43	274	100	15	115	93	11	104	38	17	55	20	7	27	20	7	27
(比率・%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

■職員数

学校名	福岡工業大学			福岡工業大学短期大学部		
男女別	男	女	計	男	女	計
専任職員	62	14	76	1	2	3
特定・嘱託・契約職員	12	46	58	0	4	4
派遣職員	1	9	10	0	0	0
合計	75	69	144	1	6	7

卒業・修了生累計、同窓会会員数

■卒業・修了生累計

56,536名 (令和3年3月31日現在)

学部 42,740名
大学院 1,603名
修士 1,537名
課程博士 62名
論文博士 4名

短期大学部 12,193名

■地域別同窓会会員数

(令和3年2月28日現在)

地域名	会員数	地域名	会員数
北海道・東北	28名	中国	2,954名
関東	805名	四国	1,144名
東海	304名	福岡県	15,083名
関西・北陸	681名	九州・沖縄(福岡県を除く)	7,921名
		合計	28,920名

令和2年度学位授与数

■学士・短期大学士授与数

学部等名	授与数
工学部	347
情報工学部	396
社会環境学部	170
短期大学部	162

■博士・修士授与数

研究科名	修士授与数	博士授与数
工学研究科	70	4
社会環境学研究科	3	-

■JABEEコース修了者数

コース名	修了者数
知能機械工学科	120
情報システム技術コース (情報システム工学科)	1

■大学、短期大学部在籍学生数

学部	学科	令和2年度									令和3年度		
		定員	現員	定員充足率	留年者数※	留年率	休学者	休学率	退学除籍者数	中退率	定員	現員	定員充足率
工学部	電子情報工学科	360	432	1.20	74	17.1%	28	6.5%	19	4.4%	360	433	1.20
	生命環境化学科	360	399	1.11	33	8.3%	14	3.5%	16	4.0%	360	410	1.14
	知能機械工学科	440	512	1.16	53	10.4%	15	2.9%	20	3.9%	440	503	1.14
	電気工学科	360	396	1.10	75	18.9%	34	8.6%	37	9.3%	360	420	1.17
	合計	1,520	1,739	1.14	235	13.5%	91	5.2%	92	5.3%	1,520	1,766	1.16
情報工学部	情報工学科	520	627	1.21	29	4.6%	11	1.8%	9	1.4%	520	610	1.17
	情報通信工学科	360	403	1.12	34	8.4%	11	2.7%	10	2.5%	360	420	1.17
	情報システム工学科	360	414	1.15	54	13.0%	23	5.6%	15	3.6%	360	405	1.13
	システムマネジメント学科	260	298	1.15	28	9.4%	13	4.4%	10	3.4%	260	294	1.13
	合計	1,500	1,742	1.16	145	8.3%	58	3.3%	44	2.5%	1,500	1,729	1.15
社会環境学部	社会環境学科	700	741	1.06	67	9.0%	16	2.2%	28	3.8%	700	730	1.04
福岡工業大学合計		3,720	4,222	1.13	447	10.6%	165	3.9%	164	3.9%	3,720	4,225	1.14
大学院	工学研究科(修士)	128	140	1.09	2	1.4%	2	1.4%	3	2.1%	128	142	1.11
	工学研究科(博士)	12	14	1.17	3	21.4%	4	28.6%	1	7.1%	12	10	0.83
	社会環境学研究科	12	8	0.67	2	25.0%	0	0%	0	0%	12	11	0.92
	合計	152	162	1.07	7	4.3%	6	3.7%	4	2.5%	152	163	1.07
福岡工業大学・大学院合計		3,872	4,384	1.13	454	10.4%	171	3.9%	168	3.8%	3,872	4,388	1.13
短期大学部	情報メディア学科(R2.4月新設)	160	183	1.14	28	15.3%	8	4.4%	17	9.3%	320	349	1.09
	情報メディア学科	105	130	1.24	8	6.2%	6	4.6%	10	7.7%	-	5	-
	ビジネス情報学科	55	60	1.09	7	11.7%	1	1.7%	8	13.3%	-	1	-
福岡工業大学短期大学部合計		320	373	1.17	43	11.5%	15	4.0%	35	9.4%	320	355	1.11

※卒業単位不足者+進級単位不足者の合計

■高等学校在籍生徒数

課程	令和2年度			令和3年度		
	定員	現員	定員充足率	定員	現員	定員充足率
普通科	1,050	1,350	1.29	1,050	1,354	1.29
電気科	300	237	0.79	300	203	0.68
電子情報科	300	405	1.35	300	389	1.30
福岡工業大学附属 城東高等学校合計	1,650	1,992	1.21	1,650	1,946	1.18

■収容定員充足率(経年比較)

学校名	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
大学	1.18	1.15	1.13	1.13	1.14
大学院	0.86	0.91	0.99	1.07	1.07
短期大学部	1.24	1.22	1.23	1.17	1.11
高校	1.28	1.26	1.2	1.21	1.18

■国別留学生数

	令和2年度									令和3年度						
	合計	中国	タイ	韓国	ベトナム	トンガ	アルバニア	ネパール	合計	中国	タイ	韓国	ベトナム	トンガ	アルバニア	ネパール
大学	14	7	1	2	3	1	0	0	14	7	1	2	2	2	0	0
短期大学部	4	1	0	2	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
大学院	54	42	9	1	0	0	2	0	42	35	5	0	0	0	2	0
研究生	5	3	1	1	0	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0
科目等履修生	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	78	53	12	6	3	1	2	1	60	45	7	2	2	2	2	0

令和3年度入試状況

■大学

学部	学科	定員	スペシャルスキル			専願制後期			推薦※1			一般(3教科型)※2			一般(共通テスト利用)※3			留学生			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	90	0	0	0	0	0	0	70	50	44	284	158	34	980	393	16	0	0	0	1,334	601	94
	生命環境化学科	90	0	0	0	6	1	1	51	41	31	223	171	34	710	427	44	3	2	0	993	642	110
	知能機械工学科	110	0	0	0	0	0	0	63	48	35	372	225	45	857	515	51	4	0	0	1,296	788	131
	電気工学科	90	0	0	0	0	0	0	62	52	43	272	198	47	795	514	41	0	0	0	1,129	764	131
	学部合計	380	0	0	0	6	1	1	246	191	153	1,151	752	160	3,342	1,849	152	7	2	0	4,752	2,795	466
情報工学部	情報工学科	130	2	2	2	9	0	0	155	74	73	525	154	32	1,206	270	27	3	0	0	1,900	500	134
	情報通信工学科	90	1	1	1	0	0	0	78	52	45	216	123	44	1,009	390	17	0	0	0	1,304	566	107
	情報システム工学科	90	0	0	0	3	1	1	64	45	40	380	128	34	1,097	413	19	3	0	0	1,547	587	94
	システムマネジメント学科	65	4	4	4	4	3	3	51	34	33	95	43	10	709	296	19	1	1	1	864	381	70
	学部合計	375	7	7	7	16	4	4	348	205	191	1,216	448	120	4,021	1,369	82	7	1	1	5,615	2,034	405
社会環境学部	社会環境学科	160	37	37	37	5	2	2	112	79	76	156	90	38	666	285	26	2	1	0	978	494	179
合計		915	44	44	44	27	7	7	706	475	420	2,523	1,290	318	8,029	3,503	260	16	4	1	11,345	5,323	1,050

※1 専願制(前期・後期)、公募制入試の合計 ※2 追加募集分を含む ※3 前期、中期、後期及びそれらの追加募集分の合計。社会環境学部は共通テスト併願型入試を含む。

■大学(編入学)

学部	学科	定員※	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	-	0	0	0
	生命環境化学科	-	0	0	0
	知能機械工学科	-	0	0	0
	電気工学科	-	0	0	0
	学部合計	-	0	0	0
情報工学部	情報工学科	-	26	10	10
	情報通信工学科	-	5	4	4
	情報システム工学科	-	2	2	2
	システムマネジメント学科	-	6	4	4
	学部合計	-	39	20	20
社会環境学部	社会環境学科	30	17	10	8
合計		-	56	30	28

※工学部、情報工学部の定員は「若干名」

■大学院

研究科	専攻	定員	一般※1			協定校※2			外国人※3			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	9	8	8	0	0	0	1	1	0	10	9	8
	生命環境科学専攻	8	6	6	5	0	0	0	0	0	0	6	6	5
	知能機械工学専攻	8	16	16	14	2	2	2	0	0	0	18	18	16
	電気工学専攻	8	11	9	9	1	1	1	0	0	0	12	10	10
	情報工学専攻	10	15	14	14	2	2	2	0	0	0	17	16	16
	情報通信工学専攻	8	9	9	9	0	0	0	0	0	0	9	9	9
	情報システム工学専攻	8	11	11	11	0	0	0	0	0	0	11	11	11
	システムマネジメント専攻	6	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1
工学研究科合計		64	77	73	70	6	6	6	1	1	0	84	80	76
社会環境学研究科	社会環境学専攻	6	2	2	1	2	2	2	4	3	3	8	7	6
修士課程合計		70	79	75	71	8	8	8	5	4	3	92	87	82
工学研究科(博士後期課程)	物質生産システム工学専攻	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	知能情報システム工学専攻	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
博士後期課程合計		4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1

※1 推薦入試、一次・二次入試の合計 ※2 キングモンフット工科大学(タイ)、南京理工大学(中国)、青島科技大学(中国) ※3 一次・二次入試の合計

■短期大学部

学科	定員	推薦※1			自己推薦			一般※2			一般(共通テスト利用)※3			留学生			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
情報メディア学科	160	88	87	82	36	17	17	202	115	68	100	65	16	0	0	0	426	284	183
合計	160	88	87	82	36	17	17	202	115	68	100	65	16	0	0	0	426	284	183

※1 専願制、公募制推薦入試の合計 ※2 一期、二期入試の合計 ※3 前期・中期・後期入試の合計

令和3年度県別・学部・男女別入学者一覧表 令和3年5月1日現在

地区	学部(学科)名 都道府県名	大学合計			工学部			情報工学部			社会環境学部			短期大学部合計			情報メディア学科		
		男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
北海道・東北	北海道	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
	青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	宮城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北関東・南関東	茨城県	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栃木県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	群馬県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	埼玉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	千葉県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東京都	4	0	4	1	0	1	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北陸・甲信越	新潟県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福井県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山梨県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	長野県	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東海	岐阜県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	静岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	愛知県	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	三重県	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
近畿	滋賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	京都府	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大阪府	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	兵庫県	3	0	3	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	奈良県	1	1	2	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	和歌山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国	鳥取県	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	島根県	3	0	3	0	0	0	2	0	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	岡山県	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	広島県	8	0	8	5	0	5	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	山口県	12	3	15	6	3	9	4	0	4	2	0	2	1	4	5	1	4	5
四国	徳島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	香川県	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	愛媛県	4	1	5	2	0	2	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0
	高知県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州	福岡県	609	93	702	257	43	300	260	26	286	92	24	116	103	29	132	103	29	132
	佐賀県	61	11	72	36	6	42	18	2	20	7	3	10	11	1	12	11	1	12
	長崎県	50	4	54	20	1	21	15	2	17	15	1	16	4	1	5	4	1	5
	熊本県	33	2	35	15	1	16	15	1	16	3	0	3	2	3	5	2	3	5
	大分県	40	5	45	20	4	24	9	1	10	11	0	11	3	2	5	3	2	5
	宮崎県	36	0	36	16	0	16	16	0	16	4	0	4	3	1	4	3	1	4
	鹿児島県	40	7	47	19	2	21	12	5	17	9	0	9	8	4	12	8	4	12
	沖縄県	5	2	7	1	0	1	3	2	5	1	0	1	1	0	1	1	0	1
その他 (外国卒・検定等)	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	920	130	1,050	405	61	466	365	40	405	150	29	179	138	45	183	138	45	183	

はじめに

大学の主要な取組成果

学校改革の具体的な取組状況

ファミリー・各設置校の状況

バックデータ集

広報活動

令和2年度パブリシティ掲載状況(研究活動・地域貢献活動)

掲載日	区分	掲載された活動内容(タイトル)	担当教員(所属職位: R2年度)	媒体(順不同)
4月1日	地域	武將と顔比べアプリ 福岡の学生、実証実験=長崎	情報システム工学科 山本真弘講師	読売新聞
4月20日	研究	(研究室探訪)福岡工業大学 工学部電子情報工学科松木研究室	電子情報工学科 松木裕二教授	日刊自動車新聞
4月23日	研究	「10分未満」の身体活動でも健康増進 高齢者の健康づくりに新提言「家で体を動かそう」	社会環境学科 榎崎兼司教授	朝日新聞デジタル&M・読売新聞オンライン・西日本新聞web・時事ドットコム 東洋経済オンライン・現代ビジネス・時事メディカル・PRESIDENT Online SEOTOOLS・マピオンニュース・ニコニコニュース・DIME(アットタイム) Cubeニュース・エキサイトニュース・Infoseekニュース・とれまがニュース niftyビジネス
5月6日	研究	巣ごもりでもすきま時間 運動で介護予防 健康調査で検証 新型コロナ	社会環境学科 榎崎兼司教授	西日本新聞
5月10日	研究	魔法の物質が舞う 大気中のマイクロプラスチック JNN[MOVE]	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	RKB(福岡)・NBC(長崎)・RKK(熊本)・OBS(大分) MRT(宮崎)・MBC(鹿児島)・RBC(沖縄)
5月18日	研究	大気中の汚染物質改善、コロナの影響か 福工大研究室	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	西日本新聞・Yahoo!ニュース・googleニュース・lineニュース livedoorニュース・ドコモDニュース・BIGLOBEニュース・gooニュース
5月19日	研究	大気中の汚染物質改善、コロナの影響か 福工大研究室	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	NHK福岡・TNC(福岡)
5月22日	研究	大気中の汚染物質改善、コロナの影響か	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	RKB(福岡)
5月24日	研究	「コソコソ運動」でコロナ影響下でも介護予防福工大+九大の研究	社会環境学科 榎崎兼司教授	朝日新聞
5月31日	研究	RKB報道SP「魔法の素材」が舞うープラスチック大気汚染」	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	RKBラジオ(福岡)
6月5日・26日	研究	家事10分で健康維持	社会環境学科 榎崎兼司教授	毎日新聞・シルバー新報
7月6日・7日	研究	大牟田豪雨災害について(取材)	社会環境学科 森山聡之教授	FBS「めんたいワイド」(福岡)
8月1日	研究	「報道特集」大気中にマイクロプラスチック	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	TBS
8月7日	地域	高齢者向け健康情報発信 福岡県篠栗町と福岡工業大学	社会環境学科 榎崎兼司教授	日経電子版
8月7日	地域	コロナ巣ごもり高齢者向け情報発信「篠栗元気もん情報」	社会環境学科 榎崎兼司教授	TVQ(福岡)
8月11日	地域	篠栗町と福工大が連携協定 高齢者の健康調査を推進 防災、まちづくり、人材育成も	社会環境学科 榎崎兼司教授	西日本新聞
8月13日	地域	福岡工大と篠栗町、課題解決で連携。	社会環境学科 榎崎兼司教授	日経新聞
8月19日	地域	まちづくりで連携協定 第1弾は介護予防 篠栗町と福工大	社会環境学科 榎崎兼司教授	毎日新聞
8月24日	研究	志賀島の魚死滅について取材	社会環境学科 乾隆帝准教授	KBC(福岡)
8月25日	研究	災对本部の密防ぐ情報共有システム	情報通信工学科 石田智行教授	RKB(福岡)
8月26日	研究	本学と大分大 AIを活用の医療促進で連携協定締結	情報システム工学科 徳安達士教授	日経新聞・大分合同新聞
8月31日	研究	コロナ「巣ごもり」高齢者の方々へ 行動変容型介護予防の情報発信	社会環境学科 榎崎兼司教授	読売新聞オンライン・朝日新聞デジタル&M・西日本新聞・東洋経済オンライン BIGLOBEニュース・DIME(アットタイム)・BtoBプラットフォーム・現代ビジネス PRESIDENT Online・CNET JAPAN・NewsCafe・SEOTOOLS・財經新聞 ニコニコニュース・小倉経済新聞・niftyビジネス・時事ドットコム・ORICON NEWS エキサイトニュース・Infoseekニュース
8月31日	研究	自治体災害対策本部の密防ぐ情報共有システム	情報通信工学科 石田智行教授	TBSニュース・毎日放送(関西)
9月1日	研究	八代市で球磨川支流を調査	社会環境学科 森山聡之教授	NHK熊本
9月3日・4日	研究	災害対策本部をクラウド化、福岡工大の石田研究室開発	情報通信工学科 石田智行教授	日経電子版・日経新聞朝刊
9月6日	研究	シカ食害で被害拡大? 社会環境森山先生 球磨川の支流調査 熊本豪雨	社会環境学科 森山聡之教授	熊本日日新聞
9月15日	研究	災害避難 コロナで変容 密回避で行き先分散	情報通信工学科 石田智行教授	西日本新聞
10月19日	研究	社会環境学科 榎崎教授研究 篠栗町と「元気情報」を発信	社会環境学科 榎崎兼司教授	大学新聞
10月24日	研究	発掘ゼミ!!「大気中のマイクロプラスチック」	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	RKB(福岡)
11月1日	研究	ドキュメント人類VSプラスチック	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	BS-TBS
11月16日	研究	西日本新聞「ふくおか散歩」に研究紹介	社会環境学科 榎崎兼司教授	西日本新聞
12月25日	研究	災害時の自治体対応の課題(取材)	情報通信工学科 石田智行教授	FBSめんたいワイド(福岡)
1月12日	研究	SDGs 2030年の世界へ「空気中に微量プラスチック、実態は」	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	TBS WEB
1月19日	研究	AIが津波計測	電子情報工学科 盧存偉教授	大学新聞
1月21日・24日	研究	避難所運営をデジタルで効率化する新システムを開発	情報通信工学科 石田智行教授	Infoseekニュース・BIGLOBEニュース・(株)PR TIMES・財經新聞 大学ジャーナルon-line
1月30日・2月6日	研究	発掘ゼミ!!「超臨界流体」松山研究室	生命環境化学科 松山清准教授	RKB(福岡)
2月19日	研究	「防災GO®」ゲームで避難ルート学ぶアプリを開発	社会環境学科 森山聡之教授・上杉昌也准教授	読売新聞オンライン・朝日新聞デジタル&M・時事ドットコム・iza 産経デジタル 西日本新聞WEB・東洋経済オンライン・PRESIDENT Online・BEST TIMES BIGLOBEニュース・STRAIGHT PRESS・ニコニコニュース・NewsCafe Infoseekニュース
2月22日	研究	ウェアラブルデバイス	情報システム工学科 李知炯助教	毎日新聞
2月23日	研究	避難ルート学習アプリ「防災GO」紹介	社会環境学科 森山聡之教授・上杉昌也准教授	KBC「シリタカ」・KBC「touch」(福岡)
2月23日・24日	研究	遊んで学べるアプリ「防災GO」とは	社会環境学科 森山聡之教授・上杉昌也准教授	Yahoo!ニュース
2月28日	研究	NHKスペシャル 2030 未来への分岐点「プラスチック汚染の驚異」	環境科学研究所 永淵修客員教授・中澤磨研究員	NHK
3月1日	研究	飽くなき「探究心」で社会課題解決へ/大学発イノベーション	情報通信工学科 石田智行教授	ふくおか経済
3月5日	研究	「構造色無機ナノシート」を開発	生命環境化学科 宮元展義准教授	読売新聞オンライン・朝日新聞デジタル&M・iza 産経デジタル・西日本新聞WEB 日刊工業新聞 電子版・時事ドットコム・STRAIGHT PRESS・Infoseekニュース PRESIDENT Online・ニコニコニュース
3月10日	研究	小型ピーコックで避難所管理(研究紹介)	情報通信工学科 石田智行教授	RKB「タダイマ」(福岡)
3月10日	研究	自治体の災害対応を支援～震災体験基に福岡で研究	情報通信工学科 石田智行教授	Yahoo!ニュース・Gooニュース
3月18日	研究	球磨川の被災森林について専門家が現地調査	社会環境学科 森山聡之教授	熊本日日新聞
3月20日	研究	避難所運営、ICT活用 電波発受信機とスマホ連携、福工大・石田研究室	情報通信工学科 石田智行教授	毎日新聞

■募集・広報活動等関連指標の推移

項目	年度	H23 (H24年度入試)	H24 (H25年度入試)	H25 (H26年度入試)	H26 (H27年度入試)	H27 (H28年度入試)	H28 (H29年度入試)	H29 (H30年度入試)	H30 (R1年度入試)	R1 (R2年度入試)	R2 (R3年度入試)
志願者数	人数	5,218	5,590	6,343	6,564	6,939	9,564	9,949	10,874	12,585	11,345
H Pセッション数	件数	-	391,751	434,342	532,252	589,973	702,812	715,404	764,196	901,398	1,136,355
パブリシティ掲載	件数	-	-	-	226	268	381	175	204	306	338

令和2年度進路状況 令和3年3月卒業者

■大学

学部名	学科名	卒業者数 ※1	就職希望者数	就職内定者数	大学院進学者数	就職率 ※2	実就職率 ※3
工学部	電子情報	74	65	65	8	100%	98.5%
	生命環境	83	71	70	8	98.6%	93.3%
	知能機械	120	103	103	15	100%	98.1%
	電気	67	56	56	9	100%	96.6%
	学部合計	344	295	294	40	99.7%	96.7%
情報工学部	情報	151	134	134	14	100%	97.8%
	情報通信	84	73	73	9	100%	97.3%
	情報システム	91	76	76	12	100%	96.2%
	システムマネジメント	69	64	64	0	100%	92.8%
	学部合計	395	347	347	35	100%	96.4%
社会環境学部	社会環境	168	154	153	2	99.4%	92.2%
大学合計		907	796	794	77	99.7%	95.7%

※1 前期卒業者を除く ※2 就職率=就職内定者数/就職希望者数 ※3 実就職率=就職内定者数/(卒業者数-大学院進学者数)

■大学院修士課程

専攻名	修了者数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率	実就職率
電子情報	7	6	6	0	100%	85.7%
生命環境	5	5	5	0	100%	100%
知能機械	12	12	12	0	100%	100%
電気	5	5	5	0	100%	100%
情報	3	3	3	0	100%	100%
情報通信	9	7	7	0	100%	77.8%
情報システム	16	16	16	0	100%	100%
システムマネジメント	2	1	1	0	100%	50.0%
社会環境	2	1	0	0	0%	0%
大学院合計	61	56	55	0	98.2%	90.2%

※前期修了者を除く

■短期大学部

学科名	卒業者数	就職希望者数	就職内定者数	進学者数	就職率	実就職率
情報メディア	113	45	45	57	100%	80.4%
ビジネス情報	49	31	31	11	100%	81.6%
短大合計	162	76	76	68	100%	80.9%

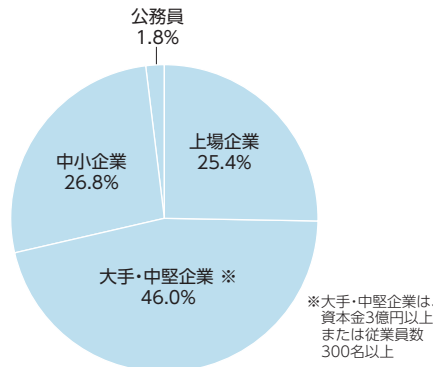
■短期大学部 編入学実績一覧

学科名	編入希望者数	編入決定者数				編入決定率	うち、情報・工学系への編入	
		国公立大学	福岡工業大学	私立大学	合計		人数	割合
情報メディア学科	56	11	21	24	56	100%	51	91.1%
ビジネス情報学科	12	0	5	6	11	91.7%	1	9.1%
合計	68	11	26	30	67	98.5%	52	77.6%

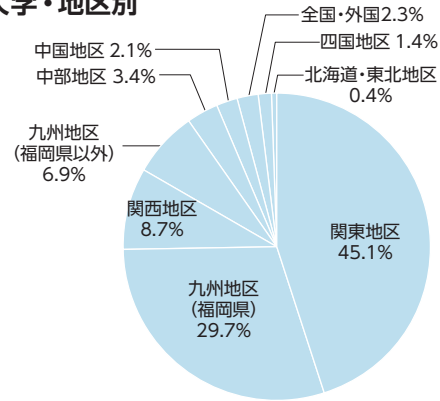
■短期大学部 編入学合格者・進学者一覧

大学種別	学校名	学部	合格者数 (延べ数)	大学種別	学校名	学部	合格者数 (延べ数)
国公立大学	九州工業大学	情報工学部	1	私立大学 (その他)	中村学園大学	流通科学部	2
	鹿児島大学	工学部	3		九州産業大学	理工学部	6
	佐賀大学	理工学部	3		九州産業大学	芸術学部	3
	北九州市立大学	国際環境工学部	2		西日本工業大学	デザイン学部	2
	香川大学	創造工学部	1		久留米工業大学	工学部	3
	琉球大学	工学部	2		九州共立大学	経済学部	1
	高知大学	理工学部	1		久留米大学	商学部	1
	千葉大学	工学部	1		久留米大学	経済学部	2
	札幌市立大学	デザイン学部	1		九州情報大学	経営情報学部	6
合計			15	日本文理大学	工学部	1	
私立大学 (福岡工業大学)	福岡工業大学	情報工学部	20	大阪電気通信大学	総合情報学部	1	
	福岡工業大学	社会環境学部	6	関東学院大学	理工学部	1	
				東京通信大学	情報マネジメント学部	1	
合計			26	サイバー大学	IT総合学部	2	
				合計			32
				総合計			73

■大学・企業規模別

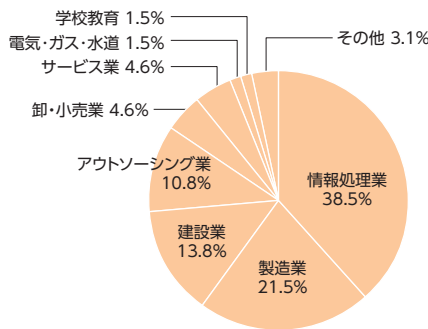


■大学・地区別



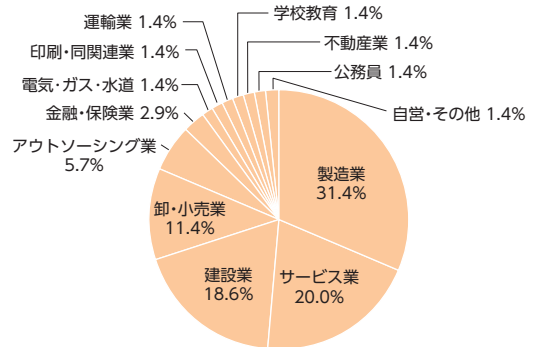
電子情報工学科

太平電業株式会社/協和エクシオ/新日本空調株式会社/株式会社でん/株式会社九電工/日本電子材料株式会社/三菱ロジテック株式会社/株式会社アマダホールディングス/三和シャッター工業株式会社/関西電力株式会社/日本システムウェア株式会社/株式会社ステナ/サイバーコム株式会社/WDB工業株式会社/西部電機株式会社/旭情報サービス株式会社/株式会社SIG/株式会社エスト/日本サードパーティ株式会社/西日本エレベーター株式会社/株式会社ケン・エンジニアリング/株式会社エナ/株式会社電盛社/株式会社再春館製薬所/株式会社アイ・エス/アドバンテックテクノロジー株式会社(旧オムロン直方株)/株式会社キューヘン/株式会社ジャパンセミコンダクター大分事業所/矢崎総業株式会社/トヨタ福岡株式会社/日本アイ・ピー・エム株式会社/株式会社富士通ピー・エス・シー/株式会社キール/日本テクニカルシステム株式会社/株式会社富士通エフサス/新日本コンピュータマネジメント株式会社/コムシス株式会社/株式会社ソリューションズ西日本/Gcomホールディングス株式会社/株式会社九州日立システムズ/株式会社サンテック/株式会社イノス/SCSK九州株式会社/株式会社スコウイング/株式会社システムオーディット/株式会社九州ソフト/株式会社RKKコンピュータサービス/カワサキロボットサービス株式会社/株式会社ドローテック/株式会社アステックペイントジャパン/福岡工業大学附属城東高等学校/三菱電機システムサービス株式会社/株式会社映像システム/株式会社エー・シーエレベーター株式会社/株式会社メテックフィルダース/トーテックアメニティ株式会社など



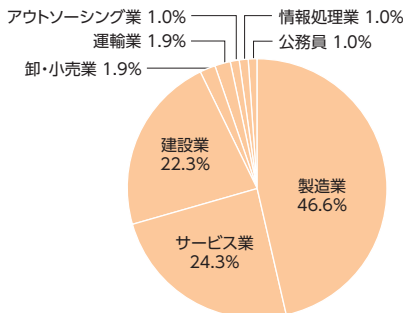
生命環境化学学科

山九株式会社/太平電業株式会社/株式会社九電工/株式会社高田工業所/エムイーシーテック株式会社/三菱化学エンジニアリンググループ株式会社/株式会社大阪防衛建設社/パナソニックLSテクノロジーサービス株式会社/新日本熱学株式会社/株式会社(株)原建設/平和扶桑テック株式会社/山崎製パン株式会社/株式会社ヤマコ/株式会社フランソア/リョーユーパングループ/丸屋飲料工業株式会社/株式会社原本家/露島酒造株式会社/株式会社全教研/矢崎化学株式会社/ニチパンメディカル株式会社/株式会社HACCPジャパン/株式会社再春館製薬所/九州製鋼株式会社/不二精機株式会社/株式会社日立産機システム/豊前東芝エレクトロニクス株式会社/株式会社戸畑ターレット工作所/東洋ビューティ株式会社/丸東産業株式会社/株式会社アリス(旧厚木プラスチック株式会社)/西川物産株式会社/コトキ製紙株式会社/日本ガス株式会社/福岡倉庫株式会社/福岡給油施設株式会社/株式会社西原商会/株式会社コスモス薬品/株式会社Wizナップス/株式会社パーライフ/福岡トヨペット株式会社/株式会社福岡銀行/株式会社グランディーズ/北九州市公立学校教員(中学)/株式会社フェイスグループ/公益財団法人秋田県総合保健事業団/福岡県商工会連合会/イカリ消毒株式会社/非破壊検査株式会社/株式会社ファンダム/計測検査株式会社/株式会社真淨淨祭/新日本非破壊検査株式会社/大谷化学工業株式会社/株式会社フリーダム/株式会社アビスト/株式会社リクルートR&Dスタッフィング/株式会社ソノ・アルファ/福岡市役所など



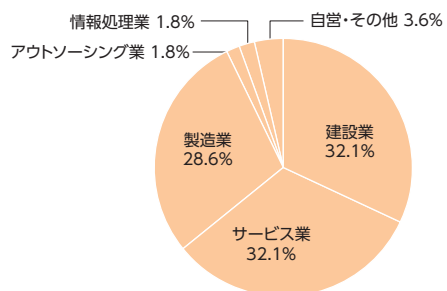
知能機械工学科

山九株式会社/株式会社大気社/三機工業株式会社/協和エクシオ/住友電設株式会社/ファースト住建株式会社/株式会社九電工/株式会社サンテック/株式会社高田工業所/日本設備工業株式会社/JFEエンジニアリング株式会社/エムイーシーテック株式会社(三菱化学エンジニアリンググループ)/株式会社明電エンジニアリング/新菱冷熱工業株式会社/野里電気工業株式会社/パナソニックLSエンジニアリング株式会社/栗原工業株式会社/西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社/光陽無線株式会社/株式会社(株)ミゾタ/旭化成株式会社/アイカ工業株式会社/株式会社システム/株式会社三井スタンピング/吉川工業株式会社/酒井重工業株式会社/株式会社河生産プラットフォーム/株式会社日本設計工業/西島株式会社/株式会社ワガテック/株式会社ヒカリ/株式会社フジマックネオ/不二精機株式会社/三友機器株式会社/株式会社藤取製作所/東亜工機株式会社/株式会社三井ハイテック/エスティケイテクノロジー株式会社/メルコパワーデバイス株式会社/株式会社ユーション/日産車体株式会社/日産自動車株式会社/フジテック株式会社/日立Astemo株式会社/株式会社ティア/デンソーテック株式会社/株式会社菱機工業株式会社/株式会社東洋シート/東プレ九州株式会社/東洋ホイス株式会社/九州小島株式会社/株式会社フタバ九州/株式会社大島造船所/九州精密工業株式会社/三和シャッター工業株式会社/ユニ・チャームプロダクツ株式会社/株式会社九州イノアック/パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社/西日本旅客鉄道株式会社/ヤンマーアグリジャパン株式会社/九州支社/株式会社新光/株式会社エレベーターサービスホールディングス株式会社/株式会社第一メカテック/三菱電機エンジニアリング株式会社/三菱電機ビルテクノサービス株式会社/株式会社エー・シーエレベーター株式会社/パーソルネクステージ株式会社/株式会社アクティオ/非破壊検査株式会社/株式会社研設計/株式会社アウトソーシングテクノロジー/航空自衛隊など



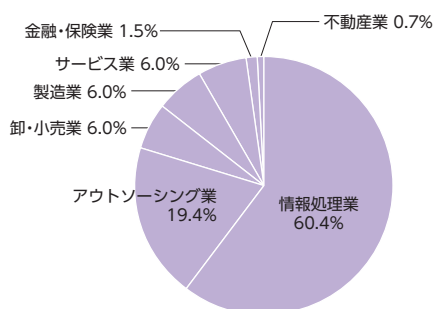
電気工学科

太平電業株式会社/株式会社でん/株式会社積水ハウス株式会社/株式会社前澤エンジニアリングサービス株式会社/株式会社HEXELWorks/株式会社日設/三菱電機プラントエンジニアリング株式会社/東光電気工事株式会社/パナソニックLSエンジニアリング株式会社/栗原工業株式会社/西日本電気システム株式会社/大和リース株式会社/東洋エンジニアリング株式会社/株式会社サンエ社/西日本プラント工業株式会社/西日本技術開発株式会社/グンゼ株式会社/株式会社ネクステージ/三進工業株式会社/株式会社川本製作所/富士電機株式会社/三井ハイテック株式会社/日立パワーソリューションズ株式会社/ナサ工業株式会社/ホシデン九州株式会社/空研工業株式会社/メルコパワーデバイス株式会社/マツダ株式会社/日立Astemo株式会社/矢崎総業株式会社/山口工業株式会社/株式会社ホンダロック/株式会社サンレイズ/イオンディスプレイ株式会社/株式会社エー・シーエレベーター株式会社/株式会社日立ハイテクフィールディング/株式会社日立システムズ/三菱電機ビルテクノサービス株式会社/小松開発工業株式会社/一般財団法人九州電気保安協会/株式会社Suprievなど



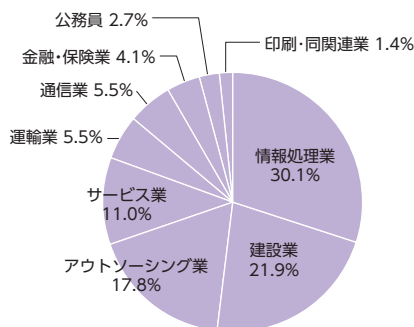
情報工学科

(株)ヨコオ/大和冷機工業(株)/(株)サムソン/(株)ケイティーエス/(株)朋栄/丸東産業(株)/(株)セガ/(株)ダイア空調/GMOインターネット(株)/NECネットエスアイ(株)/NECフィールドینگ(株)/SCSK(株)/(株)NSD/(株)アイティフォー/(株)システナ/日本システムウェア(株)/(株)アルファシステムズ/富士ソフト(株)/(株)SIG/(株)YEDIG/ITL/ジャパンシステム(株)/(株)フォーカスシステムズ/日本ラッド(株)/CTCテクノロジ(株)/サン情報サービス(株)/チームラボ(株)/デジタル・インフォメーション・テクノロジ(株)/ネットソフト(株)/パーソナルプロセス&テクノロジ(株)/ハイテクシステム(株)/(株)ISTソフトウェア/(株)SCC/(株)SKB/(株)イー・アイ・ソル/(株)エイチ・エル・シー/(株)スタイル・フリー/(株)ティエム2/(株)テクノ情報システム/(株)日立産業制御ソリューションズ/三菱電機インフォメーションネットワーク(株)/日本ソフト技研(株)/日本情報通信(株)/コムシス(株)/(株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ/協立システム開発(株)/(株)アドヴァンスト・インフォメーション・デザイン/(株)三菱コンピュータース/(株)両備システムズ/(株)ダイコIWS/(株)データロジック/Gcomホールディングス(株)/SCSK九州(株)/グローバルプレインズ(株)/サンケンフォーキャスト(株)/ユニティ・ソフト(株)/(株)BCC/(株)FILOT/(株)システムプラネット/(株)シティアコム/(株)ソフトサービス/(株)ソフネット/(株)ディジテック/(株)ニシコン/(株)パイオニア・ソフト/(株)ヒューマンテクノシステムホールディングス/(株)リサーチアンドソリューション/(株)日本コンピュータ・アソシエーツ/(株)富士通九州システムズ/日本システムスタディ(株)/木村情報技術(株)/ユニバーサルソフト(株)/(株)南日本情報処理センター/ダイワボウ情報システム(株)/アプライド(株)/リコージャパン(株)/(株)コスモス薬品/(株)成城石井/(株)ジャパンネットワークグループ/(株)トライアルカンパニー/(株)ミクニ/(株)親和銀行/福岡びびき信用金庫など



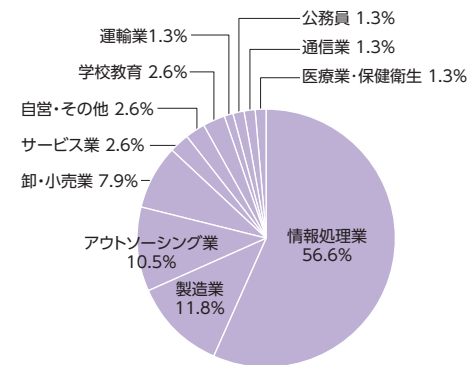
情報通信工学科

サンワコムシスエンジニアリング(株)/(株)ミライト/(株)協和エクシオ/山九(株)/日本コムシス(株)/(株)九電工/西部電気工業(株)/(株)YSKEN/佐藤建設工業(株)/日本エレクトロニクスシステムズ(株)/(株)ミヅタ/河野電気(株)/(株)エンファム/GMOインターネット(株)/(株)NSD/(株)富士通マーケティング/CTCテクノロジ(株)/SETソフトウェア(株)/宇宙技術開発(株)/SHINKO/(株)アイオス/(株)アクシス/(株)エイエイエス/(株)ココト/(株)サンシステムズ/(株)ユー・エス・イー/富士インフォックス・ネット(株)/コムシス(株)/(株)日立ソリューションズ西日本/TIS西日本(株)/(株)NTTデータNCB/(株)スミリオン/(株)ネットワーク応用技術研究所/(株)コスモウェブ/オンテッドリー/(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ/(株)NTTフィールドテクノ/(株)ドコモCS四国/(株)ハイスコア/西日本旅客鉄道(株)/(株)九州丸和ロジスティクス/日本貨物鉄道(株)/西日本シティ銀行(株)/(株)佐賀銀行/ニッセイ・ウェルス生命保険(株)(旧マシムチュアル生命保険)/エス・イー・シーエレベーター(株)/パーソルネクステージ(株)/(株)NHKテクノロジーズ/(株)エージーエコーポレーション/(株)テレ・テクニカル・リソース/三菱電機システムサービス(株)/宮崎ケーブルテレビ(株)/(株)アウトソーシングテクノロジ(株)/(株)エイジエック/(株)メイトックフィルダーズ/日研トータルソリューション(株)/トータックアメニティ(株)/(株)アスパーク/(株)ニップス/(株)テクノクリエイティブ/航空自衛隊/山口県警察本部など



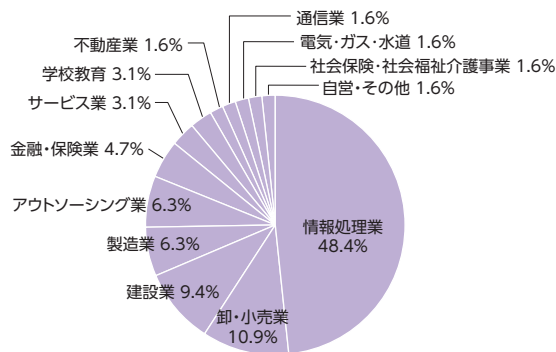
情報システム工学科

(株)ヤマナミ麺芸社/I・T・O(株)/(株)再春館製菓所/西島(株)/ヤンマー建機(株)/サクサ(株)/デンソーテクノ(株)/(株)朋栄/西川ゴム工業(株)/ヴィスコ・テクノロジーズ(株)/(株)ISIDインターテクノロジ/NECフィールドینگ(株)/(株)PRTIMES/(株)システナ/(株)ジャステック/(株)アルファシステムズ/富士ソフト(株)/(株)ゼンリン/NESCソリューション/ノベータ(株)/NECプラットフォームズ(株)/アイコムシステム(株)/コンピューターサイエンス(株)/ネットソフト(株)/メディアジョイント(株)/(株)タウン・システム/三菱電機インフォメーションネットワーク(株)/中央システム(株)/東京コンピュータサービス(株)/日本自動化開発(株)/富士電機ISTソリューション(株)/日立情報通信エンジニアリング(株)/センコー情報システム(株)/(株)テクノモバイル/FFGコンピュータサービス(株)(旧福岡コンピュータサービス(株))/キャノンアルゴロジック(株)/グローバルプレインズ(株)/サンケンフォーキャスト(株)/(株)BCC/(株)KBKプラス/(株)NTTデータNCB/(株)インフォメックス/九州NSソリューションズ(株)/木村情報技術(株)/(株)RKKコンピュータサービス/ソフトマックス(株)/(株)NTTフィールドテクノ/福岡倉庫(株)/リコージャパン(株)/岩田産業(株)/(株)ワークマン/MXモバイリング(株)/山口日産自動車(株)/タンスのゲン(株)/一般社団法人福岡県歯科医師会/福岡県公立学校教員(中学)/(株)ROOFTOP/(株)シノケンオフィスサービス/(株)アグレックス/(株)アルプス技研/パーソナルR&D(株)/(株)VSN/(株)アウトソーシングテクノロジ/太良町役場など



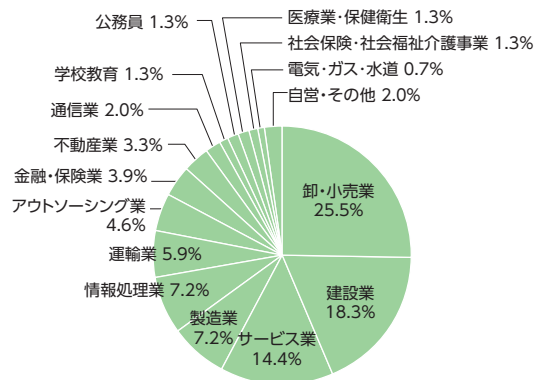
システムマネジメント学科

前田道路(株)/(株)九電工/(株)LibWork(リブワーク)/中島工業(株)/昭電テックス(株)/千代田計装(株)/一井工業(株)/(株)矢野特殊自動車/(株)ホギメディカル/ユニ・チャームプロダクツ(株)/久留米ガス(株)/SCSK(株)/ネットワンシステムズ(株)/(株)システナ/(株)メンパース/CTCシステムマネジメント(株)/コンピューターサイエンス(株)/シグマトロン(株)/ソフトウェア情報開発(株)/ハイテクシステム(株)/(株)ISTソフトウェア/(株)コーテック/(株)システム・サイエンス/(株)セントラル情報センター/(株)タウン・システム/日本コンピュータ(株)/富士通エフサスシステムズ(株)/京セラコミュニケーションシステム(株)/eBASE-PLUS(株)/ナビオコンピュータ(株)/NDSシステムソリューションズ(株)/フォーサイトシステム(株)/ユニティ・ソフト(株)/(株)アズテック・スマートソリューションズ/(株)イノス/(株)カスターネット/(株)システムニシツウ/(株)ソフトサービス/西部ガス情報システム(株)/NBC情報システム(株)/日本情報クリエイト(株)/(株)NTTフィールドテクノ/(株)ニッセイコム/キャタピラー九州(株)/(株)オーレック/コネクシオ(株)/(株)あさひ/コストコホールセールジャパン/トヨタカローラ福岡(株)/ワイジェイカード(株)/(株)不動産のデパートひろた/日本年金機構/学校法人佐世保実業学園佐世保実業高等学校/常盤高等学校/独立行政法人高齢・障害者・求職者雇用支援機構/(株)アクティオ/(株)VSN/(株)アウトソーシングテクノロジ/(株)エイジエック/(株)テクノプロテクノ・デザイン社(旧シーテック)など



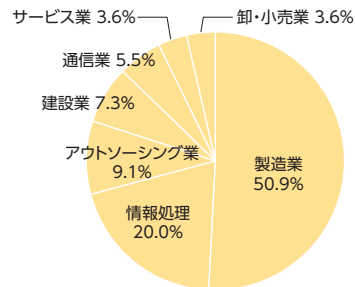
社会環境学科

サンワコムシステムエンジニアリング㈱/前田道路㈱/東洋建設㈱/大和ハウス工業㈱/ファースト住建㈱/㈱九電工/㈱サンテック/扶桑電通㈱/山崎製パン㈱/㈱イチネンケミカルズ/サクサ㈱/㈱かわでん/㈱ベルシステム24/エン・ジャパン㈱/ヤマト運輸㈱/日本通運㈱/㈱サカイ引越センター/㈱九州丸和ロジスティクス/小野建機/英和㈱/北恵㈱/㈱メディカルシステムネットワーク/㈱ベスト電器/㈱ナフコ/㈱筑邦銀行/㈱福岡銀行/㈱十八銀行/㈱鹿児島銀行/㈱アーネストワン/日本ハウスインダストリー/医療法人 塚病院/日本年金機構/学校法人福岡工業大学/福岡市立香椎第二中学校/こばやし農業協同組合/イオンデベロップメント/㈱ワールドインテック/㈱コプロ・ホールディングス/航空自衛隊など



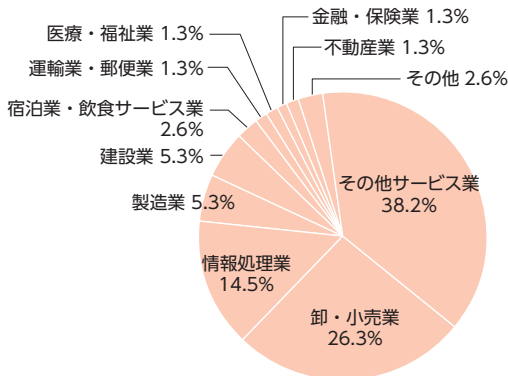
大学院

㈱ミライト/㈱協和エクシオ/水道機工㈱/㈱ドコモCS中国/信越ポリマー㈱/富士フィルム和光純薬㈱/酒井重工業㈱/ミネベアミツミ㈱/㈱GSユアサ/㈱三井ハイテック/国電南端科技股有限公司/㈱日立産機システム/㈱BlueForce/万利数字能源股份有限公司/クアーズテック㈱/ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱/三菱自動車工業㈱/本田技研工業㈱/㈱デンソー/㈱東海理化電機製作所/マレリ㈱/デンソーテック/㈱/㈱ウチダ/富士通㈱/京セラ㈱/佐賀エレクトロニクス㈱/テルモ山口㈱/SCSK㈱/㈱メンバース/日本システムウェア㈱/日本ラッド㈱/㈱ココト/三菱UFJトラストシステム㈱/センコー情報システム㈱/シズメックスCNA㈱/九電ビジネスソリューションズ㈱/Sansan㈱/日本電信電話㈱/㈱NTTフィールドテクノ/西日本電信電話㈱(NTT西日本)/日商エレクトロニクス㈱/㈱コスモス薬品/ソニーLSIデザイン㈱/㈱日産アーク/WDB㈱エウレカ社/㈱アスパーク/㈱アノウ・アルファなど



短期大学部

イオンデベロップメント/山崎製パン㈱/三機工業㈱/㈱コスモス薬品/㈱マイスターエンジニアリング/サイバーコム㈱/㈱平山/㈱ヤマダ電機/イオン九州㈱/㈱アビスト/リックス㈱/㈱日本電子/㈱アスパーク/MXモバイリング㈱/㈱エイジェック/三和ニューテック㈱/㈱九州ソフタス/㈱アソウ・アルファ/㈱阿部情報技術研究所/㈱イメージ/㈱エム・アンド・アイ/㈱リスティングサービス/㈱サンテック/㈱クリエイティブグループ/㈱再春館製薬所/(株)日本トラフィックサービス/正晃(株)/(株)吉川システック/日本ステリ㈱/㈱ネスト/医療法人福和会別府歯科医院/遠賀信用金庫など



主要進学先 令和3年3月卒業生

(敬称略・順不同)

■大学院

- 九州大学 大学院システム情報科学府
大学院システム情報科学研究院(知能ソフトウェア工学研究室)
- 北海道大学大学院 先端生命科学研究院 博士後期課程
- 福岡工業大学大学院 工学研究科 博士後期課程

■大学

- 徳島大学大学院 栄養生命科学教育部 博士前期課程
- 福岡教育大学大学院 教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)
- 九州工業大学大学院 生命体工学研究科 博士前期課程
- 九州工業大学大学院 情報工学府 博士前期課程
- 東邦大学大学院 理学研究科 修士課程
- 福岡工業大学大学院 工学研究科 修士課程
- 福岡工業大学大学院 社会環境学研究科 修士課程

■短期大学部

- 九州工業大学 情報工学部
- 北九州市立大学 国際環境工学部
- 鹿児島大学 工学部
- 佐賀大学 理工学部
- 千葉大学 工学部
- 琉球大学 工学部

- 関東学院大学 理工学部
- 西日本工業大学 デザイン学部
- 久留米工業大学 工学部
- サイバー大学 IT総合学部
- 九州共立大学 経済学部
- 久留米大学 商学部
- 久留米大学 経済学部
- 九州情報大学 経営情報学部

- 福岡工業大学 情報工学部
- 福岡工業大学 社会環境学部
- 中村学園大学 流通科学部
- 日本文理大学 工学部
- 九州産業大学 理工学部
- 九州産業大学 芸術学部

研究活動

■外部研究資金の取得実績推移

(単位:千円)

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
共同研究	金額	14,219	6,375	11,083	10,507	10,355	37,472	18,403	26,517	26,933	14,650
	件数	14	11	15	14	18	19	21	21	31	21
受託研究	金額	16,116	6,535	13,113	8,781	14,625	18,106	42,203	35,650	119,094	76,957
	件数	8	6	9	6	11	13	13	7	14	19
奨学寄付金	金額	3,500	5,133	500	7,949	18,635	14,426	17,200	11,222	20,270	19,520
	件数	5	5	1	9	20	16	15	10	31	23
科学研究費補助金	金額	43,030	60,970	53,690	71,310	74,360	92,820	79,820	90,220	73,060	90,350
	件数	29	40	39	41	48	53	60	63	61	64
その他外部助成金	金額	1,566	5,439	23,570	653	540	0	1,620	0	3,850	550
	件数	2	5	10	4	1	0	2	0	18	26
合計	金額	78,431	84,452	101,956	99,200	118,515	162,824	159,246	163,609	243,207	202,027
	件数	58	67	74	74	98	101	111	101	155	153

■科学研究費申請・採択状況の推移(短期大学部含む、H27～特任教員含む)

(単位:件・%・千円)

	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
申請	申請総教員数	145	152	151	155	161	158	158	161	157	155	
	新規申請件数	57	61	61	69	71	78	91	82	86	80	
	申請率※1	39.3	40.1	40.4	44.5	44.1	49.4	57.6	50.9	54.8	51.6	
採択	総採択件数	29	40	39	41	48	53	60	63	61	64	
	内訳	新規	13	16	10	15	20	13	20	20	18	17
		継続	16	24	29	26	28	40	40	43	43	47
	採択率(新規)※2	22.8	26.2	16.4	21.7	28.2	16.7	22.0	24.4	20.9	21.3	
	採択率(新規+継続)※3	39.7	47.1	43.3	43.2	48.5	44.9	45.8	50.4	47.3	50.4	
	金額(千円)	43,030	60,970	53,690	71,310	74,360	92,820	79,820	90,220	73,060	90,350	

※1 申請率:新規申請件数/総教員数、※2 採択率(新規):新規採択件数/新規申請件数、※3 採択率(新規+継続):総採択件数/(新規申請件数+継続採択件数)

教育関係補助金の交付状況

■私立大学等経常費補助金の交付実績推移

(単位:千円)

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
一般補助	531,328	457,753	520,271	551,908	445,929	532,698	533,344	569,140	600,605	532,955
特別補助	99,322	94,815	96,906	137,690	168,196	160,145	241,195	232,182	160,019	168,328
合計	630,650	552,568	617,177	689,598	614,125	692,843	774,539	801,322	760,624	701,283
学生数(名) (大学・大学院・短期大学部)	4,810	4,811	4,695	4,694	4,806	4,757	4,834	4,821	4,764	4,757
学生1人あたり 経常費補助金	131	115	131	147	128	146	160	166	160	147

■令和2年度文部科学省補助金交付実績

(単位:千円)

文科省補助区分	事業名	交付額
私立学校情報機器整備費補助金	遠隔授業活用推進(Adobe ETLAプログラム他整備)事業	9,114
私立学校施設整備費補助金	障がいのある学生等への対応(B棟2・3階演習室出入口扉改修工事)	4,400
私立高等学校等ICT教育設備整備費推進事業費	ICT教育設備整備推進(HR・特別教室プロジェクター整備等)(高校)	18,902
私立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金	情報通信ネットワーク環境施設整備(校内無線LAN整備等)事業(高校)	15,000
合計		47,416

国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容						令和2年度交流学生数		令和元年度交流学生数	
			学術交流 (包括)	共同研究	学生交流	教育・研究者 交流	事務職員 交流	留学生 募集	本校から の派遣 (オンライン含む)	協定校学生 の受入 (オンライン含む)	本校から の派遣	協定校学生 の受入
米国	フットヒルカレッジ	1992	◎	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-
	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-
	サンノゼ州立大学	2015	◎	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-
	セントメアリーズカレッジカリフォルニア	2018	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	15
韓国	慶星大学校	1981	◎	-	◎	◎	◎	-	-	-	5	3
	亜洲大学校	1990	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	2
	啓明大学校工学部	2009	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	1
中国	大連理工大学	1988	◎	-	◎	-	-	◎	1	-	10	1
	南京理工大学	1993	◎	-	◎	-	-	-	-	8	7	9
	青島科技大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	6	-	10
	北華大学	2007	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-
台湾	国立高雄科技大学	2017	◎	◎	◎	◎	◎	-	21	59	6	-
タイ	キングモンクット工科大学ラカパン校	2008	◎	◎	◎	◎	◎	◎	18	44	21	27
	チュラロンコン大学理学部	2009	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-
	泰日工業大学	2017	◎	◎	◎	◎	-	-	2	-	-	-
オーストラリア	フェデレーション大学	2001	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	-
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	-
イタリア	ナポリ・フェデリコ2世大学	2018	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-
合計	18校								42	117	49	68

令和2年度資格取得実績

教員免許取得者数

免許種類	学部	科目	取得者数
高校一種	情報工学部	数学	10
	工学部	理科	7
	工学部	工業	1
	情報工学部	情報	1
	社会環境学部	公民	5
合計			24

免許種類	学部	科目	取得者数
中学校一種	情報工学部	数学	11
	工学部	理科	5
	社会環境学部	社会	1
合計			17

資格取得実績・大学

資格名称	合格者数
第二種電気主任技術者	1
第二種電気主任技術者一次試験合格	1
第三種電気主任技術者	5
第三種電気主任技術者(科目合格)	12
公害防止管理者(科目合格)	2
技術士(1次試験)	2
第一級陸上無線技術士	12
第一級陸上特殊無線技士	19
第二級海上特殊無線技士	17
第三級海上特殊無線技士	16
環境計量士(濃度関係)	1
危険物取扱者(乙種4類)	2
危険物取扱者(乙種5類)	1
機械保全技能士2級	3
基本情報技術者試験(FE)	2
基本情報技術者試験(FE)午前科目試験免除終了試験	8
応用情報技術者試験(AP)	3
ITパスポート	21
Microsoft Office Specialist Word	40
Microsoft Office Specialist Excel	44

資格名称	合格者数
Webクリエイター能力認定試験エキスパート	14
CCNA(Cisco Certified Network Associate)	5
日商簿記検定2級	3
日商簿記検定3級	18
リテールマーケティング(販売士)3級	22
中級バイオ技術者認定試験	14
2次元CAD利用技術者試験2級	26
eco検定(環境社会検定試験)	1
実用英語技能検定2級	1
合計	316

資格取得実績・短期大学部

資格名称	合格者数
Microsoft Office Specialist Word	3
Microsoft Office Specialist Excel	2
日商簿記検定3級	2
合計	7

附属施設①（ラーニング・ commonsの対応状況）

※R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による「緊急事態宣言発令」等に伴う入構制限及び遠隔授業実施のため、各施設の利用者は大幅に減少しています。

■学生用ラーニング commonsの設備状況（令和3年3月31日現在）

図書館席数	534
情報基盤センター席数	611
A棟フリー学修スペース席数	285
B棟フリー学修スペース席数	272
C棟フリー学修スペース席数	232
D棟フリー学修スペース席数	78
E棟フリー学修スペース席数	125
合計	2,137

■図書館蔵書数推移（H26以降、各年5月1日現在）

（単位：冊）

図書区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
和書	229,965	234,178	238,641	241,502	247,603	251,730	254,996	258,115
洋書	65,804	66,060	66,229	66,618	66,773	67,800	67,928	68,115
電子書籍（和・洋）	1,742	1,749	1,689	1,698	1,706	278	539	917
AV資料	3,341	3,357	3,635	763	768	774	781	781
合計	300,852	305,344	310,194	310,581	316,850	320,582	324,244	327,928

■図書館利用者数推移

（単位：人）

利用者区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
学内利用者	40,480	39,899	39,632	41,206	70,846	137,662	164,170	167,212	162,640	42,814
学外利用者	5,719	2,979	6,118	12,191	29,531	34,007	27,701	28,831	27,811	3
合計	46,199	42,878	45,750	53,397	100,377	171,669	191,871	196,043	190,451	42,817

■図書館資料アクセス数推移（H25以降）

（単位：回）

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
図書資料貸出数	14,630	13,172	15,332	16,384	16,477	15,603	13,800	6,451
電子書籍閲覧数	-	266	685	1,042	1,213	972	1,758	4,732
ホームページアクセス数	66,604	70,725	180,654	208,533	201,813	194,016	196,615	168,429
学術情報データベース・電子ジャーナル等アクセス数	80,448	247,423	107,659	164,322	141,045	212,091	205,754	129,265
合計	161,682	331,586	304,330	390,281	360,548	422,682	417,927	308,877

■情報基盤センターPC室稼働状況（授業・授業外）

授業利用：1コマ90分授業の利用回数／授業外利用：1コマ90分の資格取得講座・課外講座等

（単位：回）

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
授業利用数	2,063	2,423	2,621	2,988	2,595	2,457	3,113	3,086	2,993	1,251
授業外利用数	1,150	977	930	775	1,018	1,672	1,162	1,059	1,077	1,497
合計	3,213	3,400	3,551	3,763	3,613	4,129	4,275	4,145	4,070	2,748

■情報基盤センターPC利用状況推移（PC設置数：611台／B21,B22,B23,B24,B25,B31,B38 PC室／IT commons）

（単位：人・回）

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
利用者数	33,783	33,202	31,878	33,614	33,044	34,371	35,390	34,475	33,952	16,842
ログイン回数（延数）	389,999	391,240	408,066	421,330	414,000	371,624	399,088	330,996	324,720	85,172

■情報基盤センター高度情報化PC利用状況推移 (H28開設、PC設置数:48台)

(単位:人・時間)

スペース名	施設概要	(台)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
クリエイティブ・ラボ (情報基盤センター) (高度メディア制作・プロジェクト学習対応)	高性能・大画面PC	19	利用者数(延数)	2,747	4,002	3,628	4,728	425
	うち大型ペンタブレット併設	10						
	スキャナ対応高速カラープリンター	1	利用時間数	3,971	4,390	4,310	5,013	544
クリエイティブブース (図書館) (高度メディア制作・プロジェクト学習対応)	高性能・大画面PC	18	利用者数(延数)	14,999	15,740	12,790	12,513	3,131
	うち大型ペンタブレット併設	10						
	スキャナ対応高速カラープリンター	1	利用時間数	21,065	20,735	16,814	15,134	4,570
学修スペース (B棟3階) (高度メディア制作・プロジェクト学習対応)	高性能PC	11	利用者数(延数)	11,653	11,456	9,616	12,377	3,646
	両面対応プリンター	1						
	ホワイトボード(可動式・スクリーン掛け)	9	利用時間数	11,118	11,014	10,916	8,247	2,929

■myFIT(学生ポータルサイト)利用状況

	H28	H29	H30	R1	R2
利用者数(延数)	3,922,381	3,896,444	3,672,194	3,442,414	4,624,127

■無線LAN整備状況 (令和3年3月31日現在)

棟・教室等	AP設置数※	対応施設数	(うち、R2年度新規設置)
本部棟(図書館含む)	21	9	
FITアリーナ	4	4	
FITホール	9	4	
A棟	27	29	5
B棟	25	27	5
C棟	11	11	
D棟	11	12	2
E棟	17	10	
F棟	2	2	
α棟	4	4	
屋外	9	13	
合計	140	125	12

※AP:アクセスポイント

■大学のデジタル化に係る設備状況 (令和3年3月31日現在)

設備名等	構成、内容等
学修支援システム	myFIT (Universal Passport RX及びGAKUEN EX) による授業運営及び学生生活に係る諸手続きのデジタル化、FIT-AIM (学習ポートフォリオ)、FIT Moodle (myFIT補完LMS)、myFIT学生用スマートフォンアプリ、WingNet (情報基盤センターPC室向け)、FIT Replay (授業アーカイブシステム)
全学ライセンスソフトウェア	Microsoft 365 Education (一人:メールボックス(50GB)とOneDrive (1TB)による保存領域及びOffice及びTeams等を提供)、Adobe (20種以上)、MATLAB (60以上の全オプション)、Mathematica、各ソフトウェアは全ての学生所有PCで利用可
教員ソフトウェア	Dropbox (容量無制限ネットワークストレージ/研究等プロジェクト利用)
学生貸出PC・タブレット数	46台(ノートPC40台、iPad 6台)

■その他サポート状況 (令和3年3月31日現在)

職種	部門長	専任職員	特定嘱託	臨時職員	委託スタッフ	合計	備考
附属図書館(図書館員)	1	3	2		10	16	部門長:図書館長
情報基盤センター(情報技術員)	1	5	2	1		9	部門長:情報基盤センター長

附属施設②（その他のラーニングサポート関係施設）

※R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による「緊急事態宣言発令」等に伴う入構制限及び遠隔授業実施のため、各施設の利用者は大幅に減少しています。

■エクステンションセンター受講者数推移

(単位:人)

講座名	H29		H30		R1		R2	
	講座数	受講者数	講座数	受講者数	講座数	受講者数	講座数	受講者数
資格取得支援講座	32	761	29	692	26	669	19	535
文化教養講座	170	1,505	170	1,508	179	1,411	144	816
FIT講座	4	73	6	642	14	904	14	250
合計	206	2,339	205	2,842	219	2,984	177	1,601

※講座数は実開講数でカウントしています。

※資格取得支援講座に一般を含みます。(講座数・受講者数)

※文化教養講座・FIT講座に学生を含みます。(講座数・受講者数)

■モノづくりセンター利用者数推移

(単位:人)

利用者区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
学生プロジェクト	11,510	8,559	6,596	5,871	5,892	5,746	6,249	5,620	4,422	1,705
研究利用	165	383	375	410	504	485	534	672	624	400
一般利用	1,788	2,742	3,074	3,191	3,801	4,155	3,167	2,813	2,768	1,703
合計	13,463	11,684	10,045	9,472	10,197	10,386	9,950	9,105	7,814	3,808

課外活動

■令和2年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数
【体育会本部】	835	軟式野球部	42	【学術文化会】	709
硬式野球部(強化部)	114	バスケットボール部	47	吹奏楽団(強化部)	57
女子柔道部(強化部)	8	バドミントン部	39	アカペラ同好会	14
ラグビー部(強化部)	78	バレーボール部	39	All Round Music部	45
アイスホッケー部	11	パワーリフティング同好会	13	音楽研究部	77
アクションサッカー同好会	46	陸上競技部	13	音響部	26
弓道部	34	フットサル同好会(ファンタジア)	14	環境サークルオアシス部	39
剣道部	4	タッチラグビー同好会	13	写真部	126
硬式テニス部(硬式庭球部)	10	シーズンスポーツ同好会	55	情報技術研究部	26
硬式テニス同好会	48	少林寺拳法同好会	17	国際交流サークル(FIT-ICE)同好会	106
サバイバルスポーツ同好会	24			フォークソング研究部	38
自動車工学研究部	6			モダンアート部	12
男子柔道同好会	4			料理・スイーツ研究同好会	13
準硬式野球部	32			ロック部	27
水泳競技部	28			茶道部	10
相撲同好会	5			競技麻雀同好会	15
ソフトテニス部	30			福工大アンプラグド愛好会(アコギ)	19
卓球部	19			模型愛好会	17
ダンス同好会	29			人工知能開発研究愛好会	12
テコンドー部	13			釣愛好会	30

加入者総計 1,544名

■令和2年度モノづくりセンタープロジェクトメンバー数

プロジェクト名	メンバー数
ソーラーカー	13
ロボコン	13
ロボット相撲	11
手作りアクセサリ	7
二足歩行ロボット	14
4輪2輪メンテピット	44
公募 (Air Hockey Robotの開発)	11
公募(レゴからくり)	3
公募(衛星コン)	4
公募(ロボットアーム)	2
公募 (教育用味見ロボット開発)	2
公募 (高速度カメラを用いた教材開発)	4
公募 (アマチュア無線体験)	13
計	141

令和3年度学費・徴収金

■大学院

(単位:円)

研究科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学災保険料※	合計
工学研究科 (修士課程)	1年次	150,000	560,000	170,000	62,000	20,000	-	1,750	963,750
	2年次以降	-	560,000	170,000	62,000	20,000	-	-	812,000
工学研究科 (博士後期課程)	1年次	150,000	560,000	170,000	62,000	20,000	-	2,600	964,600
	2年次以降	-	560,000	170,000	62,000	20,000	-	-	812,000
社会環境学研究科	1年次	150,000	490,000	120,000	-	20,000	-	1,750	781,750
	2年次以降	-	490,000	120,000	-	20,000	-	-	630,000

※秋季入学生の学生教育研究災害傷害保険料:修士課程2,600円、博士後期課程3,300円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■大学

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	200,000	895,000	270,000	90,000	10,000	20,000	61,300	1,546,300
	2年次以降	-	895,000	270,000	90,000	10,000	20,000	-	1,285,000
社会環境学部	1年次	200,000	705,000	170,000	-	10,000	20,000	61,300	1,166,300
	2年次以降	-	705,000	170,000	-	10,000	20,000	-	905,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費28,000円、教育後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■短期大学部

(単位:円)

学科	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	640,000	160,000	100,000	5,000	15,000	27,750	1,117,750
	2年次以降	-	640,000	160,000	100,000	5,000	15,000	-	920,000

※学生諸費の内訳:学友会費10,000円、教育後援会費6,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円

部分は前・後期分納 教科書代が別途必要

■高等学校

(単位:円)

課程	学年	入学申込金	施設設備費	授業料	施設維持費	ICT教育推進費	実習費	図書費	教育充実費	諸会費・積立金※	合計
普通科	1年次	40,000	190,000	396,000	69,600	42,000	-	0	0	120,000	857,600
	2年次以降	-	-	396,000	69,600	42,000	-	0	0	120,000	627,600
電気科・電子情報科	1年次	40,000	190,000	396,000	69,600	42,000	12,000	0	0	120,000	869,600
	2年次以降	-	-	396,000	69,600	42,000	12,000	0	0	120,000	639,600

※諸会費・積立金の内訳:生徒会費18,000円、同窓会費1,200円、PTA会費16,800円、積立金84,000円

積立金は、1年次4月～2年次11月は修学旅行積立金として、2年次12月～2年次3月は卒業積立金として徴収。3年次は徴収しない。
その他の費用 PTA入会費:10,000円(入学年度のみ)、学年予納金:普通科44,305円、電気科・電子情報科45,805円(各年度)

部分は12か月分納 教科書代が別途必要

奨学費

■奨学費支出(福岡工業大学独自奨学金)推移

(単位:千円)

学校	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
福岡工業大学		198,129	202,805	185,849	187,992	187,834	206,702	213,593	215,747	210,086	229,138
福岡工業大学短期大学部		20,560	24,003	17,855	18,840	14,810	15,540	17,012	14,845	20,405	17,444
福岡工業大学附属城東高等学校		134,825	142,060	147,580	134,943	115,206	115,989	101,329	92,418	86,331	89,033
合計		353,514	368,868	351,284	341,775	317,850	338,231	331,934	323,010	316,822	335,615

■校地・校舎概要 (学園全体の校地面積：234,602㎡、同校舎面積：134,916㎡)

建物名	主な設備、用途	延床面積(㎡)	建築年
A棟	クリーンルーム、学生ホール、ラーニングコーナー、売店、講義室27、演習室14、実験室16、研究室79、卒研室34	18,360	平成13年
B棟	情報基盤センター、レストラン、コンビニ、保健室、カウンセリング室、講義室19、演習室11、実験室11、研究室44、卒研室22、インキュベーションスタジオ1	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、売店、書店、講義室8、実験室6、研究室27、卒研室23	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、実験室11、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
E棟	学生サポートセンター、フレッシュマンスクール、アクティブラーニングエリア、研究所、オープンラボ	6,884	平成28年
F棟	インキュベーションスタジオ2、研究スペース4	780	平成29年
α棟	モノづくりセンター、グローバルスチューデントラウンジ、ラーニングスペース、多目的ホール(収容人数200人)	1,750	平成11年
本部棟	FIT Link(図書館)、エクステンションセンター、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター、インキュベーションスタジオ3、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容員数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数196、収容人数238人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数87、収容人数160人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮(部屋数28、収容人数56人)	1,102	平成4年
附属城東高校1号館	J-STEP、放送室、職員室、研修室3、ミーティングルーム4	2,544	令和2年
附属城東高校2号館	校長室、事務室、保健室、スクールカウンセリング室、職員研修室、書道室、理科室2、音楽室、LL教室、家庭科室、キャリアサポートセンター、生徒相談室、教室35、特別教室、図書室、視聴覚教室、生徒会室、売店	15,364	昭和61年
附属城東高校3号館	工業科準備室、工業科実習室14、コンピュータ室4、普通教室18、特別教室4		
附属城東高校4号館	吹奏楽練習場、多目的ホール、部室	1,236	平成12年
附属城東高校体育館	メインフロア(収容定員数2,300人)、柔道場、剣道場、空手道場、男女更衣室、トレーニング室、多目的スペース2	7,526	令和2年
連絡歩道橋	連絡通路(1号館・体育館間)	10	令和3年
上善荘	調理室、実習室、茶室、宿泊室、セミナー室、多目的室	906	平成16年
和白グラウンド	高校部活動用地他	32,297	昭和37年
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	40,655	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、多目的グラウンド	38,188	平成23年
FITアリーナWESTコート	スポーツコート、相撲場	2,308	平成27年
FITセミナーハウス	課外研修・宿泊施設	1,310	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 (令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

収入の部		(単位:千円)
科 目	決 算 額	
学生生徒等納付金収入	6,607,228	
手数料収入	147,020	
寄付金収入	72,100	
補助金収入	1,659,455	
資産売却収入	1,000,000	
付随事業・収益事業収入	237,158	
受取利息・配当金収入	137,908	
雑収入	219,115	
借入金等収入	0	
前受金収入	2,196,850	
その他の収入	397,510	
資金収入調整勘定	△ 2,619,528	
前年度繰越支払資金	2,120,940	
収入の部合計	12,175,756	

支出の部

科 目	決 算 額
人件費支出	4,789,736
教育研究経費支出	2,049,096
管理経費支出	611,090
借入金等利息支出	2,480
借入金等返済支出	200,000
施設関係支出	2,594,463
設備関係支出	540,733
資産運用支出	0
その他の支出	317,597
資金支出調整勘定	△ 326,963
翌年度繰越支払資金	1,397,525
支出の部合計	12,175,756

■活動区分資金収支計算書 (令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

		科 目	決 算 額	
教育活動による預金収支	収入	学納金収入	6,607,228	
		手数料収入	147,020	
		特別寄付金収入	69,070	
		一般寄付金収入	3,030	
		経常費等補助金収入	1,600,933	
		付随事業収入	237,158	
	支出	雑収入	219,115	
		教育活動資金収入計	8,883,553	
		人件費支出	4,789,736	
		教育研究経費支出	2,049,096	
		管理経費支出	611,090	
		教育活動資金支出計	7,449,922	
		差引	1,433,631	
		調整勘定等	△ 13,319	
		教育活動資金収支差額	1,420,312	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	0	
		施設設備補助金収入	58,522	
		施設整備等活動資金収入計	58,522	
	支出	施設関係支出	2,594,463	
		設備関係支出	540,733	
		施設整備等活動資金支出計	3,135,196	
		差引	△ 3,076,674	
			調整勘定等	△ 47,315
			施設整備等活動資金収支差額	△ 3,123,989
			小計	△ 1,703,676
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	1,000,000	
		預り金収入	25,918	
		仮受金収入	11,859	
		その他収入	37,044	
		小計	1,074,821	
	支出	受取利息・配当金収入	137,908	
		その他の活動資金収入計	1,212,729	
		借入金等返済支出	200,000	
		その他の支出	29,988	
		小計	229,988	
		借入金等利息支出	2,480	
		その他の活動資金支出計	232,468	
		差引	980,261	
		調整勘定等	0	
		その他の活動資金収支差額	980,261	
		支払資金の増減額	△ 723,416	
		前年度繰越支払資金	2,120,940	
		翌年度繰越支払資金	1,397,525	

■事業活動収支計算書 (令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

(単位:千円)

		科 目	決 算 額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	6,607,228
		手数料	147,020
		寄付金	72,100
		経常費等補助金	1,600,933
		付随事業収入	237,158
	支出	雑収入	176,964
		教育活動収入計	8,841,402
		人件費	4,735,642
		教育研究経費	3,116,020
		管理経費	672,186
		徴収不能額引当金繰入等	0
		教育活動支出計	8,523,848
		教育活動収支差額	317,554
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	132,959
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	132,959
	支出	借入金等利息	2,480
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	2,480
		教育活動収支差額	130,479
		経常収支差額	448,033
特別収支	収入	資産売却差額	0
		その他の特別収入	101,428
		特別収入計	101,428
	支出	資産処分差額	151,617
		その他の特別支出	0
		特別支出計	151,617
		特別収支差額	△ 50,189
		基本金組入前当年度収支差額	397,844
		基本金組入額合計	△ 2,400,648
		当年度収支差額	△ 2,002,804
		前年度繰越収支差額	△ 10,519,343
		基本金取崩額	1,186
		翌年度繰越収支差額	△ 12,520,960
(参考)			
		事業活動収入計	9,075,789
		事業活動支出計	8,677,945

■貸借対照表 (令和3年3月31日現在)

資産の部

(単位:千円)

科 目	令和2年度末残高
固定資産	34,924,931
有形固定資産	26,301,150
土地	3,553,916
建物	16,804,328
構築物	1,479,774
教育研究用機器備品	3,075,388
その他の機器備品	156,930
図書	1,198,781
車両	32,033
建設仮勘定	0
特定資産	6,100,000
第3号基本金引当特定資産	1,500,000
退職給与引当特定資産	1,500,000
施設拡充引当特定資産	2,600,000
教育設備引当特定資産	500,000
その他の固定資産	2,523,781
有価証券	2,444,065
預託金、施設利用権など	79,716
流動資産	1,644,436
現金預金	1,397,525
未収入金	190,094
修学旅行預け金、前払金など	56,818
資産の部合計	36,569,367

負債の部

(単位:千円)

科 目	令和2年度末残高
固定負債	1,975,628
長期借入金	400,000
長期未払金	17,894
退職給与引当金	1,557,734
流動負債	3,044,020
短期借入金	200,000
未払金	300,080
前受金	2,196,850
預り金	284,484
仮受金	62,607
負債の部合計	5,019,648

純資産の部

(単位:千円)

科 目	令和2年度末残高
基本金	44,070,679
第1号基本金	41,966,679
第3号基本金	1,500,000
第4号基本金	604,000
繰越収支差額	△ 12,520,960
翌年度繰越収支差額	△ 12,520,960
純資産の部合計	31,549,719
負債及び純資産の部合計	36,569,367
減価償却額の累計額の合計額	15,678,896

教育・研究活動報告書(取組成果のご報告)アンケート

お手数ですが、下記の質問項目にご記入のうえ、FAXもしくは本学IRプロジェクト宛ご郵送ください。
(巻末のQRコードからも回答が可能です)該当する箇所に☑を記入してください。

I. この報告書をご覧になってどうお感じになりましたか。

十分に満足 満足 やや不満足 非常に不満足

II. 報告書の構成についてどうお感じになりましたか?

- ◆ 情報公表の度合い: 十分 不十分 (理由:)
- ◆ わかりやすさ: わかりやすい わかりにくい (理由:)
- ◆ 内容の充実度: 十分 不十分 (理由:)
- ◆ 読みやすさ: 読みやすい 読みにくい (理由:)
- ◆ ページ数: ちょうどよい 多すぎる 少なすぎる

III. この報告書の内容のうち、特に評価できるページや興味を持ったページをチェックしてください。 (3つまで選択してください)

- ごあいさつ(P01) マスタープランの取組状況・成果の概要(P03)
- 入学志願者・入学者の状況(P05) 教育力の発揮(P07) 研究の高度化(P09)
- 就職力の強化(P11) グローバル化の推進(P13) 地域貢献の推進(P15)
- 財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化(P17) 学校運営に対する外部評価(P19) 教育改善の取組(P21)
- 研究高度化の取組(P23) 就職支援の取組(P25) ラーニングサポートの取組(P27)
- キャンパスライフサポートの取組(P29) キャンパスの施設・設備(P31) 大学院の取組(P33)
- 短期大学の取組(P35) 附属城東高校の取組(P37) バックデータ集 (P39~)

IV. この報告書は本学のイメージアップに繋がると思われますか。

思う どちらともいえない 思わない(理由:)

V. 今後の学園運営に反映させたいと存じますので、この報告書に対するご感想・ご要望や、本学の取組に対する忌憚のないご意見をお聞かせください。

VI. あなたのプロフィールについてお聞かせください。

性別: 男性 女性
年代: 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

VII. この報告書をどのような立場でお読みになりましたか。

在学生 卒業生 在学生の保護者 卒業生の保護者 中学生・高校生の保護者 中学生・高校生
行政機関 企業 報道関係者 教員・塾・予備校講師 他大学関係者 地域住民 その他()

住所	〒 ー
氏名	(ふりがな)

※お預かりした個人情報及びアンケート内容はご本人の承諾なしに第三者に開示・提供することはありません。

送付先 〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30-1 福岡工業大学IRプロジェクト宛
FAX:(092)606-8923・TEL:(092)606-0619

皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください

福岡工業大学『令和2年度教育・研究活動報告書』をお読みいただきありがとうございました。
本学では、ご支援いただいております皆様に広く情報公表を行い、コミュニケーションを重ね、学園の諸活動をいっそう磨き高めたいと考えております。

『教育・研究活動報告書』を通じ、取組実績やそれらの外部評価について皆様にご理解いただけるようこれまでも努めて参りましたが、まだ課題も多く残されていると考えております。

お手数ではございますが、下記のQRコード(または、アンケート用紙)からアンケート(回答時間5~10分)にお進みいただき、ご回答くだされば幸甚に存じます。



ご回答をいただいた方の中から、抽選で100名様に図書カード(500円分)をプレゼントいたします。

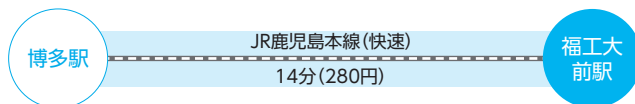
※お預かりした個人情報およびアンケート内容は、ご本人の承諾なしに第三者に開示・提供することはありません。当プロジェクトにて厳重に管理いたします。



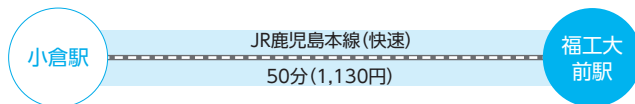
地下鉄+JR鹿児島本線



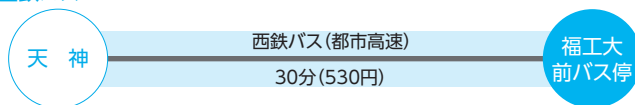
JR鹿児島本線



JR鹿児島本線



西鉄バス



※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

令和2年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

編集／福岡工業大学 IRプロジェクト

編集協力・印刷／久野印刷(株)

〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町大字旅石60番地32 TEL：092-410-5711 FAX：092-936-6262

発行／令和3年9月

福岡工業大学

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号 TEL：092-606-0619 FAX：092-606-8923



For all the students

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

工学部

電子情報工学科
生命環境化学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科(文系)

大学院

工学研究科
社会環境学研究科

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科

